

令和6年度

水環境における放射性物質のモニタリング結果（案）

第2部：福島県及び周辺地域の放射性物質モニタリング

令和7年11月

環境省

目 次

概要	1
福島県及び周辺地域の放射性物質モニタリング（令和6年度）	3
1. 本調査の目的及び実施内容	3
1. 1 本調査の目的	3
1. 2 実施内容	3
2. 調査方法及び分析方法	5
2. 1 調査方法	5
2. 2 分析方法	5
3. 調査結果	6
3. 1 放射性セシウム	6
3. 1-1 水質	6
(1) 公共用水域	6
1) 河川	6
2) 湖沼	6
3) 沿岸	6
(2) 地下水	6
3. 1-2 底質	10
(1) 検出状況	10
1) 河川	10
2) 湖沼	10
3) 沿岸	10
(2) 地点別にみた検出状況	14
1) 評価の考え方	14
2) 河川、湖沼、沿岸の底質における都県ごとの濃度分布及び増減傾向	15
2) -1 河川	15
2) -2 湖沼	33
2) -3 沿岸	49
2) -4 まとめ	59
3. 2 調査結果（放射性セシウム以外の核種）	68
3. 2-1 放射性ストロンチウム（Sr-90 及び Sr-89）	68
(1) 公共用水域	68
1) 底質	68
2) 水質	69
(2) 地下水	71
3. 2-2 その他の γ 線核種	72

概要

○調査の目的

東京電力福島第一原子力発電所事故（以下、「福島原発事故」という）を受けて、当該事故由来の放射性物質の水環境における存在状況の把握を目的として、福島県及び周辺地域において、公共用水域約600地点、地下水約400地点で、平成23年8月以降継続的に実施してきたモニタリングである（以下、「震災対応モニタリング」という）。

○調査結果

調査結果（本資料。速報をとりまとめ、確定値としたもの）については、学識者で構成する「水環境における放射性物質の常時監視に関する評価検討会」（第1部参照）の指導、助言を得て評価・確認している。

（1）公共用水域

＜水質＞（検出下限値：Cs-134、Cs-137ともに1Bq/L）

令和6年度の河川、湖沼、沿岸における放射性セシウム濃度及び検出率は、河川及び沿岸では全て検出下限値未満であり、湖沼では検出下限値未満～4.2Bq/L、検出率0.7%であった。

平成23年度からの推移をみると、河川（全試料数26,600以上）及び湖沼（全試料数17,300以上）では、検出率は全県とも減少傾向で推移し、福島県以外では平成25年度以降検出されていない。また、沿岸では、平成23年度から全ての調査（全試料数7,000以上）で検出されていない。

＜底質＞（検出下限値：Cs-134、Cs-137ともに10Bq/L）

底質中の放射性セシウム濃度は、経年的に緩やかな減少傾向がみられている。各水域（河川、湖沼、沿岸）別に、地点別・濃度別の割合¹について示す。

・河川

令和6年度は、396地点のうち検出下限値未満が96地点（24.2%）、10以上100Bq/kg未満が233地点（58.8%）、100以上1,000Bq/kg未満が65地点（16.4%）であり、100Bq/kg未満の地点が全体の約83%を占めていた。

・湖沼

令和6年度は、164地点のうち検出下限値未満が4地点（2.4%）、10以上100Bq/kg未満が44地点（26.8%）、100以上1,000Bq/kg未満が80地点（48.8%）であり、1,000Bq/kg未満の地点が全体の約78%を占めていた。

・沿岸

令和6年度は、42地点のうち検出下限値未満が14地点（33.3%）、10以上100Bq/kg未満が22地点（52.4%）、100以上1,000Bq/kg未満が6地点（14.3%）であり、100Bq/kg未満の地点が全体の約86%を占めていた。

＜放射性セシウム以外の核種＞

公共用水域の底質について、Sr-90の測定を実施した。底質においては、一部の地点で検出さ

¹ 底質の放射性セシウム濃度の地点別・濃度別割合は、地点ごとのCs-137平均値（検出下限値未満=5Bq/kg（検出下限値の1/2）として計算）を用いて算出した。

れているものの、比較的低いレベルで推移している。

（2）地下水

＜水質＞（検出下限値：Cs-134、Cs-137 ともに 1 Bq/L）

令和 6 年度の地下水において、放射性セシウムは全て検出下限値未満であった。

平成 23 年度からの推移をみると、地下水（全試料数 12,800 以上）では、平成 23 年度に福島県の 2 試料から検出された（検出値 2 Bq/L 及び 1 Bq/L）以外、平成 24 年度以降検出されていない。

＜放射性セシウム以外の核種＞

Sr-90 について、全地点において検出下限値未満であった。

福島県及び周辺地域の放射性物質モニタリング（令和6年度）

1. 本調査の目的及び実施内容

1. 1 本調査の目的

本調査は、福島原発事故を受けて、当該事故由来の放射性物質の水環境における存在状況を把握するために実施するものである。

1. 2 実施内容

（1）測定地点

調査は福島県を中心に周辺の都県で実施し、公共用水域については約 600 地点、地下水については約 400 地点で調査を実施した。なお、具体的な測定地点は図 1.2-1 に示すとおりである。

（2）測定の対象媒体

公共用水域（河川、湖沼及び沿岸）については、水質及び底質を対象媒体とした。また、この他、参考情報として、水質及び底質採取地点近傍の周辺環境（河川敷等）の土壤も併せて対象とした。また、地下水については水質を対象媒体とした。

（3）測定頻度及び期間

公共用水域については、地点によって年に 2～10 回の調査を実施した。

また、地下水については地点によって年に 1～4 回の調査を実施した。

（4）対象項目

対象とした試料について、主に Cs-134 と Cs-137 の分析を行った。なお、令和 6 年度水環境における放射性物質のモニタリング結果（本報告書）より、解析に用いる放射性セシウムの値を、前年度までの合計値（Cs-134+Cs-137）による方法から、Cs-137 の値に変更した。解析値は過年度分の解析も含め、Cs-137 を元に解析した値を示している。

また、一部の試料については、Sr-90 及びその他の人工核種等を対象とした分析を行った。

（5）結果の取りまとめ・評価

測定結果は、データが整ったものから速報値として環境省のホームページで公表している。

本資料は、過去の全調査結果を集約したものであり、個々の調査結果の詳細は、下記のホームページに掲載している。

公共用水域 : https://www.env.go.jp/jishin/monitoring/results_r-pw.html

地下水 : https://www.env.go.jp/jishin/monitoring/results_r-gw.html

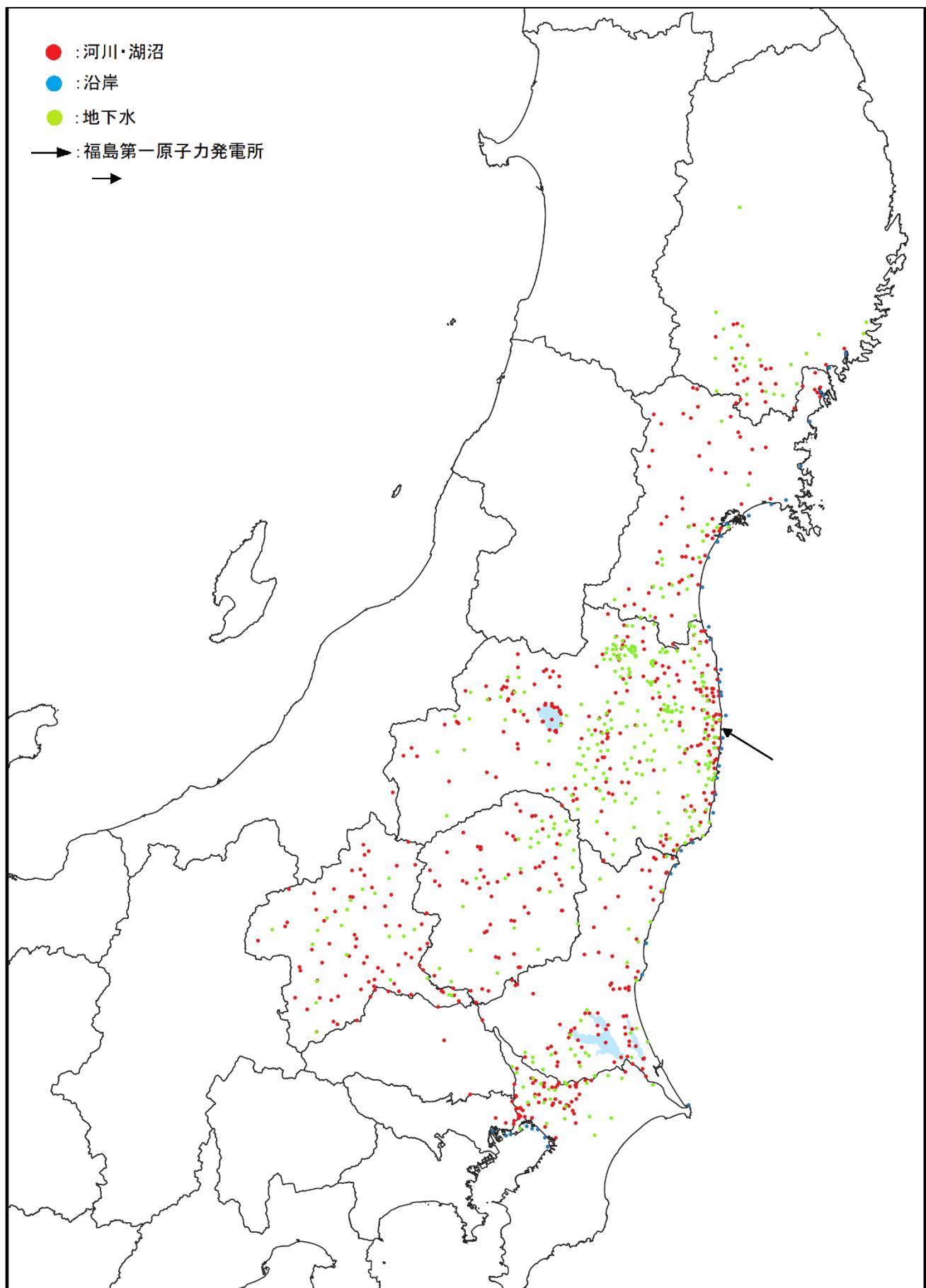


図 1.2-1 令和6年度震災対応モニタリングの調査地点図

2. 調査方法及び分析方法

2. 1 調査方法

所定の地点（公共用水域及び地下水採取地点）において、対象とした試料を採取し、下記の放射性物質の分析を行った。

試料の採取においては、以下の調査指針等に基づいて実施することを基本とした。

- ・水質調査方法（昭和46年9月30日付け環水管第30号、環境庁水質保全局長通知）
- ・底質調査方法（平成24年8月8日付け環水大水発第120725002号、環境省水・大気環境局長通知）
- ・地下水質調査方法（平成元年9月14日付け環水管第189号、環境庁水質保全局長通知）
- ・環境試料採取法（昭和58年、文部科学省放射能測定法シリーズ）
- ・ゲルマニウム半導体検出器等を用いる機器分析のための試料の前処理法（昭和57年、文部科学省放射能測定法シリーズ）

（1）公共用水域

・水質

河川ではバケツまたは柄杓を用いて表層水（表層～50cmの深さ）を、湖沼及び沿岸ではバンドーン型採水器または柄杓を用いて表層水及び底層水（底から1m程度上）を各3L程度採取した。

・底質

エクマンバージ型採泥器またはスコップを用いて、15cm×15cmの面積で表層泥（表層～10cm程度の深さ）を3回以上採取し、十分に混合した。

（2）地下水

水温及び透視度が一定になっていることを確認したのち、容器に直接または採取ポンプを用いて6L程度採取した。

2. 2 分析方法

公共用水域（水質及び底質）及び地下水のそれぞれの試料について、ゲルマニウム半導体検出器による γ 線スペクトロメトリー測定を行い、Cs-134、Cs-137の分析を主に実施した。

また、一部の試料については、Sr-90及びその他の人工核種等の分析を行った。

結果の表示は公共用水域の水質及び地下水については「Bq/L」、公共用水域の底質については「Bq/kg（乾燥重量当たり）」とし有効桁数は基本的に2桁とした。測定結果については、減衰補正を行った（試料採取終了時における放射能濃度として報告した）。

分析方法については、原則として文部科学省放射能測定法シリーズに準じるものとした。

検出下限値の目標値は、以下に示すとおりである。

表 2.2-1 震災対応モニタリングにおける放射性核種の検出下限値の目標値

放射性核種	公共用水域（水質）	公共用水域（底質）	地下水
放射性セシウム (Cs-134、Cs-137)	1 Bq/L 程度	10 Bq/kg 程度	1 Bq/L 程度
放射性ストロ ンチウム	Sr-90	1 Bq/L 程度	1 Bq/L 程度
	Sr-89	—	1 Bq/L 程度
その他の人工核種	放射性核種で異なる。		

3. 調査結果

3. 1 放射性セシウム

3. 1-1 水質

(1) 公共用水域

1) 河川

河川水質の放射性セシウムの検出状況を表 3.1.1-1 及び図 3.1.1-1 に示す。

平成 29 年度以降は全ての地点において放射性セシウム (Cs-137)^{※2}は検出されていない (検出下限値 : Cs-134、Cs-137 とともに 1 Bq/L、湖沼、沿岸、地下水についても同じ)。

2) 湖沼

湖沼水質の放射性セシウムの検出状況を表 3.1.1-2 及び図 3.1.1-2 に示す。

検出率は平成 24 年度以降全ての都県で減少傾向であり、平成 25 年度以降は福島県以外の地域では検出されていない。

検出値 (Cs-137) についても平成 24 年度以降減少傾向であり、令和 6 年度の測定値の範囲は検出下限値未満～4.2 Bq/L であった。

3) 沿岸

沿岸水質の放射性セシウムの検出状況を表 3.1.1-3 に示す。

過年度を含め、全ての地点において放射性セシウムは検出されていない。

(2) 地下水

地下水の放射性セシウムの検出状況を表 3.1.1-4 に示す。

平成 24 年度以降は全ての地点で検出されておらず、令和 6 年度も全て検出下限値未満である。

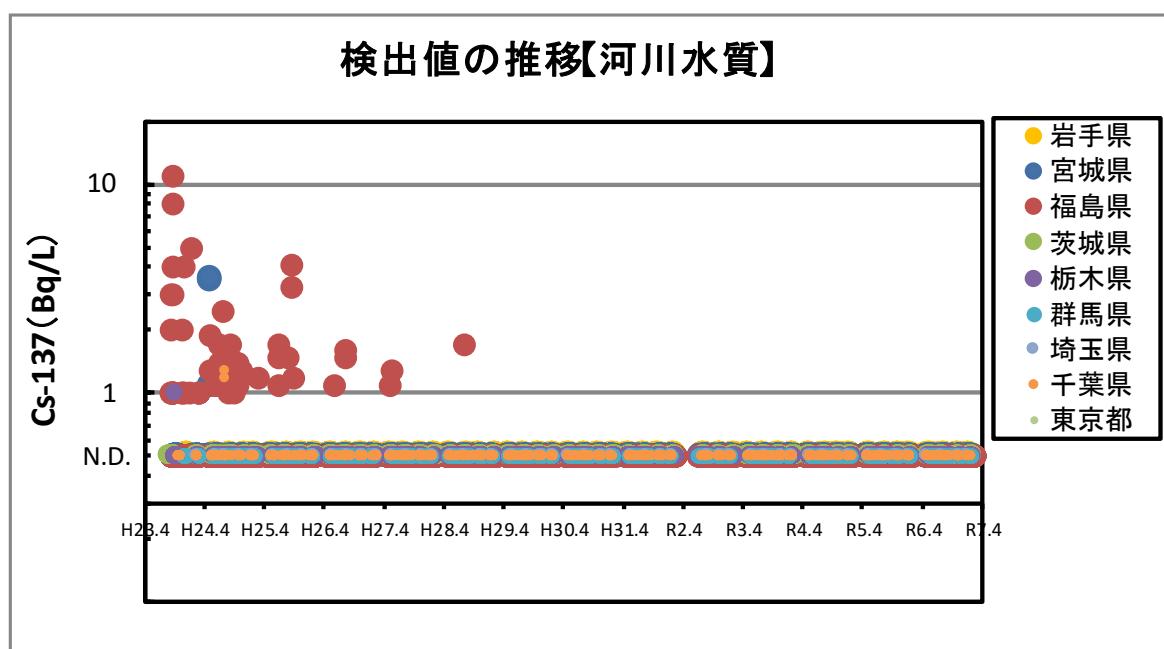
<参考>

- ・食品、添加物等の規格基準 (清涼飲料水) (昭和34年厚生省告示第370号)
放射性セシウム (Cs-134及びCs-137の合計) : 10 Bq/kg
- ・水道水中の放射性物質に係る目標値 (水道施設の管理目標値) (平成24年3月5日付け健水発0305第1号厚生労働省健康局水道課長通知)
放射性セシウム (Cs-134 及び Cs-137 の合計) : 10 Bq/kg

² 令和 6 年度水環境における放射性物質のモニタリング結果 (本報告書) より、解析に用いる放射性セシウムの値を、前年度までの合計値 (Cs-134+Cs-137) による方法から、Cs-137 の値に変更した。

表 3.1.1-1 河川水質の放射性セシウムの検出状況

都県	令和6年度				令和2～令和6年度			
	試料数	検出数	検出率 (%)	検出値の範囲 (Bq/L)	試料数	検出数	検出率 (%)	検出値の範囲 (Bq/L)
岩手県	80	0	0.0	検出下限値未満	381	0	0.0	検出下限値未満
宮城県	196	0	0.0	検出下限値未満	931	0	0.0	検出下限値未満
福島県	816	0	0.0	検出下限値未満	3,832	0	0.0	検出下限値未満
浜通り	324	0	0.0	検出下限値未満	1,518	0	0.0	検出下限値未満
中通り	324	0	0.0	検出下限値未満	1,532	0	0.0	検出下限値未満
会津	168	0	0.0	検出下限値未満	782	0	0.0	検出下限値未満
茨城県	212	0	0.0	検出下限値未満	1,007	0	0.0	検出下限値未満
栃木県	275	0	0.0	検出下限値未満	1,313	0	0.0	検出下限値未満
群馬県	214	0	0.0	検出下限値未満	1,015	0	0.0	検出下限値未満
埼玉県	8	0	0.0	検出下限値未満	38	0	0.0	検出下限値未満
千葉県	200	0	0.0	検出下限値未満	949	0	0.0	検出下限値未満
東京都	8	0	0.0	検出下限値未満	38	0	0.0	検出下限値未満
総計	2,009	0	0.0	検出下限値未満	9,504	0	0.0	検出下限値未満

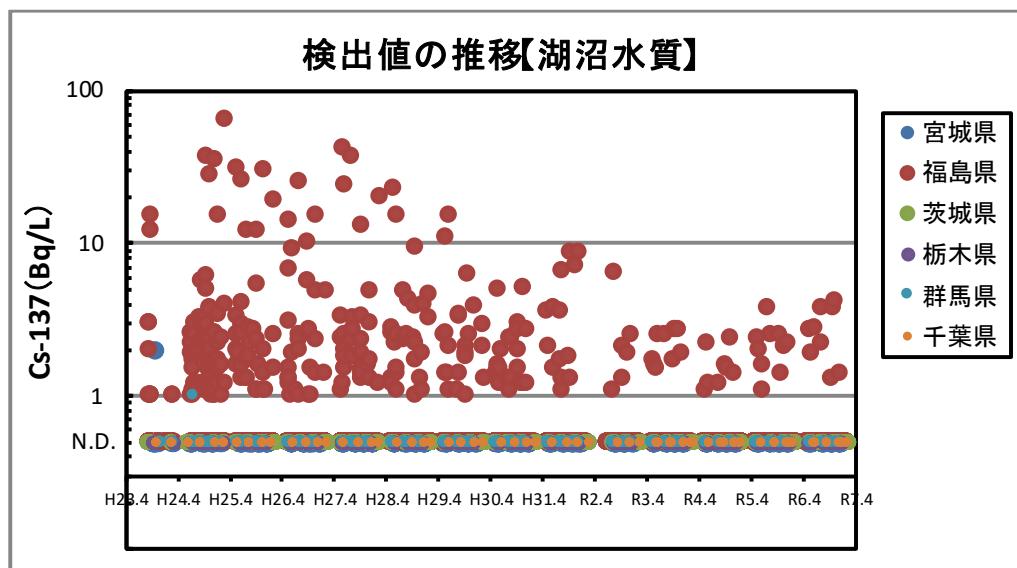


(※) 平成 23 年度のみ測定を実施した山形県については作図を省略した。

図 3.1.1-1 河川水質の放射性セシウムの検出値の推移

表 3.1.1-2 湖沼水質の放射性セシウムの検出状況

都県	令和6年度				令和2～令和6年度			
	試料数	検出数	検出率 (%)	検出値の範囲 (Bq/L)	試料数	検出数	検出率 (%)	検出値の範囲 (Bq/L)
宮城県	109	0	0.0	検出下限値未満	530	0	0.0	検出下限値未満
福島県	816	9	1.1	検出下限値未満～4.2	3,906	42	1.1	検出下限値未満～6.4
	浜通り	359	9	2.5	検出下限値未満～4.2	1,677	41	2.4
	中通り	109	0	0.0	検出下限値未満	544	1	0.2
会津	348	0	0.0	検出下限値未満	1,685	0	0.0	検出下限値未満
茨城県	143	0	0.0	検出下限値未満	693	0	0.0	検出下限値未満
栃木県	62	0	0.0	検出下限値未満	298	0	0.0	検出下限値未満
群馬県	178	0	0.0	検出下限値未満	876	0	0.0	検出下限値未満
千葉県	40	0	0.0	検出下限値未満	188	0	0.0	検出下限値未満
総計	1,348	9	0.7	検出下限値未満～4.2	6,491	42	0.6	検出下限値未満～6.4



(※) 平成 23 年度のみ測定を実施した山形県については作図を省略した。

図 3.1.1-2 湖沼水質の放射性セシウムの検出値の推移

表 3.1.1-3 沿岸水質の放射性セシウムの検出状況

都県	令和6年度				令和2～令和6年度			
	試料数	検出数	検出率(%)	検出値の範囲(Bq/L)	試料数	検出数	検出率(%)	検出値の範囲(Bq/L)
岩手県	8	0	0.0	検出下限値未満	40	0	0.0	検出下限値未満
宮城県	104	0	0.0	検出下限値未満	496	0	0.0	検出下限値未満
福島県	300	0	0.0	検出下限値未満	1,440	0	0.0	検出下限値未満
茨城県	40	0	0.0	検出下限値未満	190	0	0.0	検出下限値未満
千葉県	46	0	0.0	検出下限値未満	220	0	0.0	検出下限値未満
東京都	36	0	0.0	検出下限値未満	170	0	0.0	検出下限値未満
総計	534	0	0.0	検出下限値未満	2,556	0	0.0	検出下限値未満

表 3.1.1-4 地下水の放射性セシウムの検出状況

県名	令和6年度				令和2～令和6年度			
	試料数	検出数	検出率(%)	検出値の範囲(Bq/L)	試料数	検出数	検出率(%)	検出値の範囲(Bq/L)
岩手県	22	0	0.0	検出下限値未満	110	0	0.0	検出下限値未満
宮城県	22	0	0.0	検出下限値未満	113	0	0.0	検出下限値未満
福島県	714	0	0.0	検出下限値未満	3,767	0	0.0	検出下限値未満
茨城県	26	0	0.0	検出下限値未満	134	0	0.0	検出下限値未満
栃木県	27	0	0.0	検出下限値未満	135	0	0.0	検出下限値未満
群馬県	20	0	0.0	検出下限値未満	104	0	0.0	検出下限値未満
千葉県	23	0	0.0	検出下限値未満	115	0	0.0	検出下限値未満
総計	854	0	0.0	検出下限値未満	4,478	0	0.0	検出下限値未満

(※) 検出されたのは平成 23 年度であり、1 地点では Cs-134 及び Cs-137 が、1 地点では Cs-137 のみが、それぞれ 1 Bq/L (検出下限値 1 Bq/L) 検出された (本文参照)。

3. 1-2 底質³

公共用水域（河川、湖沼、沿岸）での底質中の放射性セシウムの調査結果は以下のとおりである。

（1）検出状況

1) 河川

河川底質中の放射性セシウムの検出状況を表 3.1.2-1 及び図 3.1.2-1 に示す。

過去 5 年間の各都県の検出率は 37.5～100 % で推移し、多くの都県で経年的には減少傾向にある。

また、検出値（Cs-137）については、図 3.1.2-1 に示したように高濃度の検出地点が減少するとともに、低濃度の検出地点が増加していることが認められた。

令和 6 年度について濃度区分でみると、検出下限値未満が 23.2 % (466 試料)、10 以上 100 Bq/kg 未満が 58.3 % (1,172 試料)、100 以上 1,000 Bq/kg 未満が 17.7 % (356 試料) であり、1,000 Bq/kg 未満の地点が全体の 99.3 % を占めていた。

2) 湖沼

湖沼底質中の放射性セシウムの検出状況を表 3.1.2-2 及び図 3.1.2-2 に示す。

過去 5 年間の各県の検出率は 49.8～100 % で推移し、令和 6 年度は全ての県で 80% 以上の検出率が認められた。

検出値（Cs-137）については、低濃度の地点の増加が認められるものの、その傾向は河川、沿岸と比較して緩やかであった。ただし、福島県浜通り地域では、100,000 Bq/kg を上回らない範囲の高濃度の地点が依然多く存在している。

令和 6 年度について濃度区分でみると、検出下限値未満が 2.1 % (19 試料)、10 以上 100 Bq/kg 未満が 22.4 % (202 試料)、100 以上 1,000 Bq/kg 未満が 44.9 % (405 試料) であり、1,000 Bq/kg 未満の地点が全体の 69.3 % を占めていた。

3) 沿岸

沿岸底質中の放射性セシウムの検出状況を表 3.1.2-3 及び図 3.1.2-3 に示す。

過去 5 年間の各都県の検出率は、0～100 % の範囲で推移していた。

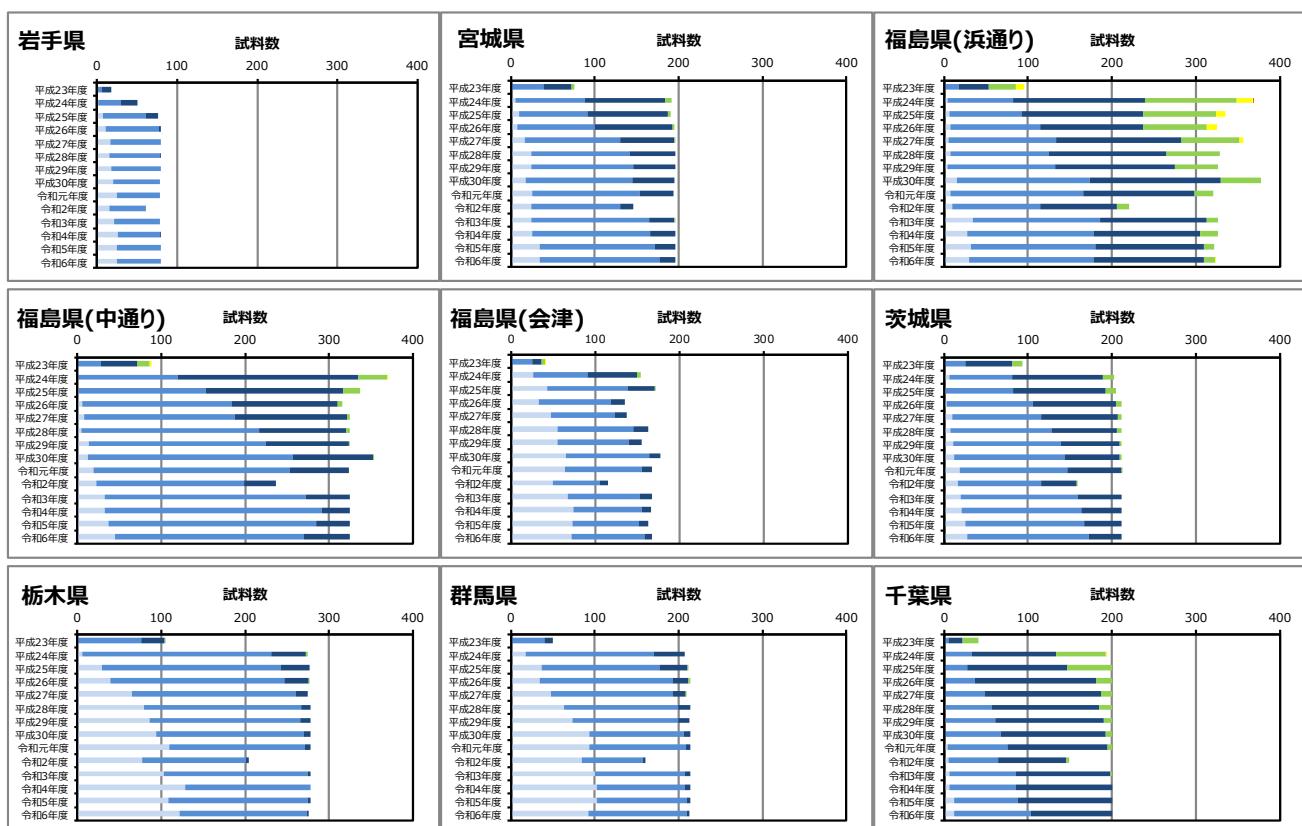
検出値（Cs-137）については、河川や湖沼に比べて濃度が低く、平成 28 年度以降は 1,000 Bq/kg を超える地点は認められていない。

令和 6 年度について濃度区分でみると、検出下限値未満が 25.5 % (68 試料)、10 以上 100 Bq/kg 未満が 57.7 % (154 試料)、100 以上 1,000 Bq/kg 未満が 16.9 % (45 試料) であり、100 Bq/kg 未満の地点が全体の 83.1 % を占めていた。

³ 従前まで掲載していた「濃度レベルの推移」については、令和 4 年度第 1 回検討会（令和 4 年 12 月）での議論を踏まえ、相対評価から絶対値による評価に変更したため、報告書には掲載していない。

表 3.1.2-1 河川底質中の放射性セシウムの検出状況

都県	令和6年度				令和2～令和6年度				
	試料数	検出数	検出率(%)	検出値の範囲(Bq/kg)	試料数	検出数	検出率(%)	検出値の範囲(Bq/kg)	検出率の範囲(%)
岩手県	80	53	66.3	検出下限値未満～42	381	266	69.8	検出下限値未満～110	65.0～77.0
宮城県	196	163	83.2	検出下限値未満～760	931	785	84.3	検出下限値未満～2,600	81.1～89.8
福島県	816	668	81.9	検出下限値未満～11,000	3,832	3,189	83.2	検出下限値未満～11,000	81.9～85.5
浜通り	324	294	90.7	検出下限値未満～11,000	1,518	1,384	91.2	検出下限値未満～11,000	89.6～95.5
中通り	324	278	85.8	検出下限値未満～400	1,532	1,362	88.9	検出下限値未満～870	85.8～90.7
会津	168	96	57.1	検出下限値未満～360	782	443	56.6	検出下限値未満～990	54.8～57.7
茨城県	212	188	88.7	検出下限値未満～530	1,007	900	89.4	検出下限値未満～900	87.7～91.2
栃木県	275	156	56.7	検出下限値未満～96	1,313	775	59.0	検出下限値未満～240	56.7～61.3
群馬県	214	118	55.1	検出下限値未満～450	1,015	534	52.6	検出下限値未満～800	48.1～55.1
埼玉県	8	3	37.5	検出下限値未満～32	38	18	47.4	検出下限値未満～37	37.5～50.0
千葉県	200	184	92.0	検出下限値未満～430	949	904	95.3	検出下限値未満～1,700	92.0～97.3
東京都	8	8	100.0	36～63	38	38	100.0	30～110	100.0
総計	2,009	1,541	76.7	検出下限値未満～11,000	9,504	7,409	78.0	検出下限値未満～11,000	37.5～100.0



試料数が少ない都県は割愛した



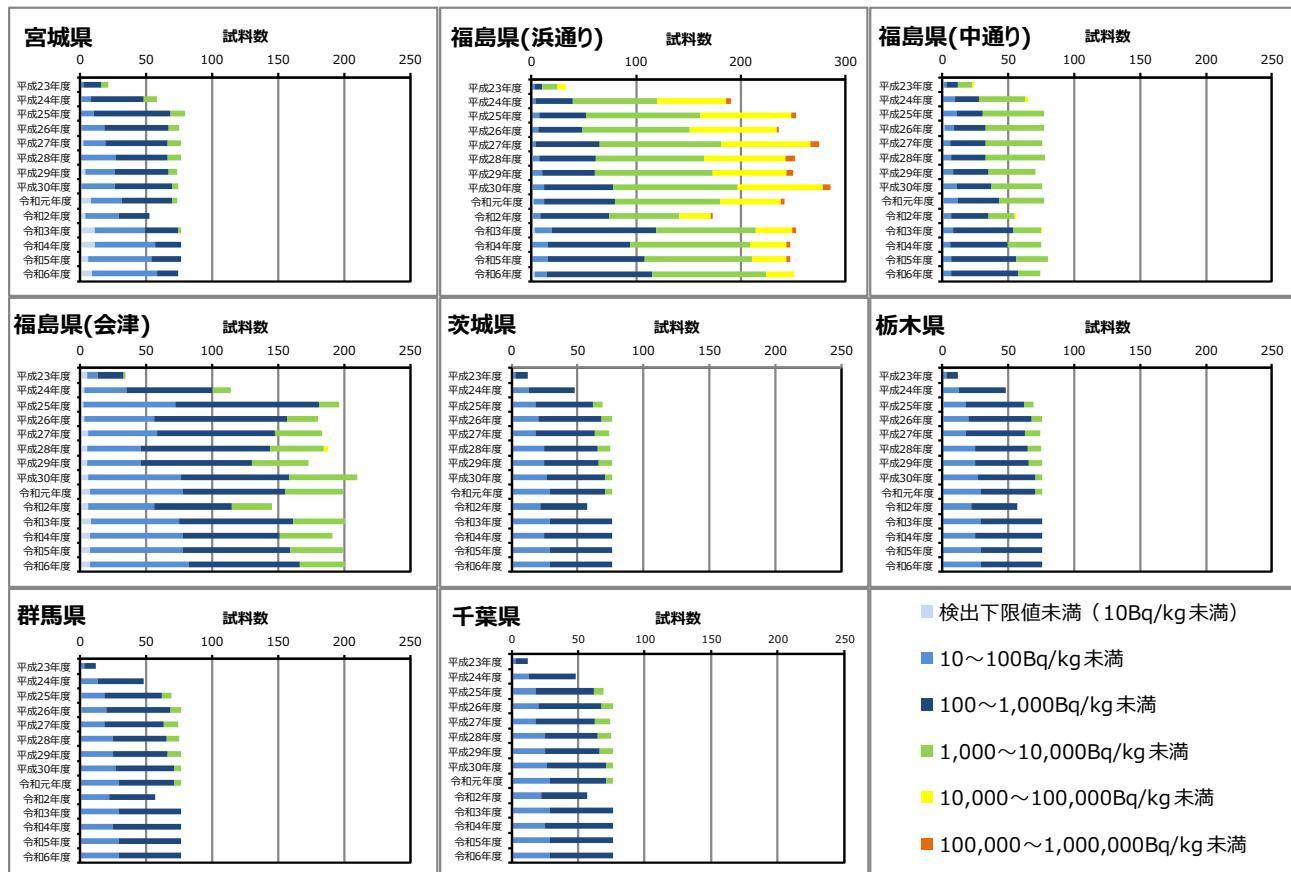
※令和6年度の濃度区分（試料数）

検出下限値未満：23.2% (466 試料)、10～100 Bq/kg 未満：58.3% (1,172 試料)、100～1,000 Bq/kg 未満：17.7% (356 試料)、1,000～10,000 Bq/kg 未満：0.7% (14 試料)、10,000～100,000 Bq/kg 未満：0.0% (1 試料)

図 3.1.2-1 河川底質中の放射性セシウムの検出状況の推移

表 3.1.2-2 湖沼底質中の放射性セシウムの検出状況

都県	令和6年度				令和2～令和6年度			
	試料数	検出数	検出率 (%)	検出値の範囲 (Bq/kg)	試料数	検出数	検出率 (%)	検出値の範囲 (Bq/kg)
宮城県	74	65	87.8	検出下限値未満～660	354	313	88.4	検出下限値未満～3,200
福島県	523	513	98.1	検出下限値未満～66,000	2,464	2,421	98.3	検出下限値未満～240,000
浜通り	251	248	98.8	検出下限値未満～66,000	1,171	1,164	99.4	検出下限値未満～240,000
中通り	73	73	100.0	13～4,100	360	359	99.7	検出下限値未満～22,000
会津	199	192	96.5	検出下限値未満～4,300	933	898	96.2	検出下限値未満～8,000
茨城県	76	76	100.0	16～550	361	361	100.0	10～950
栃木県	31	31	100.0	28～1,100	150	150	100.0	22～1,400
群馬県	93	93	100.0	28～2,500	453	453	100.0	20～9,300
千葉県	32	32	100.0	55～1,200	152	152	100.0	12～1,900
総計	829	810	97.7	検出下限値未満～66,000	3,934	3,850	97.9	検出下限値未満～240,000
								85.5～100.0



試料数が少ない山形県は割愛した

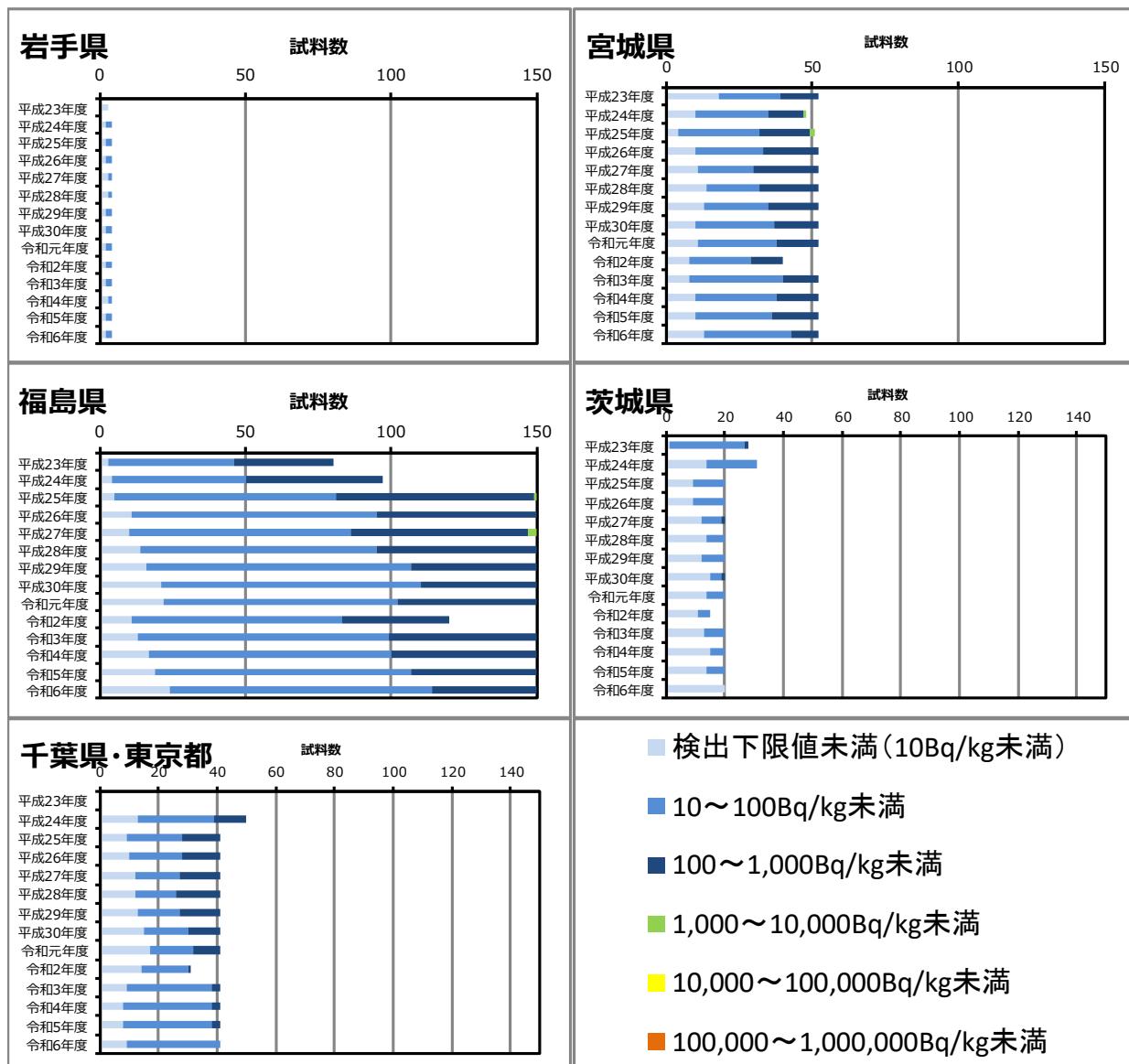
※令和6年度の濃度区分（試料数）

検出下限値未満：2.1% (19試料)、10～100 Bq/kg 未満：22.4% (202試料)、100～1,000 Bq/kg 未満：44.9% (405試料)、1,000～10,000 Bq/kg 未満：19.7% (178試料)、10,000～100,000 Bq/kg 未満：3.0% (27試料)

図 3.1.2-2 湖沼底質中の放射性セシウムの検出状況の推移

表 3.1.2-3 沿岸底質中の放射性セシウムの検出状況

都県	令和6年度				令和2～令和6年度			
	試料数	検出数	検出率(%)	検出値の範囲(Bq/kg)	試料数	検出数	検出率(%)	検出値の範囲(Bq/kg)
岩手県	4	2	50.0	検出下限値未満～16	20	9	45.0	検出下限値未満～42
宮城県	52	39	75.0	検出下限値未満～290	248	199	80.2	検出下限値未満～370
福島県	150	126	84.0	検出下限値未満～290	720	636	88.3	検出下限値未満～630
茨城県	20	0	0.0	検出下限値未満	95	22	23.2	検出下限値未満～69
千葉県	23	14	60.9	検出下限値未満～45	110	62	56.4	検出下限値未満～67
東京都	18	18	100.0	24～93	85	85	100.0	24～120
総計	267	199	74.5	検出下限値未満～290	1,278	1,013	79.3	検出下限値未満～630
								0.0～100.0



※令和6年度の濃度区分（試料数）

検出下限値未満：25.5% (68試料)、10～100 Bq/kg 未満：57.7% (154試料)、100～1,000 Bq/kg 未満：16.9% (45試料)

図 3.1.2-3 沿岸底質中の放射性セシウムの検出状況の推移

(2) 地点別にみた検出状況

1) 評価の考え方

河川、湖沼、沿岸の属性ごとに、地点別の検出状況の特性をより詳細に整理した。

地点別の検出状況を整理するにあたっては、各地点での全ての検出値を用いて、以下の2つの観点で統計的解析を行った。なお、単年度で調査を終了している地点（山形県を含む）と、平成25年度以降調査を実施していない地点については、対象から除いている。

① 検出値の濃度分布⁴

ア) 令和6年度の各地点における放射性セシウム（Cs-137）の全調査結果を用いて、地点ごとに平均値（算術平均。検出下限値未満は5Bq/kg（検出下限値の1/2）として算出。）を求め、3.1-2(1)に準じて以下の6区分に整理した。

- ・10 Bq/kg 未満
- ・10 Bq/kg 以上 100 Bq/kg 未満
- ・100 Bq/kg 以上 1,000 Bq/kg 未満
- ・1,000 Bq/kg 以上 10,000 Bq/kg 未満
- ・10,000 Bq/kg 以上 100,000 Bq/kg 未満
- ・100,000 Bq/kg 以上

イ) 時折出現する大きな検出などの検出値の変動幅については、地点ごとに変動係数（標本標準偏差／平均値）を算出した。

② 検出値の増減傾向

検出値の経年的な推移について評価するため、検出値の増減傾向を以下の考え方に基づいて分類した。なお、過年度を含めた平均値が100 Bq/kg以下の地点については、大きな変動はないものとして増減傾向の判定の対象から除外した。

- (i) 回帰分析等に基づいて増減の傾向をみた。具体的には、傾きの下限95%と上限95%がともにマイナスであれば「減少傾向」、傾きの下限95%と上限95%がともにプラスであれば「増加傾向」とした。
- (ii) 増減の傾向が明瞭でない（傾きの下限95%と上限95%のどちらかがマイナスでどちらかがプラス）場合については、変動係数0.5をひとつの目安とし、0.5未満のものを「横ばい」、0.5以上のものを「ばらつき」とした。

⁴ 従前までは地点平均値の上位パーセンタイル値によるA～Eまでの相対評価としていたが、令和4年度第1回検討会（令和4年12月）での議論を踏まえ、絶対濃度による評価に変更した。

2) 河川、湖沼、沿岸の底質における都県ごとの濃度分布及び増減傾向

2) - 1 河川

① 岩手県

岩手県では、河川の底質 22 地点において、平成 23 年 12 月～令和 7 年 1 月の間に 27～52 回の調査が実施された(なお、平成 23 年にのみ実施されている地点が 1 地点あるが、本解析では除外した)。

検出値(平均値)の濃度分布は、10 Bq/kg 未満の地点が 8 地点、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 14 地点であった(表 3.1.2-4 及び表 3.1.2-5 参照)。

また、増減傾向については、全ての地点において過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下で推移していた。

表 3.1.2-4 各地点の検出値の区分評価結果(岩手県: 河川底質)

濃度区分	該当地点数	対象地点
10Bq/kg未満	8	No. 2, No. 6, No. 7, No. 8, No. 14, No. 18, No. 20, No. 21
10～100Bq/kg	14	No. 1, No. 3, No. 4, No. 5, No. 9, No. 10, No. 11, No. 12, No. 13, No. 15, No. 16, No. 17, No. 19, No. 22
100～1,000Bq/kg	0	(該当なし)
1,000～10,000Bq/kg	0	(該当なし)
10,000～100,000Bq/kg	0	(該当なし)
100,000Bq/kg以上	0	(該当なし)

河川底質の地点別推移(岩手県)

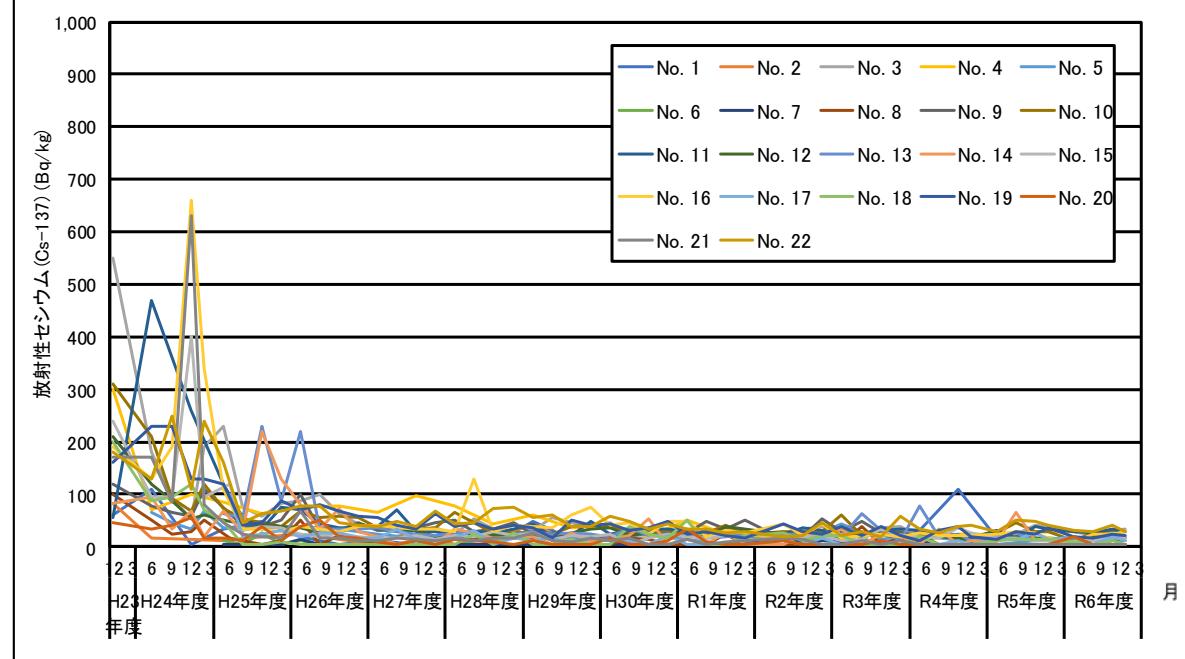


図 3.1.2-4 各地点の経年的な推移(岩手県: 河川底質)

表 3.1.2-5 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（岩手県：河川底質）

No.	水域名	地点	市町村	令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数	増減傾向 (※3)
				最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値			
1	盛川下流	佐野橋	大船渡市	13	16	15	5	110	25		1.18	——
2	気仙川	姉歵橋	陸前高田市	5	5	5	5	82	13		1.25	——
3	大川	宮城県境	一関市	22	33	29	18	550	59		1.39	——
4	津谷川	千代ヶ原橋		24	28	26	19	300	57		0.97	——
5	黒沢川	川原田橋	金ヶ崎町	12	14	13	5	67	25		0.64	——
6	胆沢川	大歩橋	奥州市	5	5	5	5	36	7		0.90	——
7		再巡橋		5	5	5	5	20	6		0.50	——
8	北上川	藤橋		5	15	8	5	100	15		1.17	——
9	白鳥川	白鳥橋	平泉町	13	20	16	10	120	37		0.65	——
10	衣川	衣川橋		12	31	25	12	310	47		1.02	——
11	太田川	一筋橋		26	35	30	16	470	49		1.45	——
12	磐井川中流	上の橋		15	24	19	13	210	33		0.94	——
13	北上川水系	磐井川下流	狐禪寺橋	12	21	18	11	230	37		1.18	——
14		北上川	千歳橋 (狐禪寺)	5	5	5	5	220	31		1.23	——
15		曾慶川	雲南田橋	11	20	16	5	400	38		1.65	——
16		猿沢川	観音橋	10	28	21	10	660	61		1.66	——
17	一関市	生出橋	砂鉄川	5	19	13	5	100	15		0.98	——
18		門崎橋		5	12	8	5	200	22		1.59	——
19	千鹿川上流	宮田橋		18	23	21	11	230	52		0.91	——
20	北上川	北上川橋	平泉町	5	19	9	5	57	14		0.98	——
21	黄海川	樋口橋		5	5	5	5	630	34		2.70	——
22	金流川	天神橋		30	42	33	19	250	59		0.83	——
全試料数		1019		5	42	16	5	660	34			↗ : 増加傾向
検出回数		784										↘ : 減少傾向
※1: 測定値はCs-137(Bq/kg-dry)。 ※2: 平均値は算術平均。検出下限値未満=5として算出。色分けは1)①の方法の区分評価。 ※3: 各地点の増減傾向を1)②の方法で分類した結果。												
				10未満	10～100	100～1,000	1,000～10,000	10,000～100,000	100,000～			

: 増加傾向
 : 減少傾向
 : ばらつき
 : 横ばい
 : 100Bq/kg以下

② 宮城県

宮城県では、河川の底質 43 地点において、平成 23 年 10 月～令和 7 年 2 月の間に 51～131 回の調査が実施された（なお、平成 23 年にのみ実施されている地点が 38 地点あるが、本解析では除外した）。

検出値（平均値）の濃度分布は、10 Bq/kg 未満の地点が 8 地点、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 32 地点、100 以上 1,000 Bq/kg 未満の地点が 3 地点であった（表 3.1.2-6 及び表 3.1.2-7 参照）。

また、増減傾向については、6 割以上の地点（26 地点）では過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下で推移していた。その他の地点では、14 地点で減少傾向、3 地点でばらつきがみられた。

表 3.1.2-6 各地点の検出値の区分評価結果（宮城県：河川底質）

濃度区分	該当地点数	対象地点
10Bq/kg未満	8	No. 3, No. 12, No. 16, No. 19, No. 26, No. 31, No. 38, No. 39
10～100Bq/kg	32	No. 1, No. 2, No. 4, No. 5, No. 6, No. 7, No. 8, No. 9, No. 10, No. 11, No. 13, No. 14, No. 15, No. 17, No. 18, No. 20, No. 21, No. 22, No. 23, No. 24, No. 25, No. 27, No. 28, No. 29, No. 30, No. 33, No. 34, No. 35, No. 36, No. 37, No. 40, No. 42
100～1,000Bq/kg	3	No. 32, No. 41, No. 43
1,000～10,000Bq/kg	0	（該当なし）
10,000～100,000Bq/kg	0	（該当なし）
100,000Bq/kg以上	0	（該当なし）

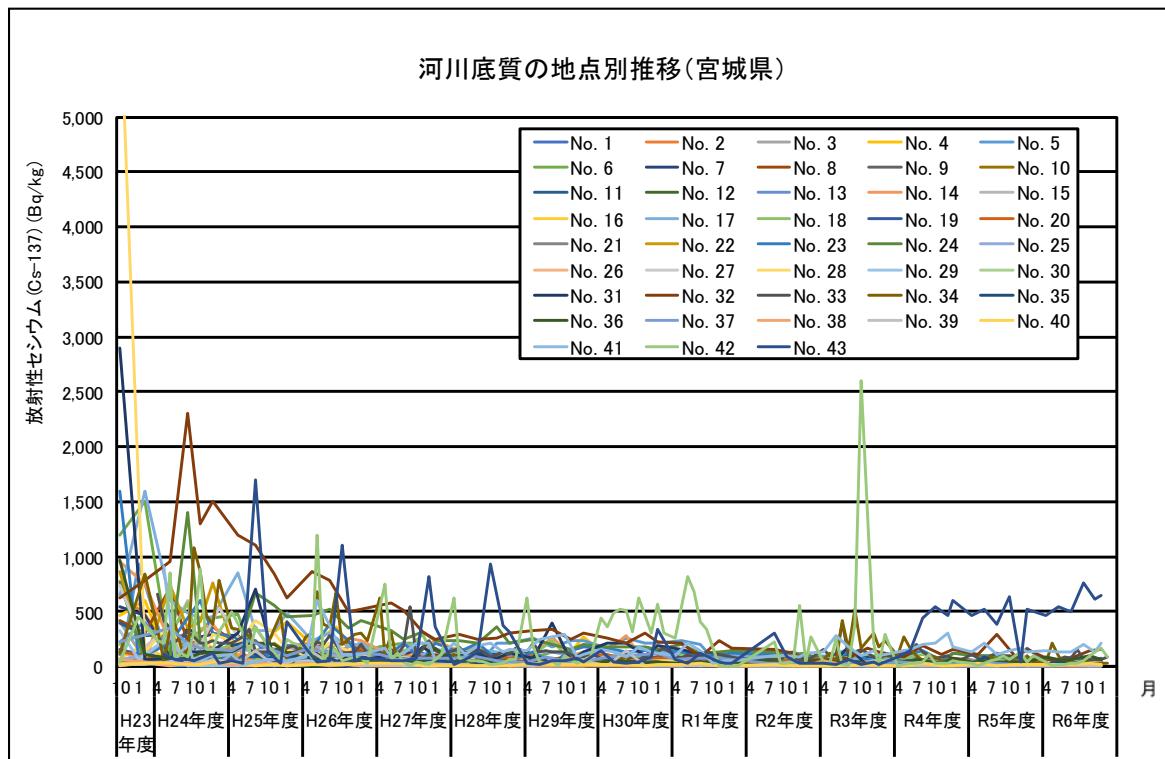


図 3.1.2-5 各地点の経年的な推移（宮城県：河川底質）

表 3.1.2-7 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（宮城県：河川底質）

No.	水域名	採取地点	市町村	令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数 (※3)	増減傾向 (※3)				
				最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値							
1	鹿折川	金山橋	気仙沼市	21	26	24	13	120	48		0.50	—				
2		浪板橋		31	45	39	17	660	103		1.06	↘				
3		館山大橋		5	19	9	5	410	34		1.62	—				
4		大川		22	39	30	15	600	93		1.35	—				
5		神山橋		46	55	50	5	930	99		1.46	—				
6		大川河口		39	68	51	5	1,500	156		1.85	↘				
7	北上川	面瀬川	栗原市	尾崎橋	34	42	38	28	550	117		0.87	↘			
8		有馬川		宇南田橋	40	56	49	36	720	124		0.93	↘			
9		金流川		小畠橋	5	47	21	5	130	43		0.71	—			
10		北上川		登米大橋(登米)	15	28	21	5	160	21		1.05	—			
11		迫川		洞万橋(栗駒ダム)	27	66	40	5	400	68		1.11	—			
12		北上川		鍛冶屋橋	5	12	7	5	85	10		1.23	—			
13	北上川水系	迫川	栗原市	花山ダム流入部	11	17	14	11	410	43		1.48	—			
14		山吉田橋		13	22	17	13	960	129		1.35	↘				
15		轟橋(轟)		14	26	20	5	600	44		1.99	—				
16		江合川		清水閘門	5	5	5	5	200	16		1.89	—			
17		大崎市		古川地区内	37	55	46	37	1,600	203		1.30	↘			
18		出来川		小牛田橋	23	33	28	23	580	118		0.87	↘			
19	江合川水域	江合川	大崎市	及川橋(短台)	5	5	5	5	160	21		1.25	—			
20		旧北上川		門脇	25	59	40	5	170	56		0.74	—			
21		鳴瀬川		小野橋(小野)	5	31	15	5	120	30		0.76	—			
22		砂押川		多賀城堰	11	16	12	5	870	98		1.91	—			
23		念仏橋		念仏橋	11	92	59	11	1,600	172		1.32	↘			
24	七北田川水系	貞山運河 (旧砂押川)	七ヶ浜町・多賀城市	貞山橋	10	71	28	10	1,400	217		1.10	↘			
25		七北田川		七北田橋	5	19	11	5	270	46		1.37	—			
26		七北田川		福田大橋	5	5	5	5	36	10		0.74	—			
27		梅田川		福田橋	18	47	36	17	740	89		1.44	—			
28		七北田川		高砂橋	20	31	26	5	6,100	179		4.67	↘			
29	名取川水系	名取川	仙台市・名取市	閑上大橋	13	37	24	5	330	31		1.87	—			
30		名取川		葉師橋	14	19	16	5	130	21		0.87	—			
31		増田川		小山橋	5	5	5	5	2,900	149		2.71	↘			
32		昆沙門橋		昆沙門橋	52	160	110	50	2,300	416		1.05	↘			
33	阿武隈川水系	羽出庭橋	丸森町	70	160	85	50	660	147		0.64	↘				
34		阿武隈川		丸森橋	17	220	58	14	2,100	159		1.56	↘			
35		東根橋		角田市	13	47	22	5	210	49		0.81	—			
36		白石川	白石市	川原子沢合流前(砂押橋)	49	99	78	18	970	82		1.61	—			
37		齊川		江坪橋	16	25	21	16	350	81		0.85	—			
38		松川		宮大橋	5	5	5	5	71	14		1.05	—			
39		荒川	岩沼市・亘理町	茲神橋	5	19	9	5	150	22		1.48	—			
40		白石川		白幡橋	20	29	23	5	45	19		0.54	—			
41		楢木大橋		角田市・柴田町	130	210	160	24	1,500	169		1.05	▲▼			
42		阿武隈大橋(岩沼)		岩沼市・亘理町	5	170	59	5	2,600	209		1.55	▲▼			
43		阿武隈川河口(亘理大橋)		460	760	588	19	1,700	234		1.29	▲▼				
全試料数				2,563				5	760	55	5	6,100	106			
検出回数				2,275				※1:測定値はCs-137(Bq/kg-dry)。 ※2:平均値は算術平均。検出下限値未満=5として算出。色分けは1)①の方法の区分評価。 ※3:各地点の増減傾向を1)②の方法で分類した結果。						↗:増加傾向 ↘:減少傾向 ▲▼:ばらつき ~~:横ばい —:100Bq/kg以下		
								10未満	10～100	100～1,000	1,000～10,000	10,000～100,000	100,000～			

③ 福島県

ア) 浜通り

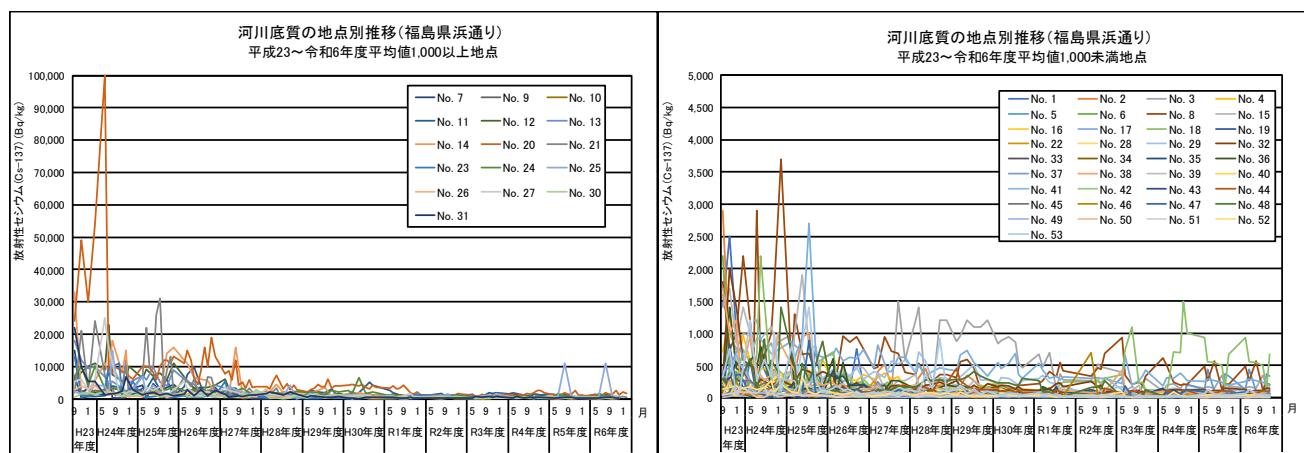
福島県浜通りでは、河川の底質 53 地点において、平成 23 年 9 月～令和 7 年 2 月の間に 75～132 回の調査が実施された。

検出値（平均値）の濃度分布については、10 Bq/kg 未満の地点が 4 地点、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 27 地点、100 以上 1,000 Bq/kg 未満の地点が 20 地点、1,000 以上 10,000 Bq/kg 未満の地点が 2 地点であった（表 3.1.2-8 及び表 3.1.2-9 参照）。

また、増減傾向については、4 割程度以上の地点（20 地点）で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下で推移していた。その他の地点では、32 地点で減少傾向、1 地点でばらつきがみられた。

表 3.1.2-8 各地点の検出値の区分評価結果（福島県浜通り：河川底質）

濃度区分	該当地点数	対象地点
10Bq/kg未満	4	No. 1, No. 43, No. 49, No. 51
10～100Bq/kg	27	No. 2, No. 4, No. 6, No. 7, No. 15, No. 16, No. 19, No. 22, No. 28, No. 33, No. 34, No. 35, No. 36, No. 37, No. 38, No. 39, No. 40, No. 41, No. 42, No. 44, No. 45, No. 46, No. 47, No. 48, No. 50, No. 52, No. 53
100～1,000Bq/kg	20	No. 3, No. 5, No. 8, No. 9, No. 10, No. 11, No. 12, No. 13, No. 14, No. 17, No. 18, No. 21, No. 23, No. 24, No. 26, No. 27, No. 29, No. 30, No. 31, No. 32
1,000～10,000Bq/kg	2	No. 20, No. 25
10,000～100,000Bq/kg	0	（該当なし）
100,000Bq/kg以上	0	（該当なし）



備考 1) 同一月に複数回調査を実施している地点については、平均値を用いて作図した。

2) 左右の 2 つのグラフで、縦軸のスケールが異なる。

図 3.1.2-6 各地点の経年的な推移（福島県浜通り：河川底質）

表3.1.2-9 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（福島県浜通り：河川底質）

No.	水域名	採取地点	市町村	令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数	増減傾向 (※3)
				最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値			
1	地蔵川	浜畠橋	新地町	5	5	5	5	2,500	123		2.92	↗
2		小泉橋		27	110	52	21	2,900	224		1.61	↗
3		百間橋		150	350	198	46	1,600	534		0.74	↗
4		堀坂橋		5	63	39	5	1,300	205		1.08	↗
5		百間橋		58	440	240	5	500	83		1.16	—
6		落合橋	南相馬市	24	65	45	19	2,200	168		1.45	↗
7		真野川		28	220	96	5	15,000	990		2.17	↗
8	新田川	草野	飯塙村	130	570	315	110	3,700	564		1.03	↗
9		小宮		130	470	278	130	4,800	1,020		0.90	↗
10		木戸内橋		100	210	133	64	6,100	749		1.32	↗
11		鮎川橋		200	1,600	883	41	9,800	1,692		1.12	↗
12		石渡戸橋		320	630	462	210	37,000	3,003		1.62	↗
13		矢川原橋		250	430	318	170	18,000	2,467		1.38	↗
14		太田川	南相馬市	130	170	153	97	33,000	3,164		1.72	↗
15		益田橋		56	89	70	24	1,900	326		1.21	↗
16		JR鉄道橋		5	59	29	5	130	32		0.73	—
17		丸山橋		190	290	240	180	2,700	500		0.68	↗
18		下川原橋		150	930	562	80	2,200	349		1.08	▲▼
19		善丁橋		5	16	11	5	830	45		2.32	—
20		室原橋	浪江町	1,300	2,600	1,620	740	100,000	6,294		1.76	↗
21		諸戸橋		250	1,100	496	210	31,000	2,742		1.85	↗
22	古道川	高瀬川合流前(都路町古道下平)	田村市	17	96	54	11	840	94		1.30	—
23	高瀬川	塵庇橋	浪江町	160	770	397	96	13,000	1,182		2.00	↗
24	前田川	国道6号線西側	双葉町	430	1,700	823	310	10,000	1,938		0.94	↗
25		中浜橋		440	11,000	2,380	17	15,000	1,730		1.33	↗
26	熊川	国道6号線西側	大熊町	140	280	212	130	4,000	836		1.02	↗
27		三熊橋		320	500	405	190	25,000	1,845		1.84	↗
28	富岡川	諸戸橋	川内村	37	76	56	27	370	112		0.56	↗
29		境川橋		88	140	110	66	710	257		0.59	↗
30		国道6号線西側	富岡町	160	520	335	90	2,800	736		0.72	↗
31		小浜橋		200	390	307	71	22,000	1,437		1.95	↗
32	井出川	本釜橋	楢葉町	97	150	123	67	2,000	222		1.17	↗
33	川内川	木戸川合流前(二股橋)	川内村	24	69	46	5	190	79		0.59	—
34	西山橋	5		51	22	5	380	43		1.14	—	
35	木戸川	長瀬橋	楢葉町	13	47	26	11	550	103		0.97	↗
36	木戸川橋	17		45	28	17	1,400	160		1.34	↗	
37	浅見川	坊田橋	広野町	17	120	44	13	770	94		1.39	—
38	大久川	露根橋	いわき市	37	130	73	36	1,700	195		1.48	↗
39	小久川	連郷橋		24	46	32	24	290	98		0.61	—
40	仁井田川	鹿田橋		11	17	13	5	250	29		1.13	—
41		松葉橋		20	93	46	17	660	82		1.27	—
42		北ノ内橋		5	29	13	5	280	24		1.70	—
43	夏井川	久太夫橋		5	16	9	5	250	29		1.41	—
44	六十枚橋	21		110	74	13	450	92		0.78	—	
45	好間川	岩穴つり橋	いわき市	5	120	31	5	340	66		1.09	—
46		夏井川合流前		5	17	11	5	700	45		1.94	—
47	藤原川	島橋	いわき市	20	85	42	5	890	60		1.88	—
48		みなど大橋		5	56	25	5	1,400	195		1.19	↗
49		井戸沢橋	鮫川	5	14	9	5	200	23		1.30	—
50		鮫川橋		12	42	29	5	250	42		0.73	—
51	四時川	小室橋	楢葉川	5	11	7	5	170	29		1.06	—
52	小塙橋	30		59	43	13	320	65		0.87	—	
53	蛭田橋	29		120	58	5	1,400	167		1.69	↗	
全試料数				5	11,000	247	5	100,000	804			↗ : 増加傾向
検出回数												↘ : 減少傾向
												▲▼ : ばらつき
												~~ : 横ばい
				10未満	10～100	100～1,000	1,000～10,000	10,000～100,000	100,000～			— : 100 Bq/kg 以下

イ) 中通り

福島県中通りでは、河川の底質 44 地点において、平成 23 年 9 月～令和 7 年 2 月の間に 79～135 回の調査が実施された。

検出値（平均値）の濃度分布は、10 Bq/kg 未満の地点が 6 地点、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 32 地点、100 以上 1,000 Bq/kg 未満の地点が 6 地点であった（表 3.1.2-10 及び表 3.1.2-11 参照）。

また、増減傾向については、4 割程度の地点（20 地点）で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下で推移していた。残りの 24 地点では、全て減少傾向で推移していた。

表 3.1.2-10 各地点の検出値の区分評価結果（福島県中通り：河川底質）

濃度区分	該当地点数	対象地点
10Bq/kg未満	6	No. 60, No. 66, No. 67, No. 83, No. 96, No. 97
10～100Bq/kg	32	No. 54, No. 55, No. 56, No. 57, No. 58, No. 59, No. 61, No. 62, No. 63, No. 64, No. 65, No. 68, No. 69, No. 70, No. 71, No. 72, No. 73, No. 75, No. 77, No. 78, No. 79, No. 80, No. 82, No. 84, No. 85, No. 86, No. 89, No. 90, No. 91, No. 92, No. 94, No. 95
100～1,000Bq/kg	6	No. 74, No. 76, No. 81, No. 87, No. 88, No. 93
1,000～10,000Bq/kg	0	（該当なし）
10,000～100,000Bq/kg	0	（該当なし）
100,000Bq/kg以上	0	（該当なし）

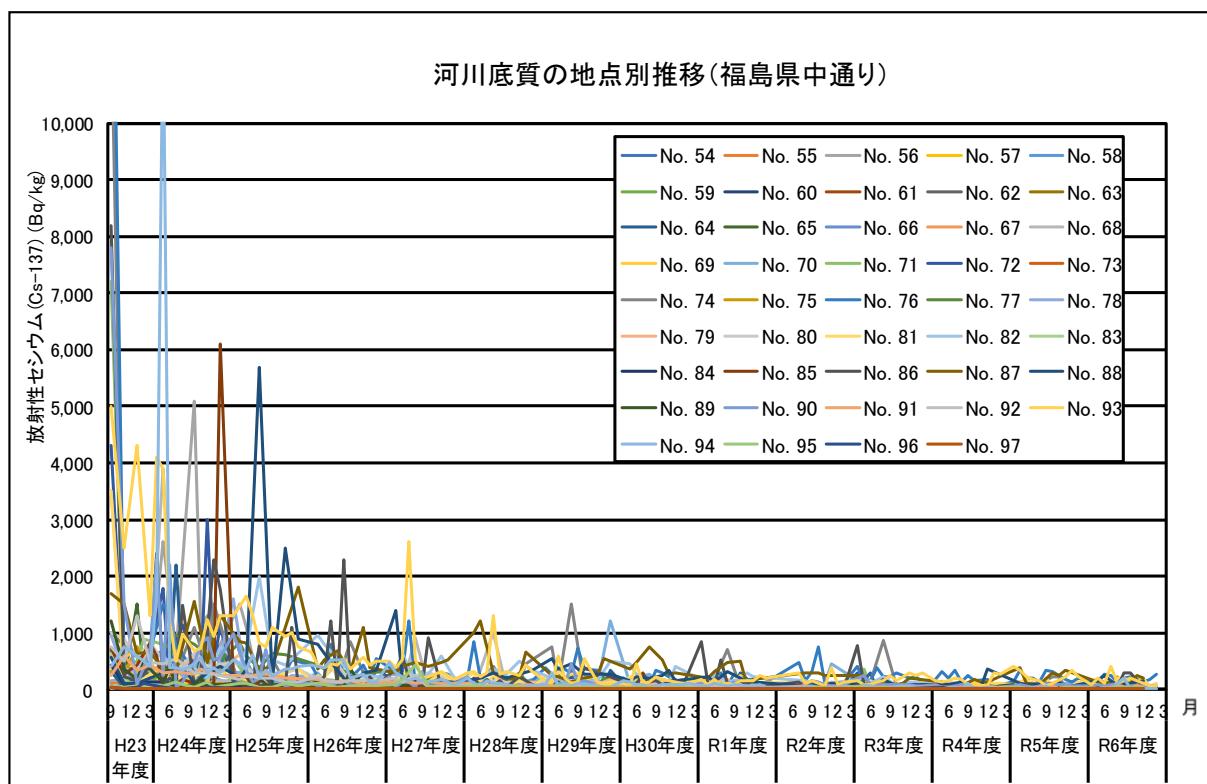


図 3.1.2-7 各地点の経年的な推移（福島県中通り：河川底質）

表 3.1.2-11 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（福島県中通り：河川底質）

No.	水域名	採取地点		令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数	増減傾向 (※3)	
		地点	市町村	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値				
54	阿武隈川	羽太橋	西郷村	13	17	15	5	170	27		0.86	—	
55		田町大橋	白河市	5	21	14	5	600	41		1.58	—	
56	谷津田川	阿武隈川合流前		51	120	79	26	5,100	278		2.40	↗	
57	社川	社川橋	柳倉町	19	69	39	5	510	51		1.24	—	
58	北須川	やなぎ橋	平田村	5	40	11	5	100	17		0.82	—	
59	今出川	猫崎橋	石川町	11	86	48	5	920	114		1.36	↗	
60	社川	王子橋		5	19	10	5	88	26		0.71	—	
61	阿武隈川	川ノ目橋	玉川村	5	120	38	5	280	31		1.11	—	
62		江持橋	須賀川市	5	15	10	5	230	31		1.62	—	
63	糸遊堂川	須賀川市水道取水地点		25	43	33	11	120	41		0.55	—	
64		阿武隈川合流前		23	38	31	5	2,200	79		2.63	—	
65	笹原川	新橋	郡山市	34	78	51	17	1,500	137		1.76	↗	
66	谷田川	谷田川橋		5	5	5	5	260	34		1.30	—	
67	大滝銀川	船引橋	田村市	5	13	7	5	160	33		0.93	—	
68		阿武隈川合流前	郡山市	5	30	16	5	3,900	134		3.45	↗	
69	馬場川	馬場川合流点前		43	120	67	18	740	89		1.48	—	
70		幕之内橋		37	75	58	14	1,200	151		1.04	↗	
71	阿武隈川合流前			42	79	56	35	7,200	197		3.19	↗	
72	阿武隈川	阿久津橋		30	52	42	5	4,300	204		2.85	↗	
73	五百川	石筵川合流後		16	29	24	5	660	36		2.01	—	
74		上関下橋	本宮市	100	170	127	18	12,000	368		3.68	↗	
75	阿武隈川	阿武隈川合流前		15	220	59	5	750	68		1.44	—	
76	阿武隈川	高田橋	二本松市	140	270	193	50	16,000	415		3.34	↗	
77	口太川	口太川橋		37	64	46	25	1,000	220		1.15	↗	
78	移川	小瀬川橋		5	34	24	5	1,600	130		1.50	↗	
79	水原川	下藤内橋		39	140	67	31	3,500	190		2.13	↗	
80	女神川	鶴巻橋		26	70	36	23	1,000	187		1.09	↗	
81	阿武隈川	蓬莱橋		59	200	127	22	3,500	185		1.62	↗	
82	湯川	大森川合流点前		13	63	35	5	2,000	271		1.07	↗	
83	荒川	日ノ倉橋		5	5	5	5	640	28		2.63	—	
84	須川	須川橋		5	47	18	5	430	36		1.46	—	
85	荒川	阿武隈川合流前		14	75	27	11	6,100	122		4.41	↗	
86	松川		福島市	19	280	88	5	8,200	302		2.79	↗	
87	八反田川	八反田橋		100	250	150	62	2,700	447		1.00	↗	
88	猪上川	十綱橋		70	240	143	26	5,700	326		2.13	↗	
89		阿武隈川合流前		21	65	38	11	1,200	67		1.80	—	
90	阿武隈川	大正橋	伊達市	45	100	72	23	7,800	235		3.15	↗	
91	広瀬川	館ノ腰橋	川俣町	12	69	37	12	580	110		1.01	↗	
92		地蔵川原橋	伊達市	5	28	20	5	1,300	124		1.56	↗	
93	小国川	広瀬川合流前		72	400	151	56	5,000	526		1.54	↗	
94	広瀬川	阿武隈川合流前		5	210	45	5	12,000	254		4.10	↗	
95	黒川	栃木県境	白河市	16	35	25	12	430	50		1.07	—	
96	久慈川	松岡橋	柳倉町	5	5	5	5	100	12		1.06	—	
97		高地原橋	矢祭町	5	13	7	5	37	9		0.61	—	
全試料数		4,321		5	400	53	5	16,000	154				
検出回数		4,081											

※1: 測定値はCs-137 (Bq/kg-dry)。
 ※2: 平均値は算術平均。検出下限値未満=5として算出。色分けは①②の方法の区分評価。
 ※3: 各地点の増減傾向を①②の方法で分類した結果。
 ↗: 増加傾向
 ↘: 減少傾向
 ▲: ばらつき
 ↙: 横ばい
 —: 100Bq/kg以下

ウ) 会津

福島県会津では、河川の底質 26 地点において、平成 23 年 9 月～令和 7 年 2 月の間に 70～127 回の調査が実施された。

検出値（平均値）の濃度分布は、10 Bq/kg 未満の地点が 11 地点、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 14 地点、100 以上 1,000 Bq/kg 未満の地点が 1 地点であった（表 3.1.2-12 及び表 3.1.2-13 参照）。

また、増減傾向については、8 割以上の地点（21 地点）で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下で推移していた。その他の地点では、4 地点で減少傾向、1 地点でばらつきがみられた。

表 3.1.2-12 各地点の検出値の区分評価結果（福島県会津：河川底質）

濃度区分	該当地点数	対象地点
10Bq/kg未満	11	No. 98, No. 99, No. 104, No. 108, No. 110, No. 111, No. 112, No. 113, No. 114, No. 118, No. 122
10～100Bq/kg	14	No. 100, No. 101, No. 102, No. 103, No. 105, No. 106, No. 107, No. 109, No. 115, No. 116, No. 117, No. 119, No. 120, No. 123
100～1,000Bq/kg	1	No. 121
1,000～10,000Bq/kg	0	（該当なし）
10,000～100,000Bq/kg	0	（該当なし）
100,000Bq/kg以上	0	（該当なし）

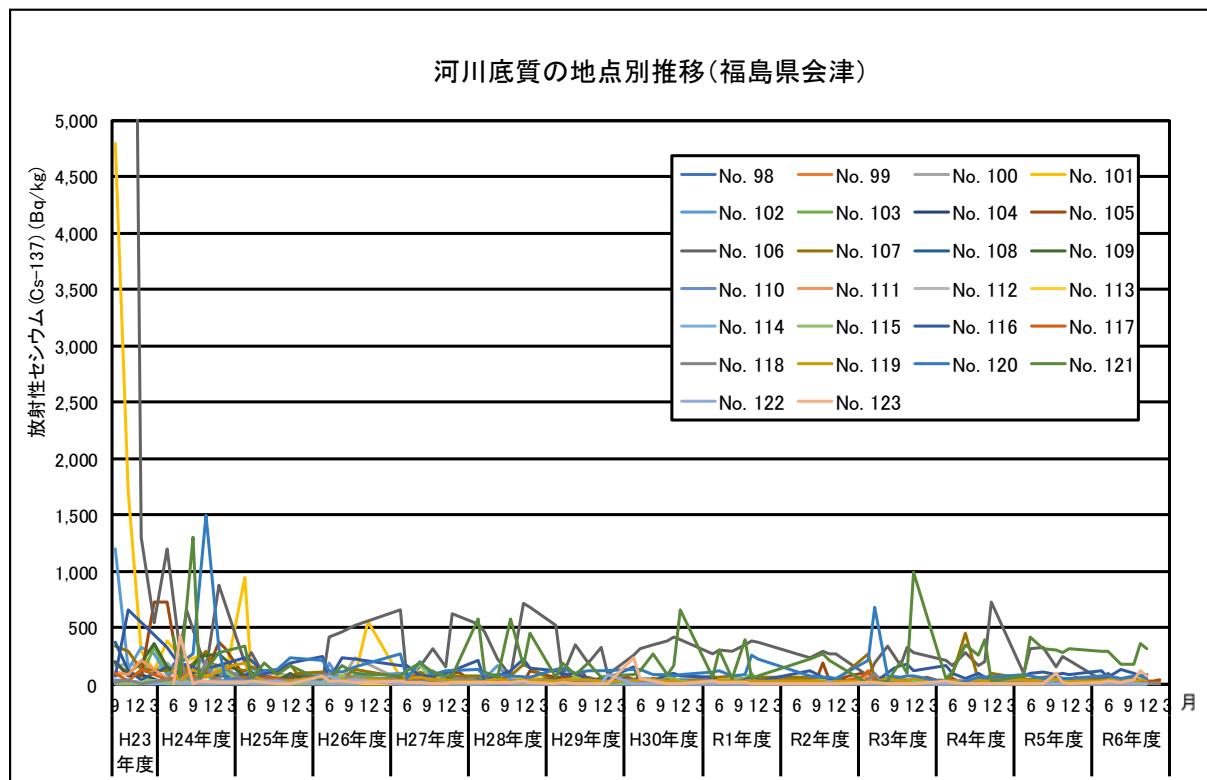


図 3.1.2-8 各地点の経年的な推移（福島県会津：河川底質）

表 3.1.2-13 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（福島県会津：河川底質）

No.	水域名	採取地点		令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数	増減傾向 (※3)										
		地点	市町村	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値													
98	阿賀野川	田島橋	南会津町	5	5	5	5	30	5		0.55	—										
99		大川橋	会津若松市	5	5	5	5	16	5		0.36	—										
100	湯川	滝見橋		5	22	16	5	230	51		0.88	—										
101		新湯川橋		15	19	17	13	4,800	152		3.78	↗										
102		阿賀野川合流前		11	43	23	5	1,200	69		2.13	—										
103	宮川	細工名橋	会津坂下町	5	42	15	5	320	32		1.32	—										
104	阿賀野川	宮古橋		5	10	6	5	200	11		2.24	—										
105	日橋川	南大橋	喜多方市	22	50	29	5	730	64		1.59	—										
106	旧湯川	粟ノ宮橋	湯川村	11	91	43	11	14,000	576		3.03	↗										
107	旧宮川	丈助橋	会津坂下町	5	46	28	5	450	77		1.04	—										
108	田付川	大橋	喜多方市	5	20	8	5	370	31		1.58	—										
109		下川原橋		5	20	14	5	490	38		2.02	—										
110	濁川	濁川橋	喜多方市	5	5	5	5	180	11		1.89	—										
111		山崎橋		5	5	5	5	230	18		2.14	—										
112	伊南川	青柳橋	南会津町	5	5	5	5	10	5		0.11	—										
113		黒沢橋	只見町	5	5	5	5	24	5		0.43	—										
114	只見川	西谷橋	金山町	5	22	10	5	23	6		0.66	—										
115		藤橋	会津坂下町	5	27	17	5	170	27		1.15	—										
116	阿賀野川	新郷ダム	喜多方市	60	130	92	10	660	111		0.83	↗										
117	酸川	酸川野	猪苗代町	5	29	13	5	130	26		0.93	—										
118	長瀬川	小金橋		5	12	7	5	230	25		1.25	—										
119	高橋川	新橋	猪苗代町	14	41	30	5	180	37		0.82	—										
120	小黒川	梅の橋		44	68	60	5	1,500	130		1.48	↗										
121	菱沼川	関都地区		170	360	265	5	1,300	212		1.02	↗										
122	舟津川	舟津橋	郡山市	5	5	5	5	84	10		1.30	—										
123	原川	河口前	会津若松市	12	120	46	5	420	24		2.34	—										
全試料数		2,095		5	360	29	5	14,000	66	↗ : 増加傾向												
検出回数		1,349		↘ : 減少傾向			△△ : ばらつき			～～ : 横ばい												
※1: 測定値はCs-137(Bq/kg-dry)。																						
※2: 平均値は算術平均。検出下限値未満=5として算出。色分けは1)①の方法の区分評価。																						
※3: 各地点の増減傾向を1)②の方法で分類した結果。																						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">10未満</td> <td style="width: 10%;">10～100</td> <td style="width: 10%;">100～1,000</td> <td style="width: 10%;">1,000～10,000</td> <td style="width: 10%;">10,000～100,000</td> <td style="width: 10%;">100,000～</td> <td style="width: 10%;">100,000～</td> </tr> </table>													10未満	10～100	100～1,000	1,000～10,000	10,000～100,000	100,000～	100,000～			
10未満	10～100	100～1,000	1,000～10,000	10,000～100,000	100,000～	100,000～																

④ 茨城県

茨城県では、河川の底質 53 地点において、平成 23 年 8 月～令和 7 年 1 月の間に 50～56 回の調査が実施された（なお、平成 23 年にのみ実施されている地点が 40 地点あるが、本解析では除外した）。

検出値（平均値）の濃度分布は、10 Bq/kg 未満の地点が 6 地点、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 37 地点、100 以上 1,000 Bq/kg 未満の地点が 10 地点であった（表 3.1.2-14 及び表 3.1.2-15 参照）。

また、増減傾向については、約 6 割の地点（31 地点）で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下で推移していた。残りの 22 地点では、全て減少傾向で推移していた。

表 3.1.2-14 各地点の検出値の区分評価結果（茨城県：河川底質）

濃度区分	該当地点数	対象地点
10Bq/kg未満	6	No. 5, No. 8, No. 10, No. 15, No. 43, No. 45
10～100Bq/kg	37	No. 1, No. 2, No. 3, No. 4, No. 6, No. 7, No. 9, No. 11, No. 12, No. 13, No. 14, No. 16, No. 17, No. 19, No. 20, No. 21, No. 22, No. 23, No. 24, No. 25, No. 26, No. 27, No. 29, No. 30, No. 31, No. 33, No. 35, No. 37, No. 40, No. 41, No. 44, No. 46, No. 47, No. 48, No. 51, No. 52, No. 53
100～1,000Bq/kg	10	No. 18, No. 28, No. 32, No. 34, No. 36, No. 38, No. 39, No. 42, No. 49, No. 50
1,000～10,000Bq/kg	0	（該当なし）
10,000～100,000Bq/kg	0	（該当なし）
100,000Bq/kg以上	0	（該当なし）

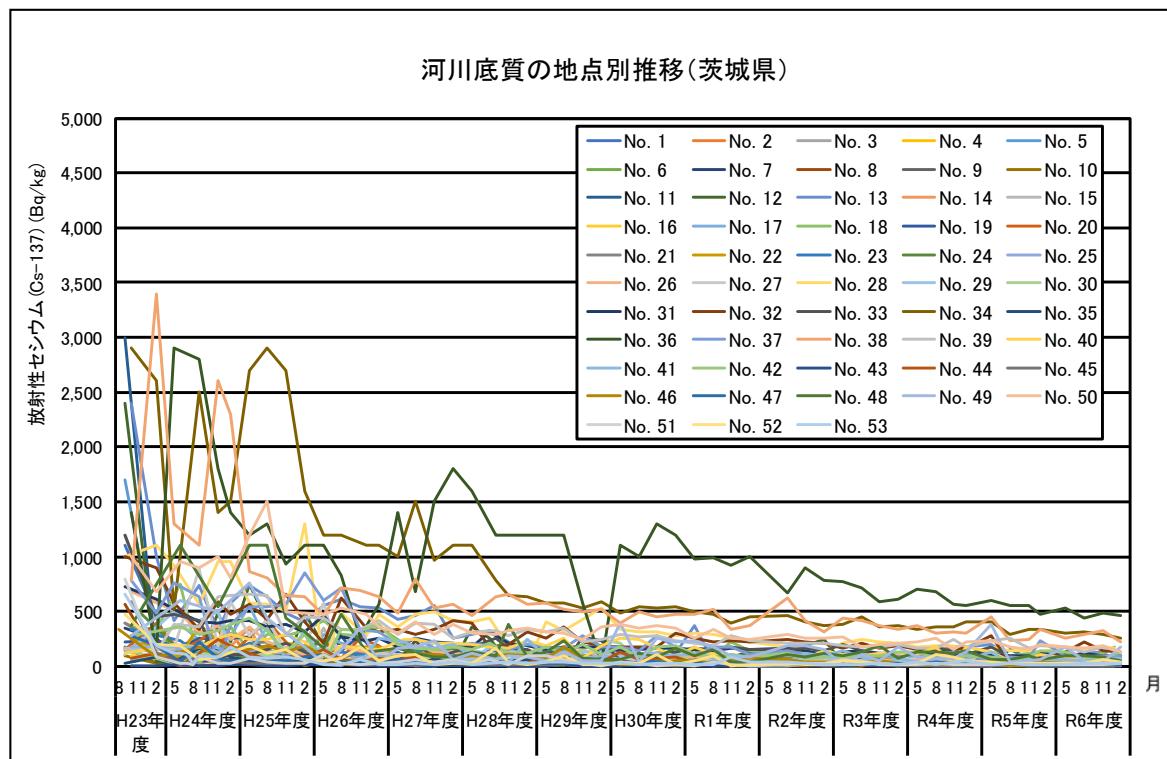


図 3.1.2-9 各地点の経年的な推移（茨城県：河川底質）

表 3.1.2-15 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（茨城県：河川底質）

No.	採取地点		市町村	令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数	増減傾向 (※3)	
	水域名	地点		最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値				
1	多賀水系	里根川	山小屋橋	北茨城市	5	20	14	5	1,100	75		2.12	—
2			村山橋		12	24	17	12	390	74		1.09	—
3		花園川	倉部石		10	17	14	5	140	30		0.81	—
4			磯刺川橋		5	20	15	5	160	36		0.79	—
5		大北川	栄橋		5	10	6	5	1,700	54		4.34	—
6		境橋	北茨城市		12	21	16	12	1,200	72		2.35	—
7		花萱川	新花萱橋		10	36	24	5	350	61		0.96	—
8	久慈川水系	岩井橋	常陸大宮市	常陸大宮市・筑西町	5	11	9	5	570	29		2.65	—
9		磯橋	日立市・東海村		5	50	24	5	170	31		0.94	—
10	那珂川水系	那珂川大橋	常陸大宮市・筑西町		5	12	8	5	100	14		1.31	—
11		那珂川	下国井	水戸市	25	63	40	12	3,000	119		3.41	↗
12		勝田橋	水戸市・ひたちなか市	ひたちなか市	10	38	29	5	2,400	158		2.13	↗
13		中丸川	柳沢橋		39	130	97	29	2,400	298		1.25	↗
14		涸沼前川	長岡橋	茨城町	15	20	17	15	350	59		1.09	—
15		涸沼川	高橋		5	5	5	5	350	22		2.34	—
16		寛政川	寛政橋		22	34	28	13	140	53		0.60	—
17	北浦水系	大谷川	大谷橋	鉾田市	45	65	56	36	550	102		0.90	↗
18		涸沼川	涸沼橋	水戸市・大洗町	92	180	121	5	750	157		0.83	↗
19		鉾田川	姐橋	鉾田市	34	50	40	29	280	99		0.69	—
20		巴川	新巴川橋		28	58	49	28	420	95		0.97	—
21		大洋川	田原橋		24	59	39	24	390	84		0.75	—
22	霞ヶ浦水系	武田川	内宿大橋	行方市	22	50	35	19	380	100		0.69	—
23		山田川	荷下橋		20	39	30	15	330	71		0.87	—
24		霞川	霞川橋		5	28	19	5	560	82		1.00	—
25		雁通川	JA横橋		32	76	52	20	170	80		0.48	—
26		流川	須保居橋	鹿嶋市	46	62	53	35	680	127		0.95	↗
27		園部川	園部新橋	小美玉市	38	73	53	5	880	118		1.37	↗
28		山王川	所橋		160	170	165	17	1,300	370		0.77	↗
29	利根川水系	恋瀬川	平和橋	石岡市	14	30	23	14	500	99		1.09	—
30		櫻無川	上宿橋	行方市	22	35	27	19	240	66		0.76	—
31		菱木川	菱木橋	かすみがうら市	79	120	98	79	720	218		0.64	↗
32		一の瀬川	川中橋		130	220	155	29	1,000	297		0.65	↗
33		境川	国道354境橋	土浦市	69	120	95	5	1,200	161		1.08	↗
34		新川	神天橋		260	310	290	260	2,900	879		0.98	↗
35		桜川	栄川橋	土浦市・つくば市	5	28	14	5	160	32		1.02	—
36	常陸利根川水系	備前川	備前川橋	土浦市	440	530	480	31	2,900	970		0.56	↗
37		花室川	親和橋		79	98	91	19	850	248		0.86	↗
38		清明川	勝橋	阿見町	220	320	270	220	3,400	637		0.91	↗
39		小野川	奥原大橋	龍ヶ崎市・牛久市	130	180	155	130	660	284		0.46	↗
40		新利根川	新利根橋	稲敷市	47	70	59	11	290	153		0.47	↗
41		茨城利根川水系	茨城利根川	塙の内橋	53	76	66	17	350	108		0.69	↗
42		前川	あやめ橋	朝来市	71	130	103	16	440	165		0.81	↗
43	鬼怒川水系	川島川	筑西市	守谷市	5	5	5	5	20	7		0.66	—
44		滝下川	守谷市		13	30	19	5	240	54		0.86	—
45		田川	田川橋	筑西市	5	5	5	5	590	30		2.67	—
46		小貝川	黒川橋	取手市	25	33	29	5	340	74		0.85	—
47		文巻橋	取手市		16	20	19	15	280	44		1.13	—
48		谷田川	丸山橋	つくば市	44	95	77	35	1,100	203		1.25	↗
49		西谷田川	境松橋		33	180	108	15	760	171		0.91	↗
50		稻荷川	小笠橋	つくば市	130	190	163	130	1,500	399		0.73	↗
51	利根川水系	栗橋	古河市	利根町	13	22	17	5	790	46		2.25	—
52		布川	利根町		29	55	36	5	470	68		1.13	—
53		佐原	稲敷市	稲敷市	16	24	21	11	660	53		1.72	—
全試料数			2,793	5 530 66			5	3,400	154				
検出回数			2,606										
※1:測定値はCs=137(Bq/kg-dry)。 ※2:平均値は算術平均。検出下限値未満=5として算出。色分けは1)①の方法の区分評価。 ※3:各地点の増減傾向を1)②の方法で分類した結果。 													
				10未満	10~100	100~1,000	1,000~10,000	10,000~100,000	100,000~				

⑤ 栃木県

栃木県では、河川の底質 56 地点において、平成 23 年 10 月～令和 7 年 1 月の間に 50～91 回の調査が実施された（なお、平成 23 年にのみ実施されている地点が 49 地点あるが、本解析では除外した）。

検出値（平均値）の濃度分布は、10q/kg 未満の地点が 26 地点、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 30 地点であった（表 3.1.2-16 及び表 3.1.2-17 参照）。

また、増減傾向については、9 割以上の地点（55 地点）で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下で推移していた。残りの 1 地点では、減少傾向で推移していた。

表 3.1.2-16 各地点の検出値の区分評価結果（栃木県：河川底質）

濃度区分	該当地点数	対象地点
10Bq/kg未満	26	No. 13, No. 15, No. 16, No. 17, No. 18, No. 20, No. 23, No. 26, No. 27, No. 30, No. 31, No. 33, No. 36, No. 38, No. 40, No. 41, No. 43, No. 45, No. 46, No. 47, No. 49, No. 50, No. 52, No. 53, No. 54, No. 56
10～100Bq/kg	30	No. 1, No. 2, No. 3, No. 4, No. 5, No. 6, No. 7, No. 8, No. 9, No. 10, No. 11, No. 12, No. 14, No. 19, No. 21, No. 22, No. 24, No. 25, No. 28, No. 29, No. 32, No. 34, No. 35, No. 37, No. 39, No. 42, No. 44, No. 48, No. 51, No. 55
100～1,000Bq/kg	0	（該当なし）
1,000～10,000Bq/kg	0	（該当なし）
10,000～100,000Bq/kg	0	（該当なし）
100,000Bq/kg以上	0	（該当なし）

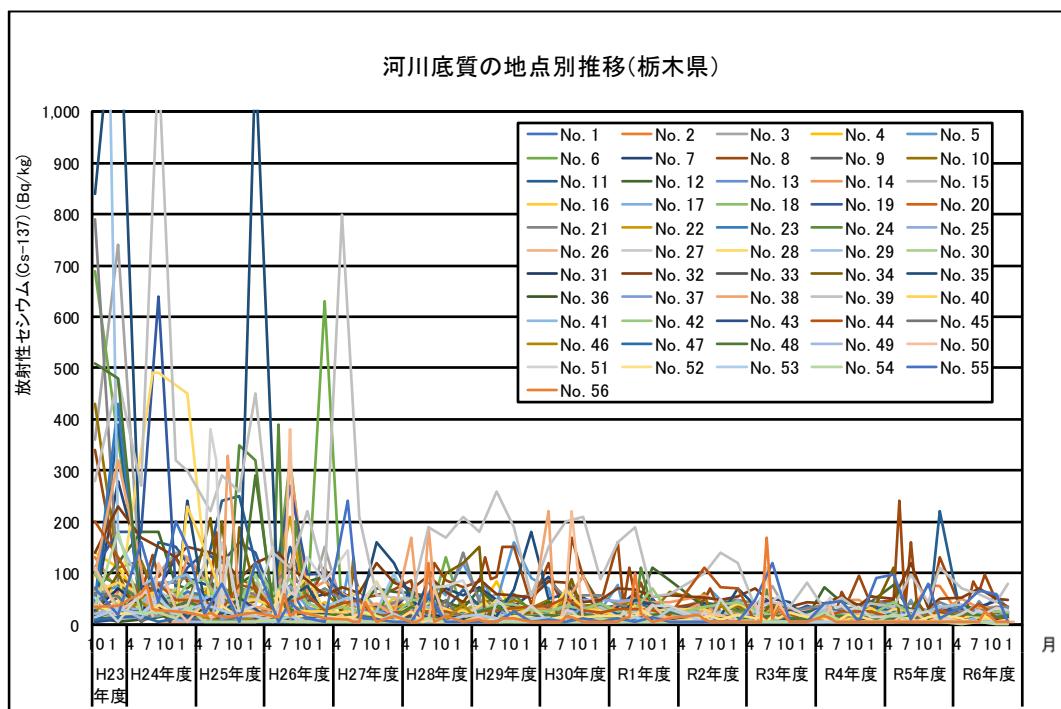
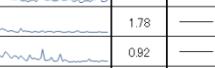
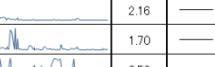
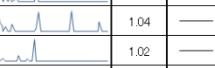
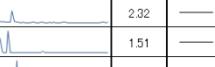


図 3.2.1-10 各地点の経年的な推移（栃木県：河川底質）

表 3.1.2-17 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（栃木県：河川底質）

No.	水域名	採取地点	市町村	令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数 (※3)	増減傾向 (※3)	
				最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値				
1	那珂川水系	幾世橋下	那須塩原市	12	15	13	5	62	16		0.75	—	
2		恒明橋		11	20	15	5	130	28		0.80	—	
3		高雄股川	那須町	11	27	16	11	740	61		1.78	—	
4		湯川		11	17	13	5	140	29		0.92	—	
5		那珂川	上黒磯	23	58	36	11	160	43		0.57	—	
6		余笠川		5	16	11	5	690	62		2.18	—	
7		黒川	新田橋	26	45	35	16	280	52		0.75	—	
8		余笠川		27	96	55	16	340	75		0.70	—	
9		那珂川	黒羽	13	30	21	10	60	23		0.40	—	
10		松葉川	末流	大田原市	19	35	27	13	430	45		1.08	—
11		蛇尾川	宇田川橋		10	26	15	5	390	56		1.35	—
12		百村川	百村中橋		19	37	27	13	180	57		0.63	—
13		夕の原	那須塩原市	5	14	9	5	61	18		0.84	—	
14		那珂川		26	50	35	13	310	45		0.93	—	
15		岩井橋	大田原市	5	16	9	5	150	19		1.15	—	
16		那珂川		5	11	6	5	94	14		0.92	—	
17		新那珂橋	那珂川町	5	5	5	5	67	13		0.85	—	
18		武茂川		5	10	6	5	26	10		0.57	—	
19		荒川	桜橋	塩谷町	20	27	25	13	640	63		1.53	—
20		連城橋	さくら市		5	5	5	5	41	9		0.73	—
21		内川	田中橋	矢板市	25	35	30	19	790	65		1.62	—
22		旭橋	さくら市		13	24	18	5	210	34		0.85	—
23		荒川	向田橋	那須烏山市	5	13	9	5	430	21		2.16	—
24		江川	末流		10	29	17	5	390	38		1.70	—
25	利根川水系	鬼怒川	川治第一発電所前	日光市	5	23	17	5	50	23		0.50	—
26		湯西川	前沢橋		5	5	5	5	21	7		0.54	—
27		男鹿川	末流		5	5	5	5	160	12		1.84	—
28		鬼怒川	小佐越		13	19	16	5	490	51		2.11	—
29		板穴川	末流		18	39	26	12	2,700	63		4.53	—
30		湯川	末流		5	5	5	5	97	12		1.57	—
31		大谷川	神橋		5	10	8	5	69	13		0.93	—
32		志賀瀬川	筋違橋		48	69	55	32	230	79		0.52	—
33		大谷川	開進橋(針貝)		5	5	5	5	41	9		0.80	—
34		鬼怒川	佐貫		5	26	16	5	320	32		1.53	—
35		西鬼怒川	西鬼怒川橋	宇都宮市	5	18	11	5	1,300	97		2.58	—
36		鬼怒川	鬼怒川橋(宝積寺)		5	5	5	5	31	7		0.69	—
37		大道泉橋	真岡市	日光市	5	22	12	5	74	12		0.98	—
38		江川	末流		5	14	7	5	330	34		1.72	—
39	利根川水系	日光市役所前	日光市	44	79	63	28	1,100	175		1.08	↗	
40		赤堀川	木和田島	5	14	9	5	230	32		1.12	—	
41		田川	大曾橋	宇都宮市	5	12	6	5	97	13		1.24	—
42		奎川	つくし橋		16	25	21	14	120	37		0.63	—
43		明治橋	上三川町	小山市	5	14	7	5	86	13		1.39	—
44		梁橋	巴波川		5	41	19	5	200	38		0.88	—
45	漣川水城	黒川	貝島橋	鹿沼市	5	5	5	5	61	9		1.31	—
46		御成橋	壬生町	5	5	5	5	42	9		1.04	—	
47		大芦川	赤石橋	鹿沼市	5	5	5	5	53	7		1.02	—
48		小藪川	小藪橋	5	20	18	5	510	42		2.32	—	
49		思川	保橋	栃木市	5	5	5	5	81	9		1.51	—
50		乙女大橋	小山市	5	5	5	5	380	25		1.98	—	
51		巴波川	巴波橋	栃木市	20	32	25	5	380	44		1.31	—
52		渡良瀬川	日光市役所前	日光市	5	17	8	5	66	15		0.64	—
53		葉鹿橋	足利市	5	5	5	5	50	11		0.89	—	
54		中橋	5	5	5	5	180	11		2.21	—		
55		渡良瀬大橋	鎌林市	5	65	41	5	240	40		1.35	—	
56		新開橋	栃木市	5	25	8	5	170	18		1.48	—	
全試料数				5	96	16	5	2,700	33			↗ : 増加傾向	
検出回数												↘ : 減少傾向	
												▲ : ばらつき	
												△ : 横ばい	
												— : 100Bq/kg以下	
				10未満	10~100	100~1,000	1,000~10,000	10,000~100,000	100,000~				

⑥ 群馬県

群馬県では、河川の底質 48 地点において、平成 23 年 11 月～令和 7 年 1 月の間に 28～91 回の調査が実施された(なお、平成 23 年にのみ実施されている地点が 8 地点あるが、本解析では除外した)。

検出値(平均値)の濃度分布については、10 Bq/kg 未満の地点が 22 地点、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 25 地点、100 以上 1,000 Bq/kg 未満の地点が 1 地点であった(表 3.1.2-18 及び表 3.1.2-19 参照)。また、増減傾向については、9 割以上の地点(47 地点)で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下で推移していた。残りの 1 地点では、減少傾向で推移していた。

表 3.1.2-18 各地点の検出値の区分評価結果(群馬県:河川底質)

濃度区分	該当地点数	対象地点
10Bq/kg未満	22	No. 3, No. 5, No. 6, No. 8, No. 9, No. 10, No. 12, No. 14, No. 18, No. 21, No. 23, No. 24, No. 25, No. 28, No. 29, No. 30, No. 31, No. 32, No. 33, No. 34, No. 35, No. 36
10～100Bq/kg	25	No. 1, No. 2, No. 4, No. 7, No. 11, No. 13, No. 15, No. 16, No. 17, No. 19, No. 20, No. 22, No. 26, No. 27, No. 37, No. 38, No. 39, No. 40, No. 41, No. 42, No. 43, No. 44, No. 45, No. 46, No. 48
100～1,000Bq/kg	1	No. 47
1,000～10,000Bq/kg	0	(該当なし)
10,000～100,000Bq/kg	0	(該当なし)
100,000Bq/kg以上	0	(該当なし)

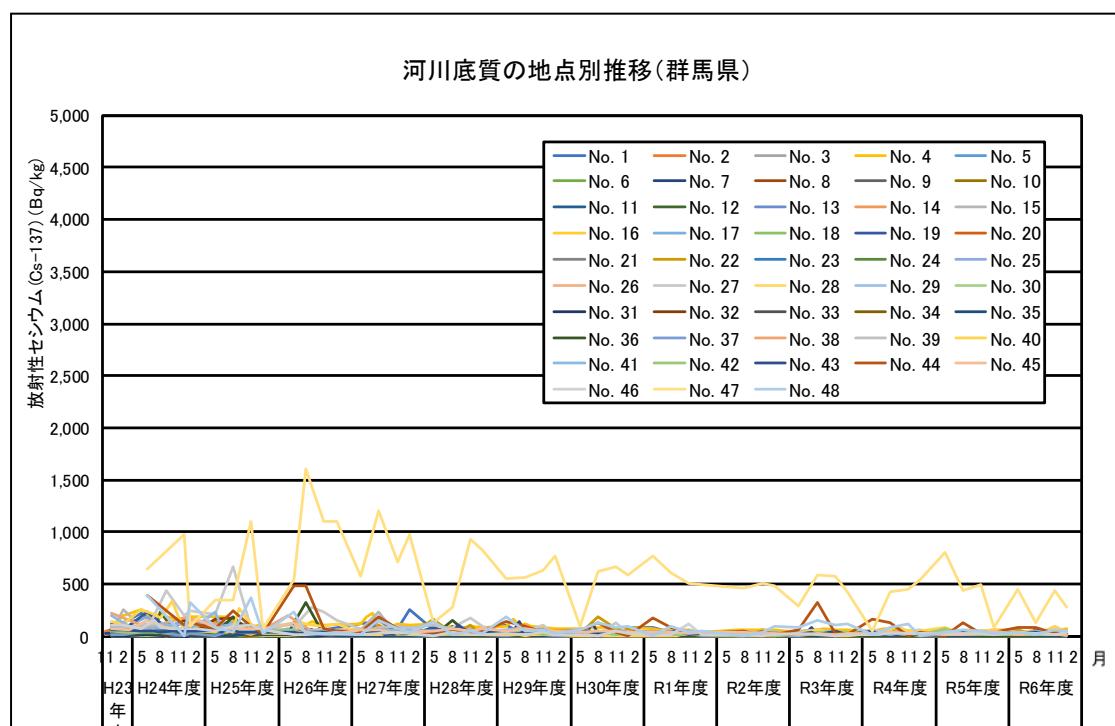


図 3.1.2-11 各地点の経年的な推移(群馬県:河川底質)

表 3.1.2-19 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（群馬県：河川底質）

No.	採取地点		市町村	令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数 (※3)	増減傾向 (※3)
	水域名	地点		最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値			
1	利根川水系	広瀬橋	みなかみ町	20	29	24	15	250	54		0.86	—
2		月夜野橋		5	21	11	5	78	20		0.69	—
3		赤谷川		5	17	9	5	71	19		0.81	—
4		桜川	大字谷地地内	41	65	51	33	320	93		0.57	—
5		桐の木橋	片品村	5	5	5	5	94	13		1.08	—
6		片品川	利根町高戸谷	5	5	5	5	47	8		0.96	—
7		二恵橋	沼田市	5	69	24	5	140	32		0.87	—
8		吾妻川	新戸橋	5	5	5	5	110	10		1.62	—
9		白砂川	出立橋	5	13	7	5	19	6		0.49	—
10		吾妻川	東橋下流	5	5	5	5	14	6		0.36	—
11		名久田川	殿田橋	5	22	14	5	120	23		0.94	—
12		吾妻川	吾妻橋	5	14	6	5	370	17		2.43	—
13		利根川	大正橋	5	19	11	5	100	15		0.87	—
14		漣沢川	新漣沢橋	5	11	8	5	160	20		1.35	—
15		利根川	群馬大橋	5	47	19	5	250	32		1.49	—
16		福島橋	玉村町	5	29	11	5	62	16		0.98	—
17	鳥川水系	長井川	上猪田橋	19	31	23	11	190	45		0.87	—
18		鳥川	鳥川橋	5	20	9	5	56	16		0.72	—
19		中瀬橋	安中市	5	20	14	5	230	28		1.26	—
20		碓水川	鼻高橋	5	18	13	5	52	16		0.83	—
21		躑躅川	下仁田町	5	5	5	5	33	7		0.73	—
22		躑躅川	躑躅川橋	5	57	33	5	180	34		1.18	—
23		雄川	金山橋	5	5	5	5	58	12		0.97	—
24		南牧川	小沢橋	5	5	5	5	39	7		0.80	—
25		染谷川	美師橋	5	12	10	5	84	22		0.78	—
26		井野川	兼倉橋	5	30	11	5	69	12		0.97	—
27		鳥川	岩倉橋	25	34	28	5	660	80		1.49	—
28		新要橋	上野村	5	5	5	5	23	7		0.69	—
29		森戸橋	神流町	5	5	5	5	13	5		0.28	—
30		藤武橋	藤岡市・上里町	5	5	5	5	29	6		0.76	—
31		神流川橋	上里町	5	5	5	5	71	11		1.30	—
32	利根川水系	利根川	坂東大橋	5	5	5	5	170	24		1.79	—
33		赤坂白川	下緑井町地内	5	5	5	5	61	15		0.89	—
34		桃の木川	宍井橋	5	11	7	5	44	9		0.81	—
35		荒砥川	奥原橋	5	5	5	5	32	7		0.84	—
36		柏川	保泉橋	5	11	7	5	320	23		2.29	—
37		広瀬川	中島橋	11	22	16	5	57	16		0.68	—
38		早川	早川橋	21	25	23	15	220	47		0.94	—
39		利根川	前島橋	19	35	24	11	120	45		0.62	—
40		利根川	利根大堰	30	94	46	5	410	50		1.34	—
41		小黒川	萱野橋	5	46	27	5	230	47		0.80	—
42	渡良瀬川水系	渡良瀬川	高津戸	10	18	14	5	68	28		0.53	—
43			赤岩用水取水口	19	36	27	10	100	32		0.44	—
44		多々良川	江尻橋	14	85	52	5	480	93		1.19	—
45		桐生川	觀音橋	17	20	18	15	160	46		0.68	—
46			境橋	13	38	27	5	150	36		0.93	—
47		鶴生田川	城沼	130	450	325	45	1,600	565		0.57	↘
48		谷田川	斗合田橋	15	59	40	5	390	80		1.09	—
	全試料数		2,799	5	450	23	5	1,600	38			
	検出回数		1,821									
	※1:測定値はCs-137(Bq/kg-dry)。 ※2:平均値は算術平均。検出下限値未満=5として算出。色分けは1)①の方法の区分評価。 ※3:各地点の増減傾向を1)②の方法で分類した結果。											
	 10未満 10~100 100~1,000 1,000~10,000 10,000~100,000 100,000~											
	 ↑ : 増加傾向 ↓ : 減少傾向 ↘ : ばらつき ↙ : 横ばい — : 100Bq/kg以下											

⑦ 千葉県、埼玉県、東京都

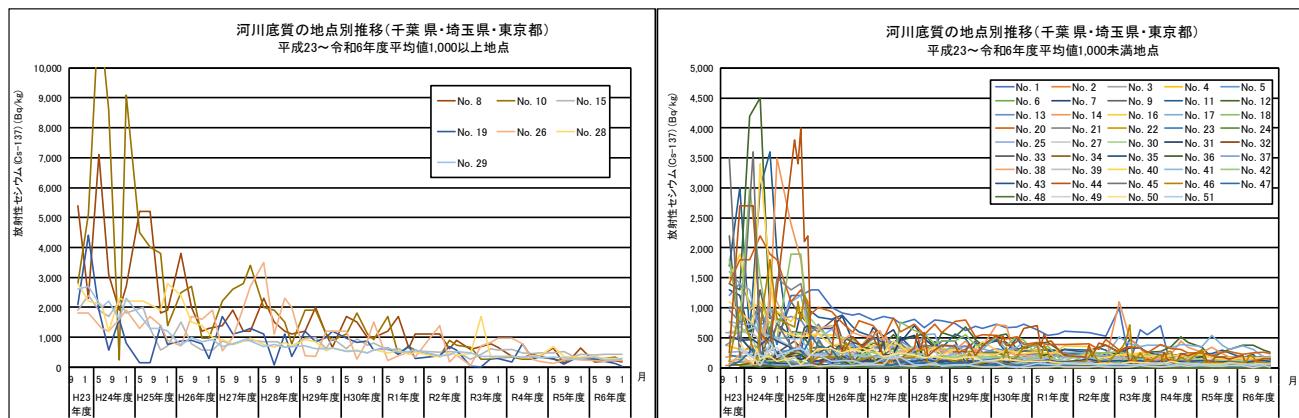
千葉県、埼玉県、東京都では、河川の底質 51 地点（千葉県 47 地点、埼玉県 2 地点、東京都 2 地点）において、平成 23 年 10 月～令和 7 年 1 月の間に 51～90 回の調査が実施された。

検出値（平均値）の濃度分布については、10 Bq/kg 未満の地点が 5 地点、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 22 地点、100 以上 1,000 Bq/kg 未満の地点が 24 地点であった（表 3.1.2-20 及び表 3.1.2-21 参照）。

また、増減傾向については、2 割以上の地点（11 地点）で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下で推移していた。残りの 42 地点では、38 地点で減少傾向、2 地点でばらつきがみられた。

表 3.1.2-20 各地点の検出値の区分評価結果（千葉県、埼玉県、東京都：河川底質）

濃度区分	該当地点数	対象地点
10Bq/kg未満	5	No. 2, No. 30, No. 31, No. 34, No. 48
10～100Bq/kg	22	No. 1, No. 4, No. 6, No. 18, No. 22, No. 23, No. 24, No. 25, No. 27, No. 32, No. 33, No. 35, No. 36, No. 37, No. 38, No. 39, No. 41, No. 45, No. 47, No. 49, No. 50, No. 51
100～1,000Bq/kg	24	No. 3, No. 5, No. 7, No. 8, No. 9, No. 10, No. 11, No. 12, No. 13, No. 14, No. 15, No. 16, No. 17, No. 19, No. 20, No. 21, No. 26, No. 28, No. 29, No. 40, No. 42, No. 43, No. 44, No. 46
1,000～10,000Bq/kg	0	（該当なし）
10,000～100,000Bq/kg	0	（該当なし）
100,000Bq/kg以上	0	（該当なし）



備考 1) 同一月に複数回調査を実施している地点については、平均値を用いて作図した。

2) 左右の 2 つのグラフで、縦軸のスケールが異なる。

図 3.1.2-12 各地点の経年的な推移（千葉県、埼玉県、東京都：河川底質）

表 3.1.2-21 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（千葉県、埼玉県、東京都：河川底質）

No.	自治体	採取地点		令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数	増減傾向 (※3)					
		水域名	地点	市町村	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値								
1	千葉県	利根川水系	布鍵大橋	印西市・栄町	5	19	14	5	1,300	613		0.61	↗				
2			基べい橋		5	5	5	5	99	21		0.77	—				
3			前新田浄水場取水口	宋町	99	140	120	99	730	254		0.53	↗				
4			長門橋		22	42	32	22	370	119		0.67	↗				
5			ふじみ橋		100	120	110	50	540	148		0.63	↗				
6		手賀沼流入河川	竜台川	成田市	35	40	37	23	220	64		0.68	—				
7			根木名川		110	150	133	69	1,300	417		0.66	↗				
8			大堀川	北柏橋	柏市	170	220	193	120	7,100	1,526		0.95	↗			
9			山王橋下	鎌ヶ谷市	110	190	153	65	2,200	366		0.97	↗				
10			上沼橋		220	330	275	220	12,000	1,828		1.29	↗				
11			染井入落	染井新橋	5	220	102	5	3,600	573		1.29	↗				
12			金山落	鶴井沢橋下流	鎌ヶ谷市・白井市	260	380	325	160	4,500	585		1.35	↗			
13			名内橋	白井市	170	180	173	91	1,400	378		0.75	↗				
14			亀成川	亀成橋	印西市	92	190	141	46	3,500	423		1.41	↗			
15	印旛沼流入河川	印旛沼流入河川	井草水路	井草水路下流	鎌ヶ谷市	400	430	418	270	2,400	832		0.62	↗			
16			二重川	富ヶ谷橋	船橋市・白井市	140	160	153	140	1,900	413		0.84	↗			
17			神崎川	神崎橋	八千代市・印西市	170	360	255	81	1,600	457		0.71	↗			
18			桑納川	桑納橋	八千代市	72	110	95	37	3,000	456		1.23	↗			
19			印旛放水路(上流)	八千代橋		34	260	154	5	4,400	747		0.96	↗			
20			手綫川	黒名橋	佐倉市	220	260	240	200	2,200	664		0.74	↗			
21			師戸川	師戸橋	印西市	75	160	111	71	1,500	321		1.09	↗			
22			鹿島川	岩富橋	佐倉市	20	28	25	20	210	66		0.68	—			
23			高崎川	竜灯橋		57	79	65	55	560	124		0.73	↗			
24			鹿島川	鹿島橋		70	110	90	5	680	123		0.92	▲▲			
25			印旛水路	鶴巻橋	印西市	5	63	32	5	270	85		0.66	—			
26	江戸川水系	江戸川水系	利根運河	運河橋	流山市・野田市	200	240	220	46	3,500	999		0.76	↗			
27			江戸川	流山橋	流山市・三郷市	24	88	46	12	310	103		0.86	↗			
28			坂川	弁天橋	松戸市	280	360	305	280	2,800	943		0.78	↗			
29			新坂川	さかね橋		240	330	275	240	2,700	792		0.77	↗			
30			新葛飾川	新葛飾橋	松戸市・葛飾区	5	10	6	5	810	238		0.99	↗			
31			市川川	市川橋	市川市・江戸川区	5	16	10	5	540	102		1.04	↗			
32			江戸川	京葉道路付近	市川市	28	39	32	17	260	64		0.82	—			
33			行徳可動堰(上流)	市川市		16	97	48	12	700	142		1.24	↗			
34			新行徳橋		市川市・江戸川区	5	5	5	5	65	15		0.81	—			
35			江戸川	江戸川水門下		17	70	48	5	500	41		1.68	—			
36			旧江戸川	河口8km地点		74	120	91	18	310	106		0.62	▲▲			
37			今井橋			13	60	31	5	240	49		0.97	—			
38			浦安橋			66	110	94	29	1,300	271		0.84	↗			
39			真間川	根本水門	市川市	49	120	79	40	610	181		0.77	↗			
40			国分川	須和田橋		160	160	160	130	3,400	388		1.27	↗			
41			春木川	国分川合流前		91	100	95	83	770	224		0.77	↗			
42	埼玉県	荒川水系	大柏川	中沢新橋下流	鎌ヶ谷市・市川市	100	140	115	42	690	180		0.61	↗			
43			浅間橋		市川市	87	120	104	87	530	160		0.74	↗			
44			真間川	三戸前橋	千葉市	16	210	113	16	4,000	512		1.53	↗			
45			海老川	八千代橋		28	45	36	21	3,600	228		2.97	↗			
46			印旛放水路(下流)	新花見川橋	千葉市	76	210	118	48	1,800	264		1.18	↗			
47			都川	都橋		28	57	37	12	530	76		1.28	—			
48	東京都	荒川水系	荒川中流	滝馬室橋	鴻巣市	5	5	5	5	27	8		0.75	—			
49			荒川下流	笹目橋	戸田市	5	32	20	5	340	50		1.49	—			
50			隅田川	葛西橋	江東区・江戸川区	54	60	56	50	420	143		0.63	↗			
51			隅田川	两国橋	中央区	36	63	54	5	420	106		0.87	↗			
全試料数			2,843			5	430	110	5	12,000	350						
検出回数			2,743														
※1: 测定値はCs-137(Bq/kg-dry)。 ※2: 平均値は算術平均。検出下限値未満=5として算出。色分けは①②の方法の区分評価。 ※3: 各地点の増減傾向を①②の方法で分類した結果。																	

2) - 2 湖沼

① 宮城県

宮城県では、湖沼の底質 21 地点において、平成 23 年 10 月～令和 6 年 12 月の間に 27～52 回の調査が実施された。

検出値（平均値）の濃度分布は、10 Bq/kg 未満の地点が 3 地点、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 15 地点、100 以上 1,000 Bq/kg 未満の地点が 3 地点であった（表 3.1.2-22 及び表 3.1.2-23 参照）。

また、増減傾向については、約 3 割の地点（6 地点）で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下で推移していた。残りの 15 地点では、14 地点で減少傾向、1 地点でばらつきがみられた。

表 3.1.2-22 各地点の検出値の区分評価結果（宮城県：湖沼底質）

濃度区分	該当地点数	対象地点
10 Bq/kg 未満	3	No. 9, No. 10, No. 21
10～100 Bq/kg	15	No. 1, No. 3, No. 4, No. 5, No. 6, No. 7, No. 8, No. 11, No. 12, No. 13, No. 14, No. 15, No. 18, No. 19, No. 20
100～1,000 Bq/kg	3	No. 2, No. 16, No. 17
1,000～10,000 Bq/kg	0 (該当なし)	
10,000～100,000 Bq/kg	0 (該当なし)	
100,000 Bq/kg 以上	0 (該当なし)	

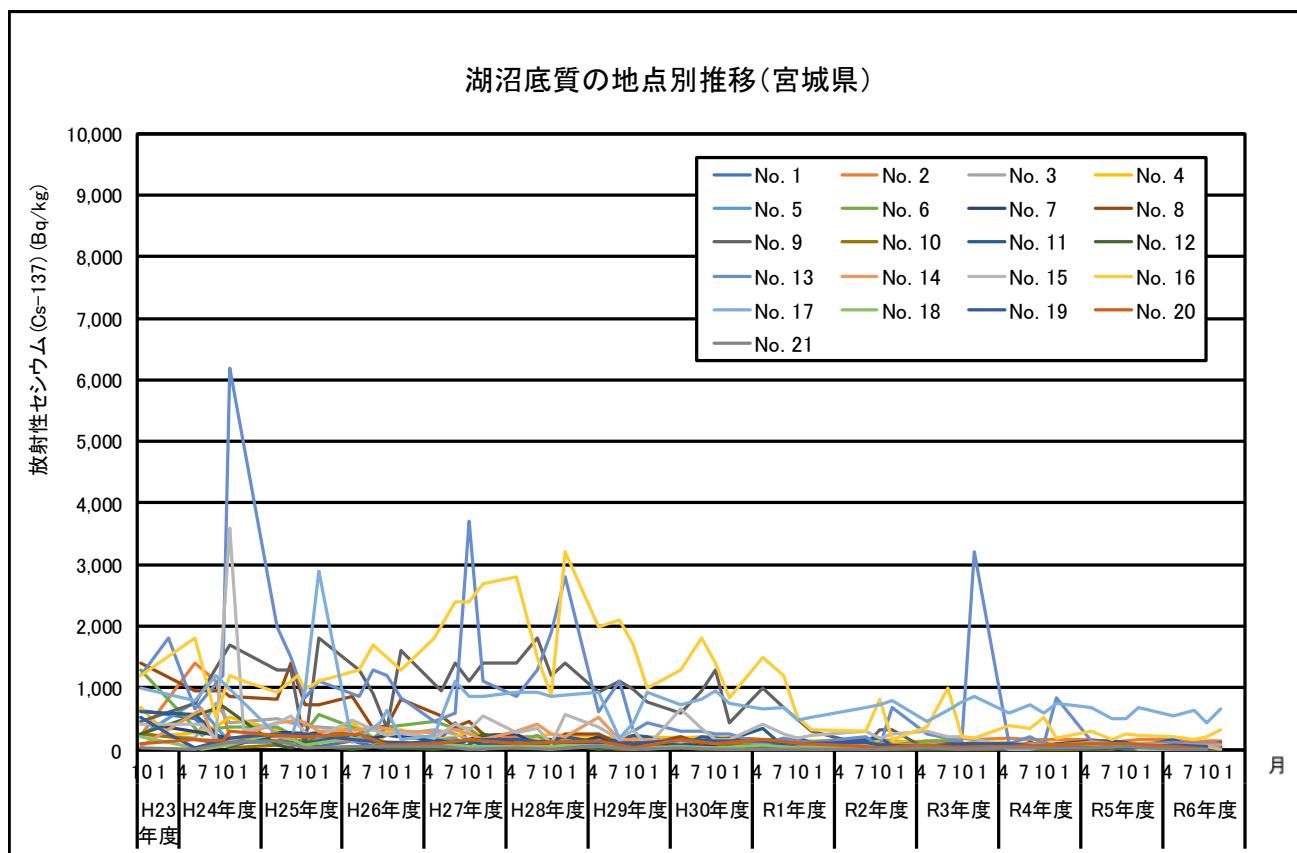


図 3.1.2-13 各地点の経年的な推移（宮城県：湖沼底質）

表 3.1.2-23 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（宮城県：湖沼底質）

② 福島県

ア) 浜通り

福島県浜通りでは、湖沼の底質 41 地点において、平成 23 年 9 月～令和 7 年 2 月の間に 50～131 回の調査が実施された。

検出値（平均値）の濃度分布は、10 Bq/kg 未満の地点はなく、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 2 地点、100 以上 1,000 Bq/kg 未満の地点が 17 地点、1,000 以上 10,000 Bq/kg 未満の地点が 19 地点、10,000 以上 100,000 Bq/kg 未満の地点が 3 地点であった（表 3.1.2-24 及び表 3.1.2-25 参照）。

また、増減傾向については、35 地点で減少傾向、1 地点で横ばい、3 地点でばらつき、2 地点で増加傾向がみられた。

表 3.1.2-24 各地点の検出値の区分評価結果（福島県浜通り：湖沼底質）

濃度区分	該当地点数	対象地点
10Bq/kg未満	0(該当なし)	
10～100Bq/kg	2	No. 14, No. 29
100～1,000Bq/kg	17	No. 1, No. 2, No. 5, No. 11, No. 12, No. 13, No. 16, No. 19, No. 23, No. 28, No. 33, No. 34, No. 37, No. 38, No. 39, No. 40, No. 41
1,000～10,000Bq/kg	19	No. 3, No. 4, No. 6, No. 7, No. 8, No. 9, No. 10, No. 15, No. 17, No. 20, No. 21, No. 22, No. 26, No. 27, No. 30, No. 31, No. 32, No. 35, No. 36
10,000～100,000Bq/kg	3	No. 18, No. 24, No. 25
100,000Bq/kg以上	0(該当なし)	

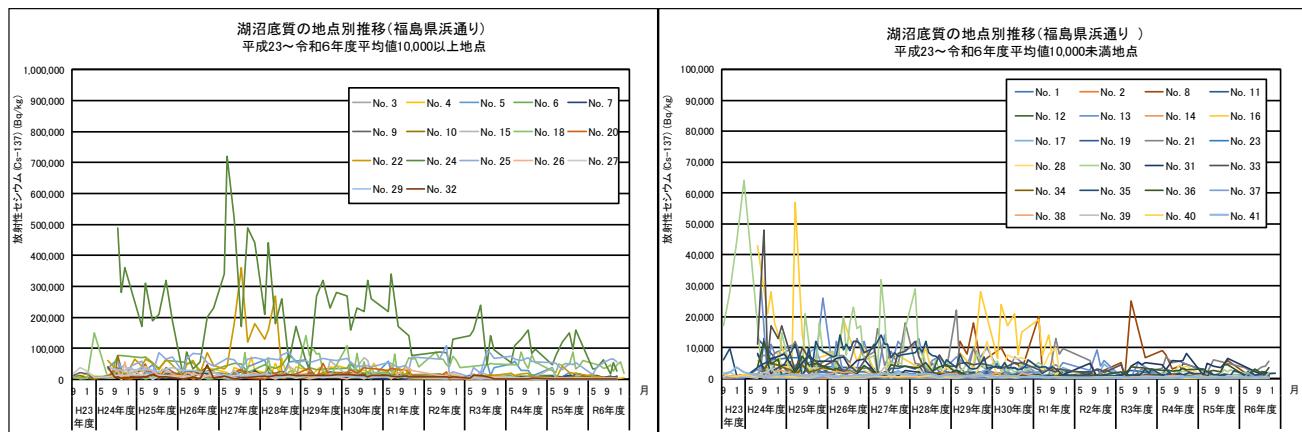
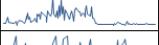
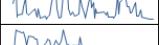
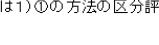


図 3.1.2-14 各地点の経年的な推移（福島県浜通り：湖沼底質）

表 3.1.2-25 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（福島県浜通り：湖沼底質）

採取地点			令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数	増減傾向（※3）		
No.	地点	市町村	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値					
1	相双 (農業用ため池)	武井	新地町	480	940	698	66	4,800	1,482		0.62	↗	
2		内沢	相馬市	97	210	151	22	1,300	373		0.72	↗	
3	松ヶ原ダム(宇多川湖)			1,200	7,100	2,550	690	37,000	7,742		0.96	↗	
4	真野ダム		飯舘村	2,900	5,800	4,370	28	73,000	16,920		0.89	↗	
5	相双 (農業用ため池)	藍ノ沢		140	960	550	140	65,000	20,733		0.89	▲▼	
6	岩部ダム貯水池			6,700	9,300	7,933	280	79,000	27,987		0.76	↗	
7	相双 (農業用ため池)	風兼ダム		6,100	13,000	8,967	340	28,000	9,351		0.70	↗	
8		笹峰		880	1,900	1,325	90	25,000	3,727		1.23	▲▼	
9	高の倉ダム貯水池		南相馬市	3,700	7,700	5,600	660	27,000	12,513		0.58	↗	
10	横川ダム貯水池			1,500	16,000	7,083	970	78,000	13,072		0.97	↗	
11	相双 (農業用ため池)	太良谷地		80	2,400	775	80	13,000	2,336		0.80	↗	
12		武志谷地		96	240	161	5	1,000	194		1.31	↗	
13		龍ヶ迫		180	890	450	140	29,000	5,076		1.12	↗	
14		上田代	川俣町	5	140	52	5	3,200	267		1.98	↗	
15		小阿久臺	浪江町	1,000	3,700	1,940	580	70,000	12,519		1.24	↗	
16	相双 (農業用ため池)	外内	飯舘村	160	620	332	100	57,000	6,844		1.53	↗	
17		明郷迫2号	南相馬市	410	1,300	1,052	40	10,000	1,947		0.90	↗	
18	大柿ダム		浪江町	20,000	56,000	39,900	570	150,000	36,679		0.83	↗	
19	相双 (農業用ため池)	上野川	葛尾村	38	500	188	31	13,000	629		2.63	↗	
20		平吾入	飯舘村	650	3,500	2,170	140	52,000	12,992		1.07	↗	
21		目倉沢第2	浪江町	2,100	5,600	3,600	5	22,000	5,226		0.83	↗	
22		丈六		1,000	2,400	1,633	37	360,000	39,783		1.58	↗	
23	古道川ダム		田村市	320	540	452	38	6,900	1,238		1.37	↗	
24	相双 (農業用ため池)	沢入第1	双葉町	18,000	64,000	38,500	15,000	720,000	186,764		0.74	↗	
25		鈴内4	大熊町	16,000	66,000	49,333	7,200	110,000	55,029		0.36	▲▼	
26		西羽黒	双葉町	560	4,400	3,193	440	56,000	11,044		0.99	↗	
27	坂下ダム		大熊町	2,800	3,600	3,017	240	38,000	8,536		0.69	↗	
28	相双 (農業用ため池)	頭森2		420	910	550	5	12,000	2,401		1.06	↗	
29		夜ノ森	富岡町	5	170	72	5	38,000	17,153		0.68	↗	
30	滝川ダム			1,400	3,100	1,940	120	64,000	5,732		1.59	↗	
31	相双 (農業用ため池)	滝の沢		1,300	1,700	1,567	30	8,100	2,910		0.85	▲▼	
32		上繁岡第1	楢葉町	540	2,400	1,557	430	48,000	8,280		0.93	↗	
33		下繁岡		180	1,200	733	180	48,000	4,400		1.42	↗	
34	こまちダム		小野町	260	570	457	120	5,200	1,150		0.87	↗	
35	木戸ダム		楢葉町	1,000	2,200	1,530	170	14,000	4,309		0.85	↗	
36	相双 (農業用ため池)	大堤		900	3,400	1,953	460	12,000	2,656		0.74	↗	
37		いわき (農業用ため池)	新池	250	1,700	688	18	1,700	258		1.03	↗	
38	小玉ダム貯水池(だま湖)		いわき市	150	260	198	140	2,800	850		0.73	↗	
39	いわき (農業用ため池)	神下堤下		110	1,800	505	28	3,700	602		1.10	↗	
40		高柴ダム貯水池(たかしば湖)		160	240	183	130	1,300	490		0.58	↗	
41	四時ダム貯水池			230	290	263	120	3,600	723		0.78	↗	
全試料数		3,196		5	66,000	5,439	5	720,000	13,442		↗ : 増加傾向		
検出回数		3,185		※1: 測定値はCs-137(Bq/kg-dry)。							↘ : 減少傾向		
				※2: 平均値は算術平均。検出下限値未満=5として算出。色分けは1)①の方法の区分評価。							▲ : ばらつき		
				※3: 各地点の増減傾向を1)②の方法で分類した結果。							~~ : 横ばい		
				10未満	10～100	100～1,000	1,000～10,000	10,000～100,000	100,000～		—— : 100Bq/kg以下		

イ) 中通り

福島県中通りでは、湖沼の底質 12 地点において、平成 23 年 9 月～令和 7 年 2 月の間に 69～118 回の調査が実施された。

検出値（平均値）の濃度分布は、10 Bq/kg 未満の地点はなく、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 1 地点、100 以上 1,000 Bq/kg 未満の地点が 8 地点、1,000 以上 10,000 Bq/kg 未満の地点が 3 地点であった（表 3.1.2-26 及び表 3.1.2-27 参照）。

また、増減傾向については、約 1 割の地点（1 地点）で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下で推移していた。残りの 11 地点では、6 地点で減少傾向、4 地点でばらつき、1 地点で増加傾向がみられた。

表 3.1.2-26 各地点の検出値の区分評価結果（福島県中通り：湖沼底質）

濃度区分	該当地点数	対象地点
10 Bq/kg 未満	0	（該当なし）
10～100 Bq/kg	1	No. 48
100～1,000 Bq/kg	8	No. 42, No. 43, No. 44, No. 45, No. 49, No. 50, No. 51, No. 52
1,000～10,000 Bq/kg	3	No. 46, No. 47, No. 53
10,000～100,000 Bq/kg	0	（該当なし）
100,000 Bq/kg 以上	0	（該当なし）

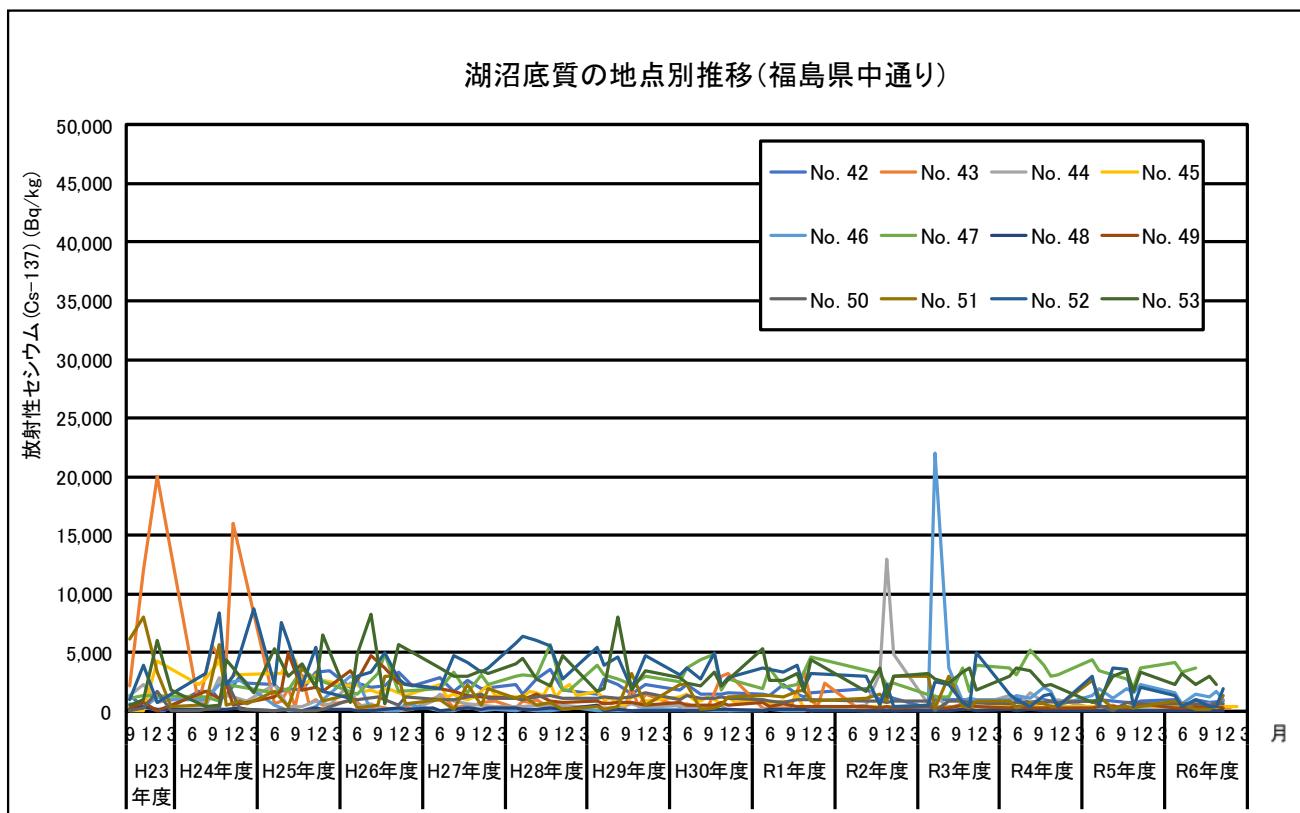


図 3.1.2-15 各地点の経年的な推移（福島県中通り：湖沼底質）

表 3.1.2-27 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（福島県中通り：湖沼底質）

No.	採取地点		市町村	令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数	増減傾向 (※3)	
	地点			最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値				
42	棚上川ダム貯水池		福島市	280	950	720	60	3,500	1,534		0.53		
43	県北 (農業用ため池)	半田沼	桑折町	140	260	204	83	20,000	1,126		2.42		
44	県北 (農業用ため池)	大池	本宮市	200	610	348	21	13,000	867		1.85		
45	三春ダム		三春町	180	460	322	5	4,500	1,136		0.90		
46	県中 (農業用ため池)	宝ノ草	郡山市	570	1,700	1,220	5	22,000	966		2.68		
47	羽鳥湖		天栄村	3,300	4,100	3,667	810	5,700	2,771		0.40		
48	県中 (農業用ため池)	広平	須賀川市	13	44	34	5	490	94		0.87		
49	千五沢ダム貯水池		石川町	190	360	275	17	4,900	932		1.09		
50	県南 (農業用ため池)	渡利池	矢吹町	460	610	568	16	2,600	781		0.58		
51	県南 (農業用ため池)	泉川	白河市	98	1,300	571	98	8,000	1,290		1.10		
52	堀川ダム		西郷村	330	1,900	888	320	8,700	2,894		0.68		
53	南湖		白河市	2,200	3,200	2,540	370	8,300	3,000		0.54		
全試料数		985		13	4,100	761	5	22,000	1,404				
検出回数		980		※1: 測定値はCs-137(Bq/kg-dry)。									
				※2: 平均値は算術平均。検出下限値未満=5として算出。色分けは1)①の方法の区分評価。									
				※3: 各地点の増減傾向を1)②の方法で分類した結果。									
				10未満	10～100	100～1,000	1,000～10,000	10,000～100,000	100,000～				

ウ) 会津

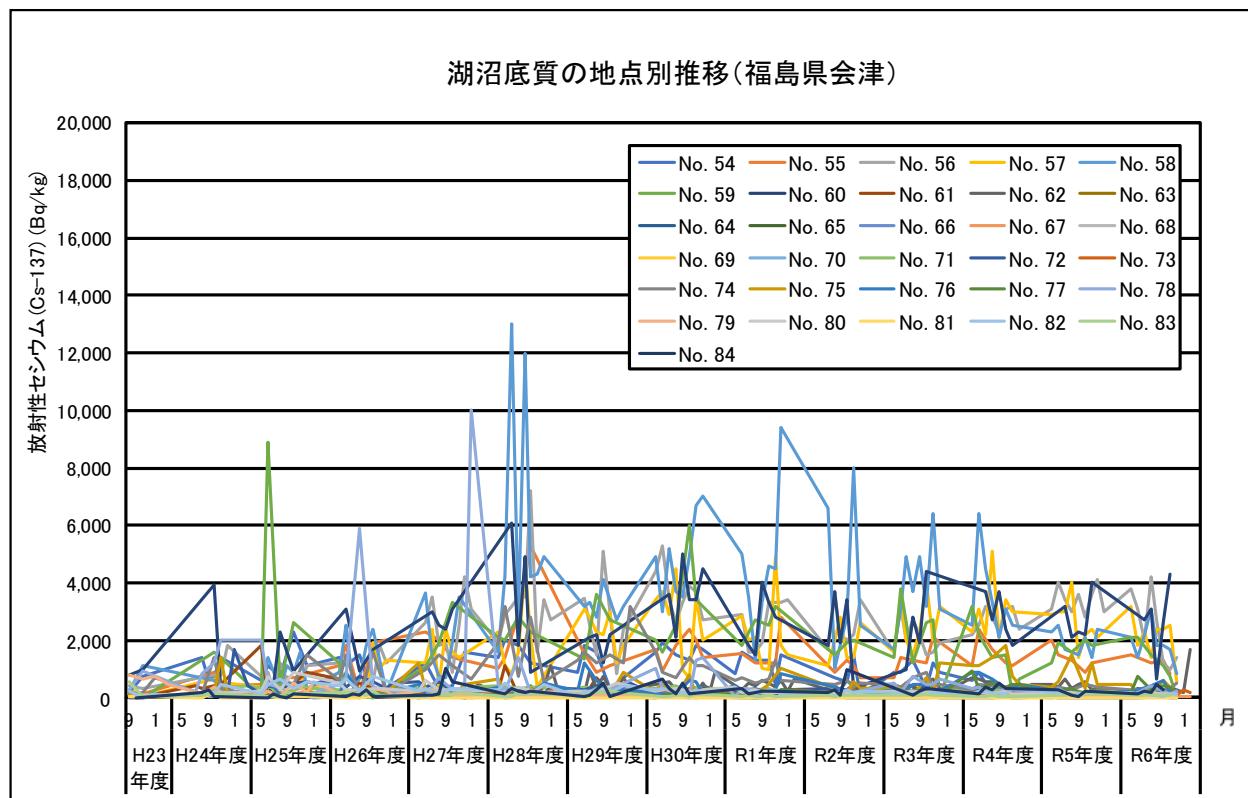
福島県会津では、湖沼の底質 31 地点において、平成 23 年 9 月～令和 7 年 2 月の間に 56～125 回の調査が実施された。

検出値（平均値）の濃度分布は、10 Bq/kg 未満の地点が 1 地点、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 11 地点、100 以上 1,000 Bq/kg 未満の地点が 13 地点、1,000 以上 10,000 Bq/kg 未満の地点が 6 地点であった（表 3.1.2-28 及び表 3.1.2-29 参照）。

また、増減傾向については、3 割以上の地点（10 地点）で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下で推移していた。残りの 21 地点では、9 地点で減少傾向、1 地点で横ばい、6 地点でばらつき、5 地点で増加傾向がみられた。

表 3.1.2-28 各地点の検出値の区分評価結果（福島県会津：湖沼底質）

濃度区分	該当 地点数	対象地点
10Bq/kg未満	1	No. 81
10～100Bq/kg	11	No. 61, No. 63, No. 64, No. 65, No. 66, No. 67, No. 68, No. 69, No. 70, No. 79, No. 83
100～1,000Bq/kg	13	No. 54, No. 62, No. 71, No. 72, No. 73, No. 74, No. 75, No. 76, No. 77, No. 78, No. 80, No. 82, No. 84
1,000～10,000Bq/kg	6	No. 55, No. 56, No. 57, No. 58, No. 59, No. 60
10,000～100,000Bq/kg	0	（該当なし）
100,000Bq/kg以上	0	（該当なし）



備考) 同一月に複数回調査を実施している地点については、平均値を用いて作図した。

図 3.1.2-16 各地点の経年的な推移（福島県会津：湖沼底質）

表 3.1.2-29 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（福島県会津：湖沼底質）

No.	採取地点		令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数	増減傾向 (※3)									
	地点	市町村	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値												
54	日中ダム	喜多方市	87	200	139	43	2,300	883		0.74										
55	曾原湖	北塙原村	850	1,500	1,250	110	5,300	1,383		0.59										
56	檜原湖		970	4,200	2,421	150	7,200	2,387		0.55										
57	小野川湖	猪苗代町	540	3,200	2,068	57	5,100	1,898		0.64										
58	秋元湖		850	3,100	1,869	120	13,000	2,982		0.78										
59	毘沙門沼	北塙原村	40	2,100	1,262	5	8,900	1,862		0.79										
60	雄国沼		630	4,300	2,666	130	6,400	2,530		0.55										
61	会津(農業用ため池)	大沼	65	150	97	5	1,800	221		1.29										
62	湖心	会津若松市	71	1,700	404	5	1,700	314		0.77										
63	高橋川河口	猪苗代町	24	52	37	23	220	80		0.55										
64	小黒川河口		26	39	33	19	160	55		0.46										
65	天神浜		27	35	30	23	150	56		0.49										
66	菱沼川河口		5	17	13	5	66	23		0.61										
67	安積疏水取水口		20	74	39	20	350	100		0.58										
68	浜路浜	郡山市	41	56	51	41	170	98		0.38										
69	舟津港		34	100	53	34	290	97		0.48										
70	舟津川河口沖		18	29	23	12	520	50		1.34										
71	青松ヶ浜		180	270	233	130	430	287		0.26										
72	原川河口	会津若松市	140	240	188	45	1,700	285		0.79										
73	小石ヶ浜水門	猪苗代町・会津若松市	73	290	143	22	310	164		0.37										
74	東山ダム貯水池	会津若松市	250	530	337	18	3,200	798		0.84										
75	湖心	金山町	85	580	291	45	1,800	403		1.04										
76	沼沢湖		200	610	328	37	1,200	308		0.80										
77	前の沢川河口沖		90	760	347	15	940	197		0.83										
78	会津(農業用ため池)	寺入	30	430	210	15	10,000	615		2.26										
79	大川ダム貯水池	会津若松市	37	91	67	14	780	126		1.35										
80	田子倉貯水池	只見町	120	190	146	90	890	245		0.60										
81	南会津(農業用ため池)	福井	5	5	5	5	160	9		2.07										
82	田島ダム貯水池(舟島湖)	南会津町	54	170	119	5	760	230		0.65										
83	奥只見貯水池	檜枝岐村	67	110	85	18	550	99		0.73										
84	尾瀬沼		140	450	260	5	1,100	242		0.97										
全試料数		2,417				5	4,300	512	5	13,000	631									
検出回数		2,340				※ 1: 測定値はCs-137(Bq/kg-dry)。														
※ 2: 平均値は算術平均。検出下限値未満=5として算出。色分けは1)①の方法の区分評価。																				
※ 3: 各地点の増減傾向を1)②の方法で分類した結果。																				
			10未満	10～100	100～1,000	1,000～10,000	10,000～100,000	100,000～												

③ 茨城県

茨城県では、湖沼の底質 19 地点において、平成 23 年 9 月～令和 7 年 1 月の間に 44～53 回の調査が実施された。

検出値（平均値）の濃度分布は、10 Bq/kg 未満の地点はなく、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 7 地点、100 以上 1,000 Bq/kg 未満の地点が 12 地点であった（表 3.1.2-30 及び表 3.1.2-31 参照）。

また、増減傾向については、3 割以上の地点（6 地点）で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下で推移していた。残りの 13 地点では、11 地点で減少傾向、1 地点で横ばい、1 地点で増加傾向がみられた。

表 3.1.2-30 各地点の検出値の区分評価結果（茨城県：湖沼底質）

濃度区分	該当地点数	対象地点
10Bq/kg未満	0(該当なし)	
10～100Bq/kg	7	No. 1, No. 2, No. 5, No. 7, No. 9, No. 10, No. 11
100～1,000Bq/kg	12	No. 3, No. 4, No. 6, No. 8, No. 12, No. 13, No. 14, No. 15, No. 16, No. 17, No. 18, No. 19
1,000～10,000Bq/kg	0(該当なし)	
10,000～100,000Bq/kg	0(該当なし)	
100,000Bq/kg以上	0(該当なし)	

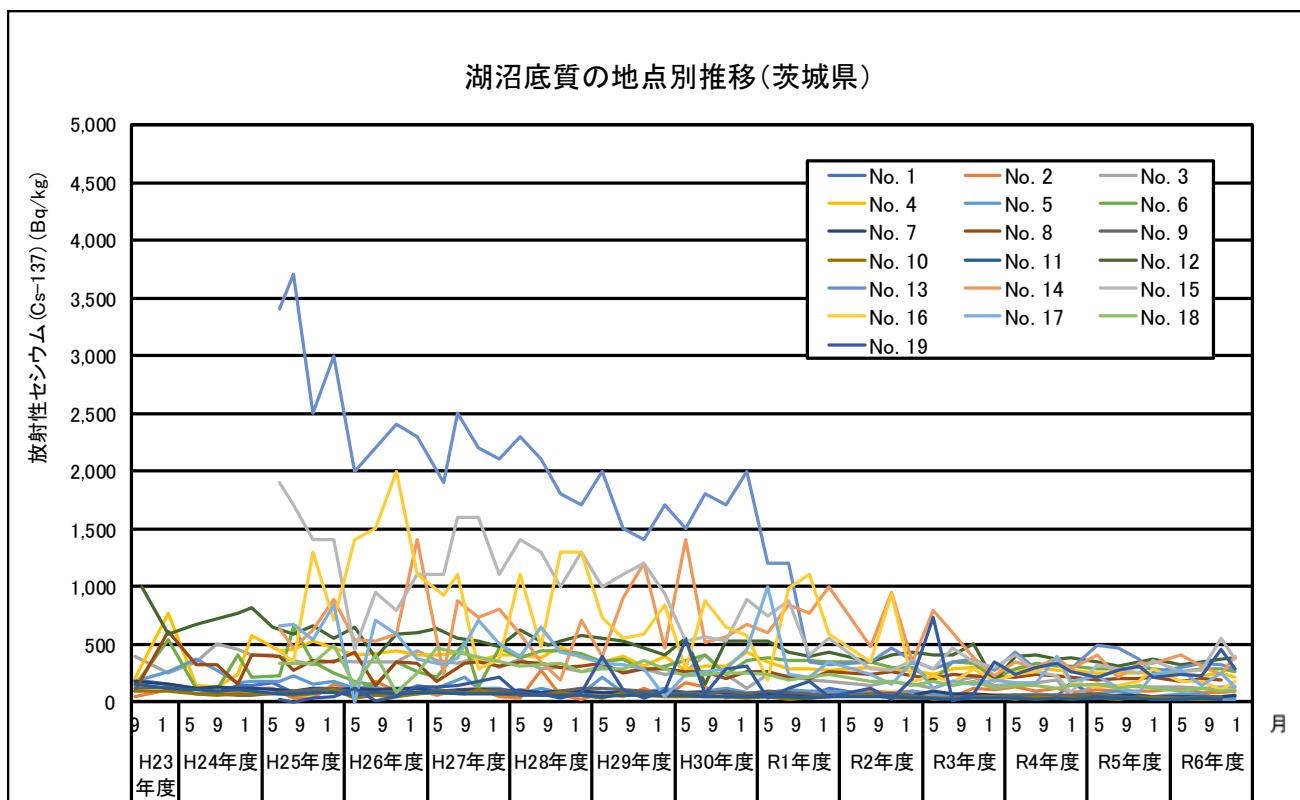


図 3.1.2-17 各地点の経年的な推移（茨城県：湖沼底質）

表 3.1.2-31 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（茨城県：湖沼底質）

No.	採取地点		市町村	令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数	増減傾向 (※3)
	地点	市町村		最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値			
1	涸沼	広浦	茨城町	26	46	38	26	190	77		0.48	—
2		宮前		82	120	93	23	270	88		0.49	—
3		親沢		120	130	128	46	500	254		0.43	↘
4	霞ヶ浦	玉造冲	行方市	210	250	228	130	770	335		0.33	↘
5		掛馬冲	阿見町	17	70	42	17	370	108		0.64	↘
6		湖心	美浦村	260	290	273	98	640	311		0.34	↔
7		麻生冲	稻敷市	39	50	44	38	180	81		0.37	—
8	北浦	釜谷冲	行方市	180	200	190	90	610	264		0.33	↘
9		神宮橋	潮来市	30	59	45	23	130	71		0.35	—
10	常陸利根川	外浪逆浦		16	31	22	16	100	48		0.44	—
11		息栖	神栖市	18	29	24	18	150	54		0.51	—
12	牛久沼	牛久沼湖心	龍ヶ崎市	320	380	353	150	990	492		0.31	↘
13	水沼ダム	湖心	北茨城市	280	330	308	260	3,700	1,307		0.75	↘
14	小山ダム		高萩市	240	410	338	190	1,400	577		0.51	↘
15	花貫ダム			260	550	363	76	1,900	751		0.64	↘
16	十王ダム		日立市	100	180	155	100	2,000	601		0.77	↘
17	竜神ダム		常陸太田市	130	270	198	5	1,000	337		0.64	↘
18	藤井川ダム		城里町	89	120	100	83	490	219		0.47	↘
19	飯田ダム		笠間市	220	450	300	5	730	177		0.87	↗
全試料数	962			16	550	170	5	3,700	314		↗ : 増加傾向	
検出回数	960			※1: 測定値はCs-137(Bq/kg-dry)。							↘ : 減少傾向	
				※2: 平均値は算術平均。検出下限値未満=5として算出。色分けは1)①の方法の区分評価。							↔ : ばらつき	
				※3: 各地点の増減傾向を1)②の方法で分類した結果。							↔↔ : 横ばい	
				10未満	10～100	100～1,000	1,000～10,000	10,000～100,000	100,000～		— : 100Bq/kg以下	

④ 栃木県

栃木県では、湖沼の底質 8 地点において、平成 23 年 10 月～令和 6 年 12 月の間に 49～52 回の調査が実施された。

検出値（平均値）の濃度分布は、10 Bq/kg 未満の地点はなく、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 2 地点、100 以上 1,000 Bq/kg 未満の地点が 6 地点であった（表 3.1.2-32 及び表 3.1.2-33 参照）。

また、増減傾向については、約1割の地点（1地点）で過年度を含めた平均値が100Bq/kg以下で推移していた。残りの7地点では、3地点で減少傾向、2地点で横ばい、1地点でばらつき、1地点で増加傾向がみられた。

表 3.1.2-32 各地点の検出値の区分評価結果（栃木県：湖沼底質）

濃度区分	該当地点数	対象地点
10Bq/kg未満	0	(該当なし)
10~100Bq/kg	2	No. 3, No. 5
100~1,000Bq/kg	6	No. 1, No. 2, No. 4, No. 6, No. 7, No. 8
1,000~10,000Bq/kg	0	(該当なし)
10,000~100,000Bq/kg	0	(該当なし)
100,000Bq/kg以上	0	(該当なし)

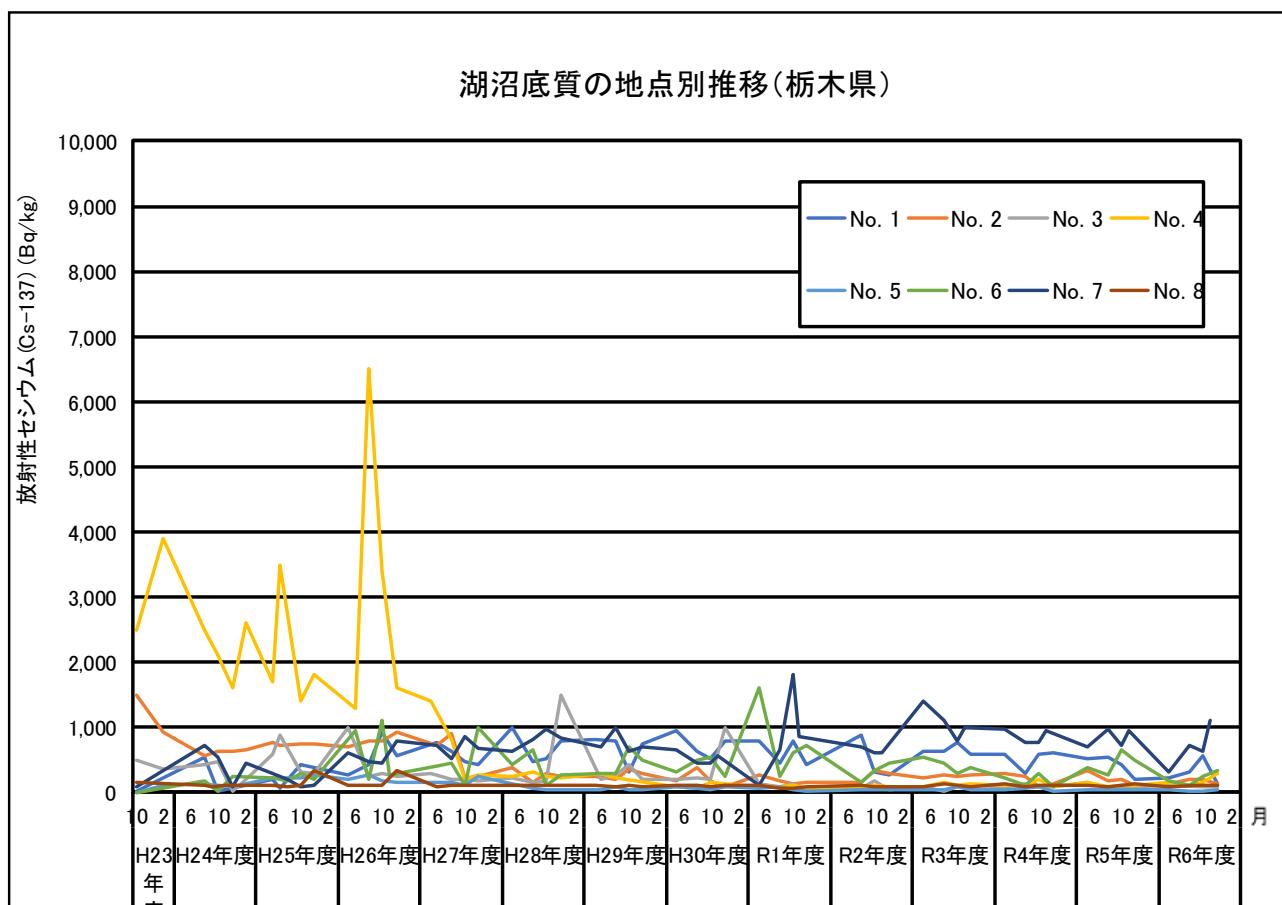
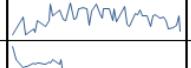
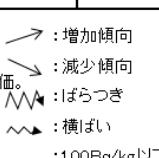


図 3.1.2-18 各地点の経年的な推移（栃木県：湖沼底質）

表 3.1.2-33 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（栃木県：湖沼底質）

No.	水系	採取地点		市町村	令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数	増減傾向 (※3)	
		最小値	最大値		平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値			
1	那珂川水系	深山ダム貯水池	湖心	那須塩原市	140	570	310	11	990	523		0.47		
2		塩原ダム貯水池	湖心		130	210	168	84	1,500	395		0.75		
3	鬼怒川水系	川治ダム貯水池	湖心	日光市	91	110	98	25	1,500	264		1.07		
4		五十里ダム貯水池	湖心		120	300	180	61	6,500	861		1.52		
5		川俣ダム貯水池	湖心		28	38	33	5	260	90		0.78		
6		湯ノ湖	湖心		120	340	218	5	1,600	388		0.76		
7		中禅寺湖	湖心		320	1,100	695	82	1,800	678		0.48		
8	渡良瀬川水系	渡良瀬貯水池	湖心	栃木市	80	120	102	63	340	112		0.44		
全試料数		410			28	1,100	229	5	6,500	413				
検出回数		408												
※1: 測定値はCs-137(Bq/kg-dry)。 ※2: 平均値は算術平均。検出下限値未満=5として算出。色分けは1)①の方法の区分評価。 ※3: 各地点の増減傾向を1)②の方法で分類した結果。														
														
														

⑤ 群馬県

群馬県では、湖沼の底質 24 地点において、平成 23 年 11 月～令和 6 年 12 月の間に 47～53 回の調査が実施された。

検出値（平均値）の濃度分布は、10 Bq/kg 未満の地点はなく、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 5 地点、100 以上 1,000 Bq/kg 未満の地点が 15 地点、1,000 以上 10,000 Bq/kg 未満の地点が 4 地点であった（表 3.1.2-34 及び表 3.1.2-35 参照）。

また、増減傾向については、16 地点で減少傾向、1 地点で横ばい、4 地点でばらつき、3 地点で增加傾向がみられた。

表 3.1.2-34 各地点の検出値の区分評価結果（群馬県：湖沼底質）

濃度区分	該当地点数	対象地点
10Bq/kg未満	0(該当なし)	
10~100Bq/kg	5	No. 12, No. 15, No. 18, No. 19, No. 24
100~1,000Bq/kg	15	No. 1, No. 3, No. 4, No. 5, No. 7, No. 8, No. 10, No. 11, No. 14, No. 16, No. 17, No. 20, No. 21, No. 22, No. 23
1,000~10,000Bq/kg	4	No. 2, No. 6, No. 9, No. 13
10,000~100,000Bq/kg	0(該当なし)	
100,000Bq/kg以上	0(該当なし)	

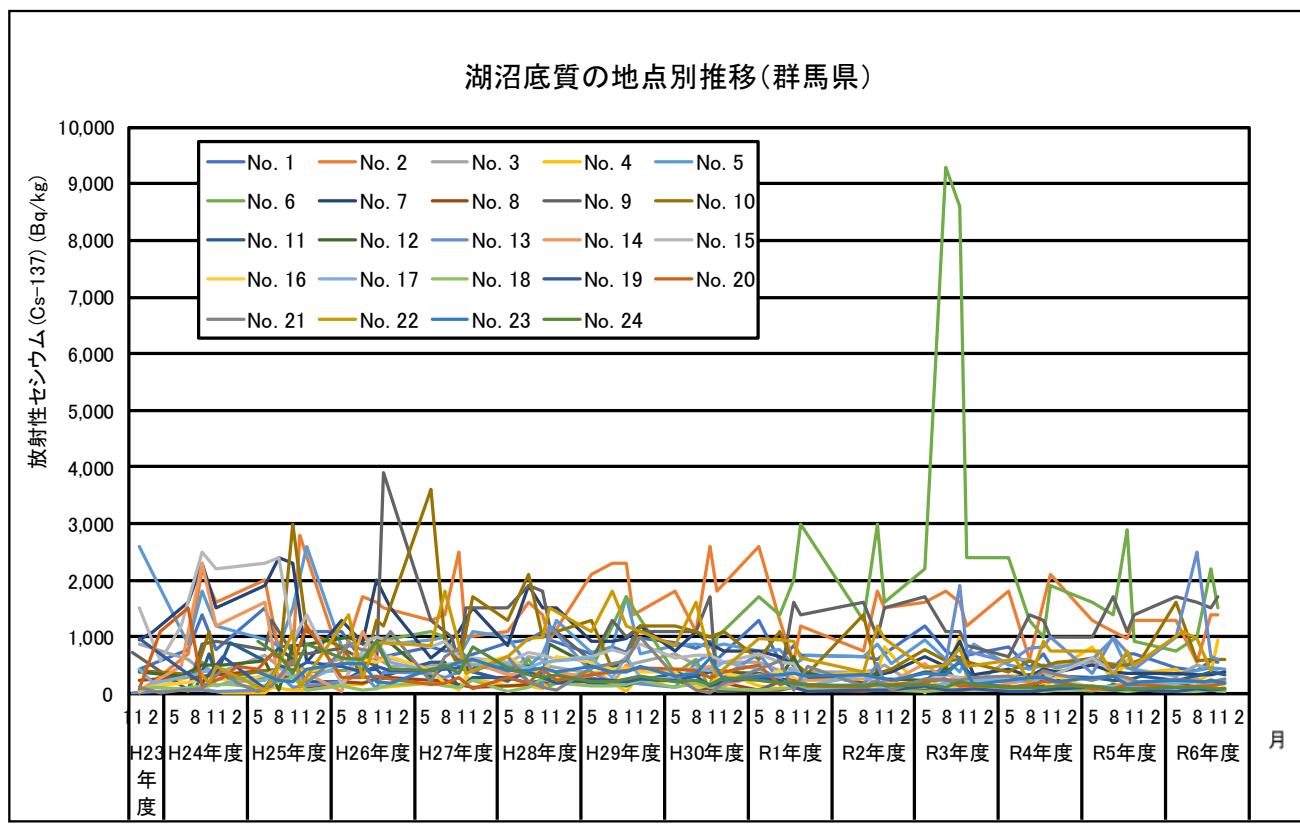


図 3.1.2-19 各地点の経年的な推移 (群馬県: 湖沼底質)

表 3.1.2-35 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（群馬県：湖沼底質）

採取地点			令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数	増減傾向 (※3)						
No.	水系	地点	市町村	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値								
1	利根川水域	奥利根湖(矢木沢ダム)	湖心	410	580	498	410	1,500	778		0.31						
2		ならまた湖(奈良俣ダム)	湖心	560	1,400	1,165	5	2,800	1,451		0.42						
3		洞元湖(須田貝ダム)	湖心	300	490	400	56	870	457		0.34						
4		丸沼(丸沼ダム)	湖心	品片村	210	950	488	5	1,000	269		0.86					
5		藤原湖(藤原ダム)	湖心	みなかみ町	330	450	400	330	2,600	860		0.55					
6		玉原湖(玉原ダム)	湖心	沼田市	760	2,200	1,365	33	9,300	1,442		1.22					
7		赤谷湖(赤谷ダム)	湖心	みなかみ町	320	380	350	250	2,400	914		0.65					
8		菌原湖(菌原ダム)	湖心	沼田市	110	170	140	45	400	168		0.51					
9		赤城大沼	湖心	前橋市	1,500	1,700	1,625	43	3,900	1,149		0.53					
10	吾妻川水域	奥四万湖(四万川ダム)	湖心	中之条町	580	1,600	845	250	3,600	894		0.72					
11		四万湖(中之条ダム)	湖心		220	370	308	47	890	321		0.55					
12		田代湖(鹿沢ダム)	湖心	嬬恋村	28	130	58	28	1,000	388		0.69					
13	鳥川水域	榛名湖	湖心	高崎市	590	2,500	1,185	5	2,500	469		1.00					
14		露積湖(露積ダム)	湖心	安中市	140	250	195	26	2,300	415		0.94					
15		碓氷湖(坂本ダム)	湖心		64	130	97	64	2,500	678		0.88					
16		荒船湖(道平川ダム)	湖心	下仁田町	95	260	151	37	660	276		0.65					
17		大塩湖(大塩ダム)	湖心	富岡市	170	220	198	110	930	335		0.54					
18		神流湖(下久保ダム)	湖心	藤岡市・神川町	35	60	46	26	280	104		0.59					
19		蛇神湖(塩沢ダム)	湖心	神流町	41	90	67	35	960	235		0.83					
20	渡良瀬川水域	草木湖(草木ダム)	湖心	みどり市	110	170	135	79	1,500	308		0.90					
21		梅田湖(桐生川ダム)	湖心	桐生市	200	260	238	5	1,100	332		0.78					
22	中津川水域	野反湖(野反ダム)	湖心	中之条町	400	1,100	827	60	1,800	773		0.55					
23	渡良瀬川水域	城沼	中央部	館林市	180	220	205	150	620	339		0.37					
24		多々良沼	中央部		83	100	92	83	930	291		0.81					
全試料数		1,219				28	2,500	464	5	9,300	567						
検出回数		1,215				※1:測定値はCs-137(Bq/kg-dry)。											
※2:平均値は算術平均。検出下限値未満=5として算出。色分けは1)①の方法の区分評価。																	
※3:各地点の増減傾向を1)②の方法で分類した結果。																	

⑥ 千葉県

千葉県では、湖沼の底質8地点において、平成23年11月～令和7年1月の間に53回の調査が実施された。

検出値（平均値）の濃度分布は、10Bq/kg未満の地点はなく、10以上100Bq/kg未満の地点が1地点、100以上1,000Bq/kg未満の地点が6地点、1,000Bq/kg以上10,000Bq/kg未満の地点が1地点であった（表3.1.2-36及び表3.1.2-37参照）。

また、増減傾向については、8地点全てで減少傾向がみられた。

表3.1.2-36 各地点の検出値の区分評価結果（千葉県：湖沼底質）

濃度区分	該当地点数	対象地点
10Bq/kg未満	0（該当なし）	
10～100Bq/kg	1 No. 8	
100～1,000Bq/kg	6 No. 1, No. 2, No. 3, No. 5, No. 6, No. 7	
1,000～10,000Bq/kg	1 No. 4	
10,000～100,000Bq/kg	0（該当なし）	
100,000Bq/kg以上	0（該当なし）	

No.	採取地点		令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数	増減傾向（※3）						
	地点	市町村	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値									
1	手賀沼	布佐下	印西市	88	150	120	88	620	332		0.43						
2		下手賀沼中央		230	320	273	170	750	313								
3		手賀沼中央	我孫子市・柏市	410	510	443	280	1,200	722								
4		根戸下		1,000	1,200	1,100	480	5,400	2,264								
5	印旛沼	北印旛沼中央	印西市・成田市	190	240	218	100	570	283		0.28						
6		一本松下		180	200	188	97	680	308								
7		上水道取水口下	佐倉市	220	260	240	180	680	384								
8		阿宗橋	八千代市	55	63	60	12	700	176								
全試料数			55	1,200	330	12	5,400	598	↗ : 増加傾向 ↘ : 減少傾向 ~~~~ : ばらつき ~~~ : 横ばい — : 100Bq/kg以下								
検出回数			424						↗ : 増加傾向 ↘ : 減少傾向 ~~~~ : ばらつき ~~~ : 横ばい — : 100Bq/kg以下								
									↗ : 増加傾向 ↘ : 減少傾向 ~~~~ : ばらつき ~~~ : 横ばい — : 100Bq/kg以下								
									↗ : 増加傾向 ↘ : 減少傾向 ~~~~ : ばらつき ~~~ : 横ばい — : 100Bq/kg以下								

図3.1.2-20 各地点の経年的な推移（千葉県：湖沼底質）

表 3.1.2-37 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（千葉県：湖沼底質）

No.	採取地点		令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数	増減傾向 (※3)
	地点	市町村	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値			
1	手賀沼	布佐下 印西市	88	150	120	88	620	332		0.43	
2		下手賀沼中央	230	320	273	170	750	313		0.37	
3	印旛沼	手賀沼中央 我孫子市・柏市	410	510	443	280	1,200	722		0.28	
4			根戸下	1,000	1,200	1,100	480	5,400	2,264		0.47
5	印旛沼	北印旛沼中央	190	240	218	100	570	283		0.28	
6		一本松下	180	200	188	97	680	308		0.37	
7		上水道取水口下	220	260	240	180	680	384		0.34	
8		阿宗橋	55	63	60	12	700	176		0.96	
全試料数	424		55	1,200	330	12	5,400	598			
検出回数	424										

※ 1: 測定値はCs-137(Bq/kg-dry)。
 ※ 2: 平均値は算術平均。検出下限値未満=5として算出。色分けは1)①の方法の区分評価。
 ※ 3: 各地点の増減傾向を1)②の方法で分類した結果。

10未満 10～100 100～1,000 1,000～10,000 10,000～100,000 100,000～

2) - 3 沿岸

① 岩手県

岩手県では、沿岸の底質 2 地点において、平成 24 年 1 月～令和 6 年 11 月の間に 27 回の調査が実施された（なお、平成 23 年にのみ実施されている地点が 1 地点あるが、本解析では除外した）。

検出値（平均値）の濃度分布は、10 Bq/kg 未満の地点が 1 地点、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 1 地点であった（表 3.1.2-38 及び表 3.1.2-39 参照）。

また、増減傾向については、2 地点とも過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下であった。

表 3.1.2-38 各地点の検出値の区分評価結果（岩手県：沿岸底質）

濃度区分	該当地点数	対象地点
10Bq/kg未満	1	No.2
10～100Bq/kg	1	No.1
100～1,000Bq/kg	0	（該当なし）
1,000～10,000Bq/kg	0	（該当なし）
10,000～100,000Bq/kg	0	（該当なし）
100,000Bq/kg以上	0	（該当なし）

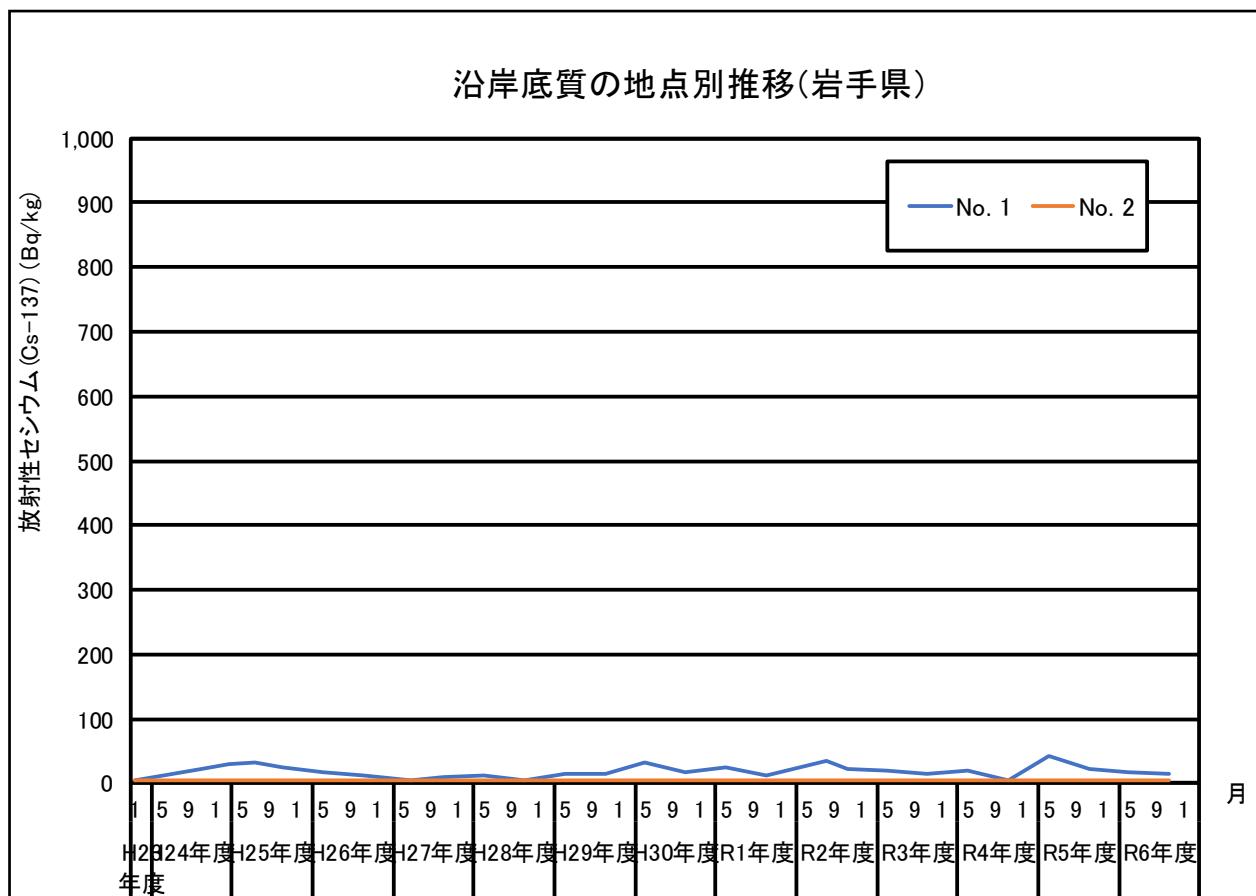
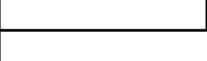


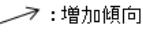
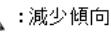
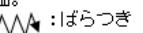
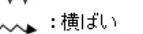
図 3.1.2-21 各地点の経年的な推移（岩手県：沿岸底質）

表 3.1.2-39 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（岩手県：沿岸底質）

採取地点		令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数	増減傾向 (※3)
No.	地点	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値			
1	大船渡湾(甲)	14	16	15	5	42	18		0.52	—
2	広田湾	5	5	5	5	5	5		0.00	—
全試料数	54	5	16	10	5	42	12			
検出回数	23									

※1:測定値はCs-137(Bq/kg-dry)。
 ※2:平均値は算術平均。検出下限値未満=5として算出。色分けは1)①の方法の区分評価。
 ※3:各地点の増減傾向を1)②の方法で分類した結果。

10未満	10～100	100～1,000	1,000～10,000	10,000～100,000	100,000～
------	--------	-----------	--------------	----------------	----------

 : 増加傾向
 : 減少傾向
 : ばらつき
 : 横ばい
 — : 100Bq/kg以下

② 宮城県

宮城県では、沿岸の底質 12 地点において、平成 23 年 10 月～令和 7 年 2 月の間に 27～125 回の調査が実施された（なお、平成 23 年にのみ実施されている地点が 28 地点あるが、本解析では除外した）。

検出値（平均値）の濃度分布は、10 Bq/kg 未満の地点が 5 地点、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 4 地点、100 以上 1,000 Bq/kg の地点が 3 地点であった（表 3.1.2-40 及び表 3.1.2-41 参照）。

また、増減傾向については、6 割以上の地点（8 地点）で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下で推移していた。残りの 4 地点では、3 地点で減少傾向、1 地点でばらつきがみられた。

表 3.1.2-40 各地点の検出値の区分評価結果（宮城県：沿岸底質）

濃度区分	該当地点数	対象地点
10Bq/kg未満	5	No. 3, No. 4, No. 5, No. 10, No. 12
10～100Bq/kg	4	No. 1, No. 6, No. 7, No. 11
100～1,000Bq/kg	3	No. 2, No. 8, No. 9
1,000～10,000Bq/kg	0	（該当なし）
10,000～100,000Bq/kg	0	（該当なし）
100,000Bq/kg以上	0	（該当なし）

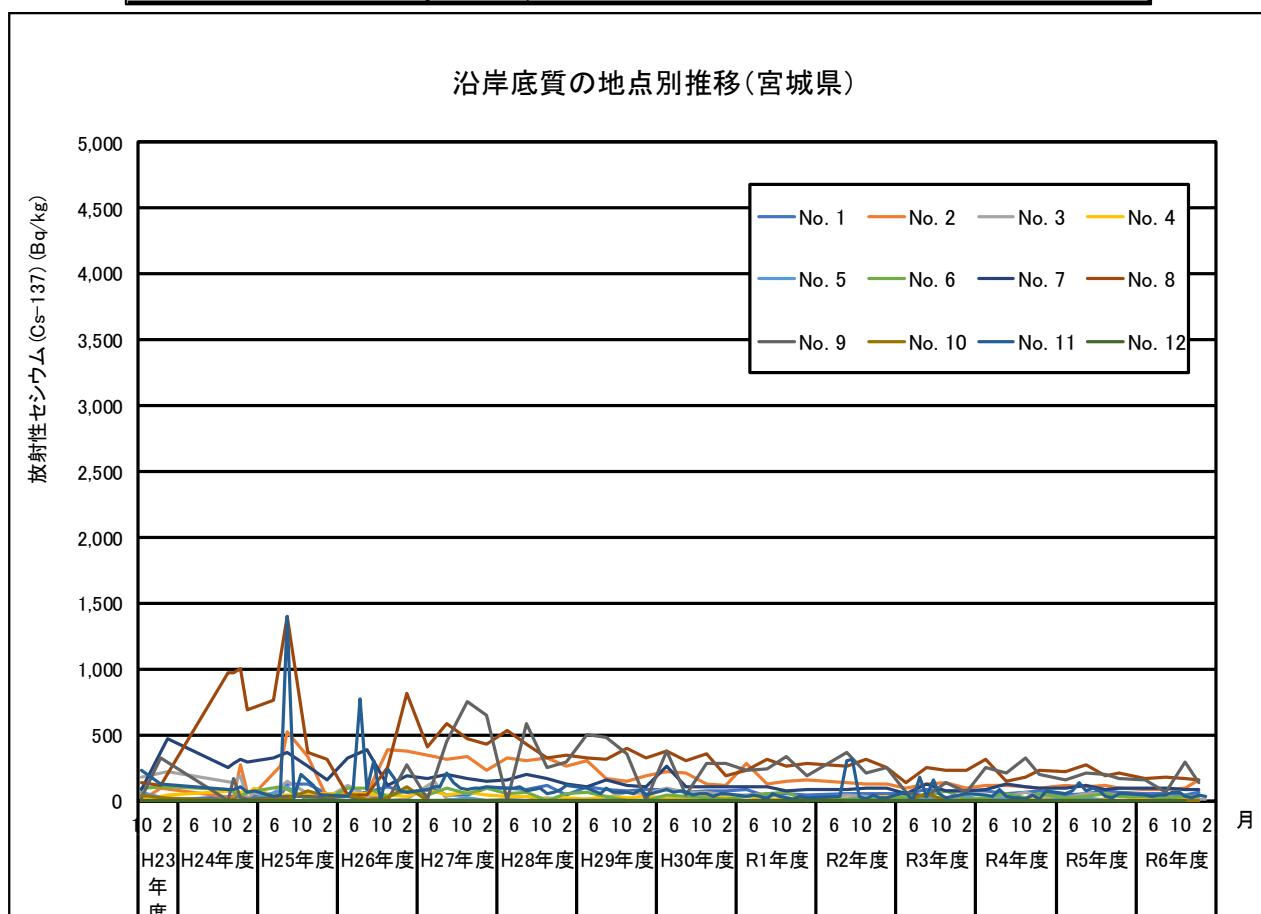


図 3.1.2-22 各地点の経年的な推移（宮城県：沿岸底質）

表 3.1.2-41 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（宮城県：沿岸底質）

採取地点		令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数	増減傾向 (※3)						
No.	地点	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値									
1	気仙沼湾(乙) 蜂ヶ崎沖	42	62	53	5	130	64		0.42	—						
2	気仙沼湾(丙) 大島北沖	83	160	106	5	520	176		0.63							
3	その他の全地先海域 追波湾(十三浜)	5	15	11	5	220	48		1.09	—						
4	石巻地先海域(丙) 万石浦M-6(湾中央)	5	16	10	5	92	29		0.74	—						
5	石巻地先海域(乙-3) 北上川河口沖	5	5	5	5	110	13		1.54	—						
6	石巻地先海域(丙) 鳴瀬沖	20	31	27	5	110	46		0.66	—						
7	松島湾(乙) 西浜	87	100	92	49	470	159		0.59							
8	仙台港地先海域(甲) 内港-4内	160	180	170	42	1,400	362		0.73							
9	仙台港地先海域(乙) 蒲生-3	61	290	163	5	750	204		0.88							
10	その他の全地先海域 井土-5	5	5	5	5	110	12		1.60	—						
11	阿武隈川河口沖	27	62	42	5	1,400	89		1.62	—						
12	津谷川河口沖	5	5	5	5	5	5		0.00	—						
全試料数		682	5	290	57	5	1,400	103								
検出回数		546	※1: 測定値はCs-137(Bq/kg-dry)。 ※2: 平均値は算術平均。検出下限値未満=5として算出。色分けは1)①の方法の区分評価。 ※3: 各地点の増減傾向を1)②の方法で分類した結果。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>10未満</td> <td>10～100</td> <td>100～1,000</td> <td>1,000～10,000</td> <td>10,000～100,000</td> <td>100,000～</td> </tr> </table>								10未満	10～100	100～1,000	1,000～10,000	10,000～100,000	100,000～
10未満	10～100	100～1,000	1,000～10,000	10,000～100,000	100,000～											

↗ : 増加傾向
 ↘ : 減少傾向
 ↙ : ばらつき
 ↖ : 横ばい
 — : 100Bq/kg以下

③ 福島県

福島県では、沿岸の底質 15 地点において、平成 23 年 10 月～令和 7 年 2 月の間に 118～131 回の調査が実施された（なお、平成 23 年度にのみ実施されている地点が 11 地点あるが、本解析では除外した）。

検出値（平均値）の濃度分布は、10 Bq/kg 未満の地点が 2 地点、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 10 地点、100 以上 1,000 Bq/kg 未満の地点が 3 地点であった（表 3.1.2-42 及び表 3.1.2-43 参照）。

また、増減傾向については、約 7 割の地点（10 地点）で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下で推移していた。残りの 5 地点では、全て減少傾向で推移していた。

表 3.1.2-42 各地点の検出値の区分評価結果（福島県：沿岸底質）

濃度区分	該当地点数	対象地点
10Bq/kg未満	2	No. 1, No. 3
10～100Bq/kg	10	No. 2, No. 4, No. 5, No. 6, No. 7, No. 10, No. 11, No. 12, No. 13, No. 15
100～1,000Bq/kg	3	No. 8, No. 9, No. 14
1,000～10,000Bq/kg	0	（該当なし）
10,000～100,000Bq/kg	0	（該当なし）
100,000Bq/kg以上	0	（該当なし）

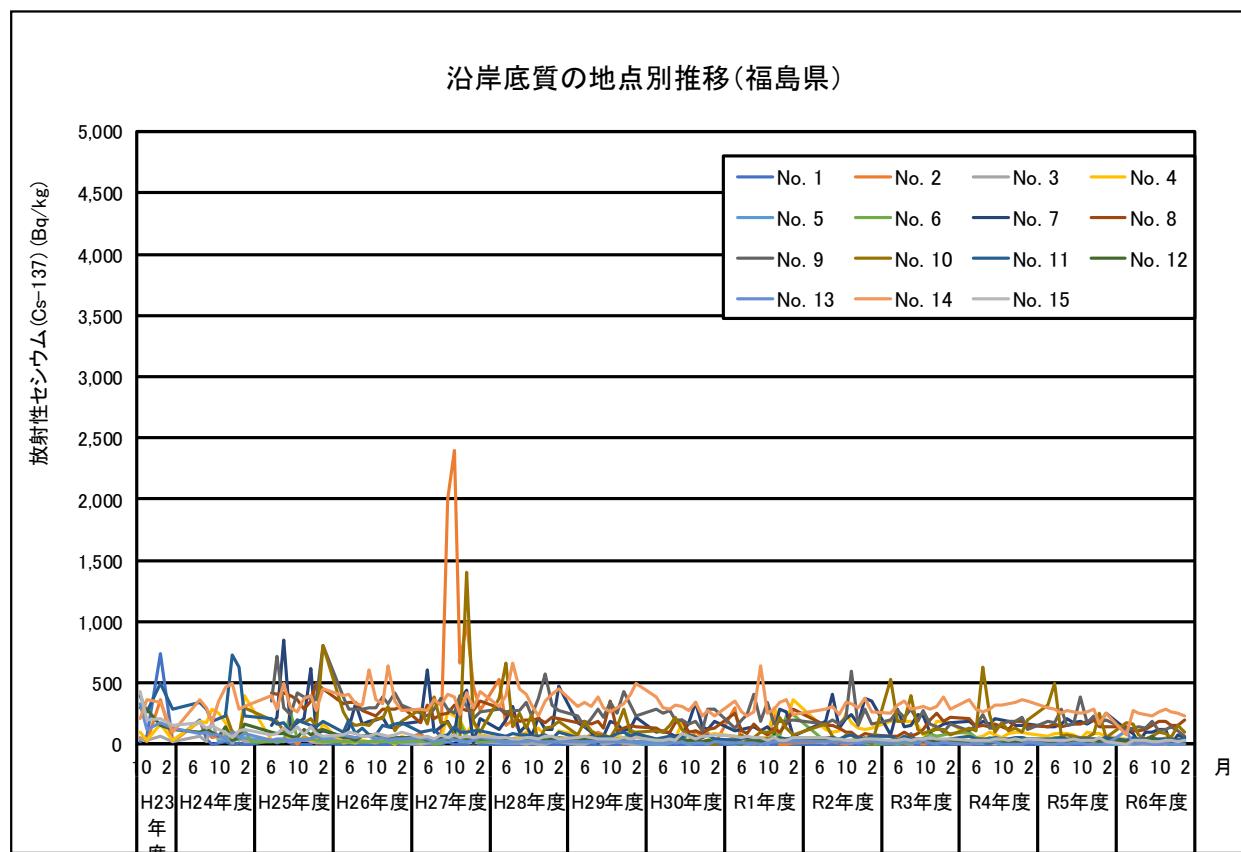


図 3.1.2-23 各地点の経年的な推移（福島県：沿岸底質）

表 3.1.2-43 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（福島県：沿岸底質）

No.	採取地点	令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数	増減傾向 (※3)	
		最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値				
1	相双地区地先海域	釣師浜漁港沖 約2000m付近	5	27	10	5	740	16		4.31	——
2	松川浦海域	漁業権区域区1号 中央付近	5	28	18	5	2,400	95		3.09	——
3	相双地区地先海域	真野川沖 約2000m付近	5	18	9	5	180	21		0.97	——
4	原町市(現:南相馬市原町区)地先海域	新田川沖 約1000m付近	11	48	33	5	400	89		0.83	——
5		太田川沖 約1000m付近	5	27	17	5	59	22		0.48	——
6	相双地区地先海域	小高川沖 約1000m付近	15	32	21	5	260	41		1.02	——
7		請戸川沖 約2000m付近	5	120	79	5	850	176		0.68	
8		熊川沖 約1000m付近	110	200	150	58	490	195		0.48	
9		富岡川沖 約1000m付近	63	180	124	63	1,100	254		0.53	
10		木戸川沖 約1000m付近	39	170	99	5	1,400	166		1.02	
11		浅見川河口沖 約1000m付近	35	58	44	27	730	100		1.05	——
12	いわき市地先海域	大久川河口沖 約1000m付近	10	59	21	5	300	45		0.97	——
13		夏井川沖 約1500m付近	5	110	17	5	330	31		1.25	——
14	小名浜港	西防波堤第2の北 約400m付近	76	290	236	76	660	322		0.28	
15	常磐沿岸海域	蛭田川沖 約1000m付近	5	35	26	5	430	62		0.78	——
全試料数		1,903	5	290	80	5	2,400	107			
検出回数		1,716	※1: 測定値はCs-137(Bq/kg-dry)。 ※2: 平均値は算術平均。検出下限値未満=5として算出。色分けは1)①の方法の区分評価。 ※3: 各地点の増減傾向を1)②の方法で分類した結果。								
			10未満	10~100	100~1,000	1,000~10,000	10,000~100,000	100,000~			

④ 茨城県

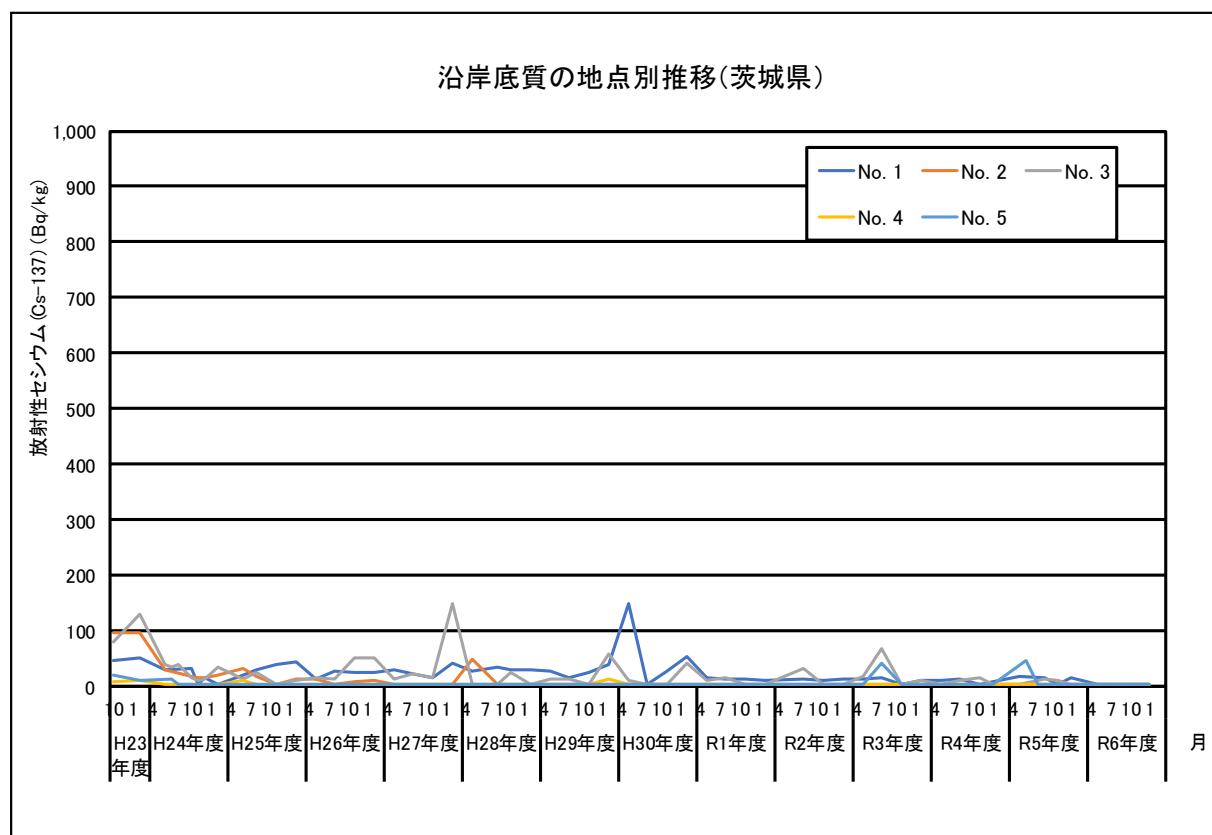
茨城県では、沿岸の底質 5 地点において、平成 23 年 10 月～令和 7 年 1 月の間に 54～56 回の調査が実施された（なお、平成 23 年にのみ実施されている地点が 18 地点あるが、本解析では除外した）。

検出値（平均値）の濃度分布は、全ての地点（5 地点）で 10 Bq/kg 未満であった（表 3.1.2-44 及び表 3.1.2-45 参照）。

また、増減傾向については、全ての地点（5 地点）で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下で推移していた。

表 3.1.2-44 各地点の検出値の区分評価結果（茨城県：沿岸底質）

濃度区分	該当地点数	対象地点
10 Bq/kg 未満	5	No. 1, No. 2, No. 3, No. 4, No. 5
$10 \sim 100 \text{ Bq/kg}$	0（該当なし）	
$100 \sim 1,000 \text{ Bq/kg}$	0（該当なし）	
$1,000 \sim 10,000 \text{ Bq/kg}$	0（該当なし）	
$10,000 \sim 100,000 \text{ Bq/kg}$	0（該当なし）	
$100,000 \text{ Bq/kg}$ 以上	0（該当なし）	



備考) 同一月に複数回調査を実施している地点については、平均値を用いて作図した。

図 3.1.2-24 各地点の経年的な推移（茨城県：沿岸底質）

表 3.1.2-45 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（茨城県：沿岸底質）

採取地点		令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数	増減傾向 (※3)												
No.	地点	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値															
1	里根川河口沖	5	5	5	5	150	23		0.95	——												
2	大北川河口沖	5	5	5	5	97	12		1.58	——												
3	茂宮川・久慈川河口沖	5	5	5	5	150	23		1.28	——												
4	県央地先水域 那珂川沖	5	5	5	5	14	5		0.32	——												
5	利根川河口沖	5	5	5	5	47	7		1.09	——												
全試料数	276	5	5	5	5	150	14	<p>※1: 測定値はCs-137(Bq/kg-dry)。 ※2: 平均値は算術平均。検出下限値未満=5として算出。色分けは1)①の方法の区分評価。 ※3: 各地点の増減傾向を1)②の方法で分類した結果。</p> <table border="1" style="margin-top: 10px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #a6c9e9;"></td> <td style="background-color: #a6c9e9;"></td> <td style="background-color: #a6c9e9;"></td> <td style="background-color: #82e0AA;"></td> <td style="background-color: #FFFF00;"></td> <td style="background-color: #FF9900;"></td> </tr> <tr> <td>10未満</td> <td>10～100</td> <td>100～1,000</td> <td>1,000～10,000</td> <td>10,000～100,000</td> <td>100,000～</td> </tr> </table>									10未満	10～100	100～1,000	1,000～10,000	10,000～100,000	100,000～
10未満	10～100	100～1,000	1,000～10,000	10,000～100,000	100,000～																	
検出回数	104																					

⑤ 千葉県、東京都

千葉県と東京都では、沿岸の底質 8 地点（千葉県 5 地点、東京都 3 地点）において、平成 24 年 5 月～令和 7 年 1 月の間に 52～90 回の調査が実施された。

検出値（平均値）の濃度分布は、10 Bq/kg 未満の地点が 2 地点、10 以上 100 Bq/kg 未満の地点が 6 地点であった（表 3.1.2-46 及び表 3.1.2-47 参照）。

また、増減傾向については、3/4（6 地点）の地点で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下で推移していた。残りの 2 地点では、全て減少傾向で推移していた。

表 3.1.2-46 各地点の検出値の区分評価結果（千葉県、東京都：沿岸底質）

濃度区分	該当地点数	対象地点
10 Bq/kg 未満	2	No. 1, No. 2
10～100 Bq/kg	6	No. 3, No. 4, No. 5, No. 6, No. 7, No. 8
100～1,000 Bq/kg	0	（該当なし）
1,000～10,000 Bq/kg	0	（該当なし）
10,000～100,000 Bq/kg	0	（該当なし）
100,000 Bq/kg 以上	0	（該当なし）

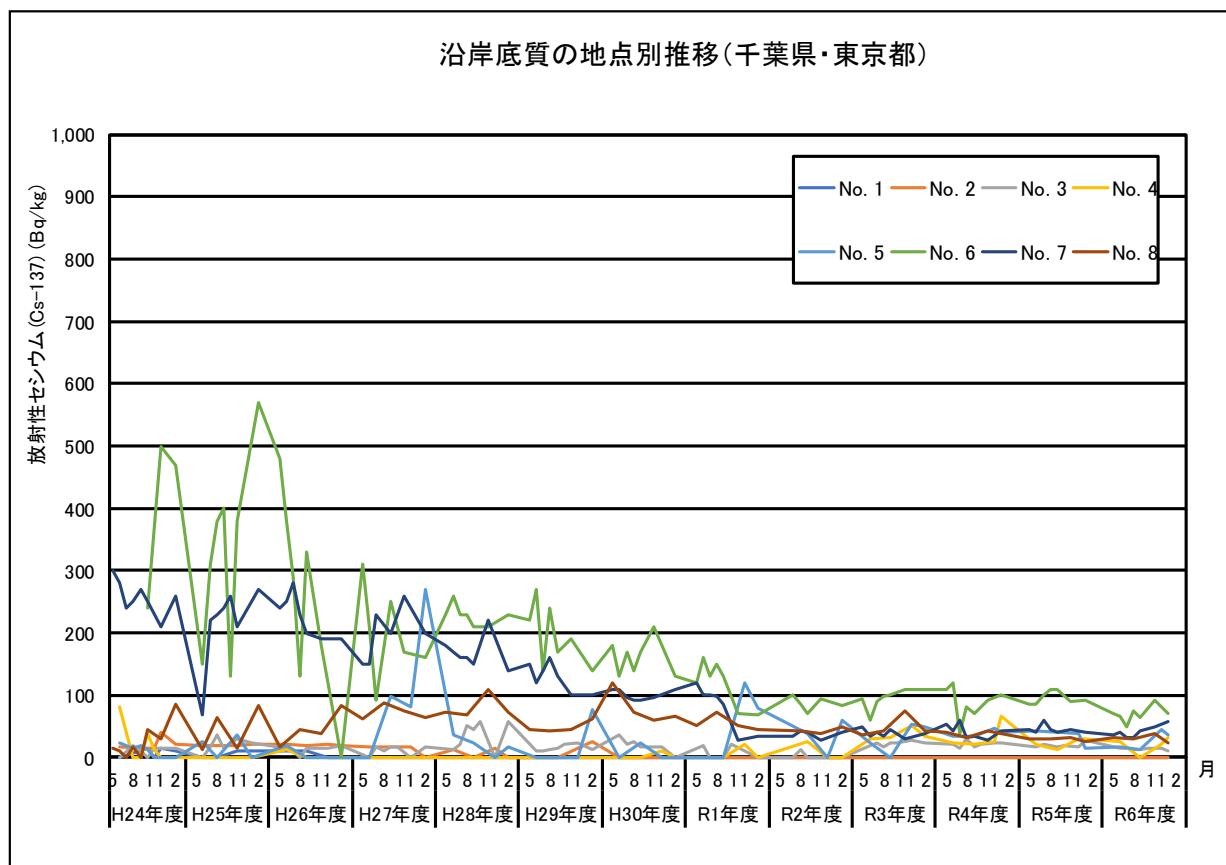


図 3.1.2-25 各地点の経年的な推移（千葉県、東京都：沿岸底質）

表 3.1.2-47 地点別にみた放射性セシウムの検出状況（千葉県、東京都：沿岸底質）

No.	自治体	採取地点		令和6年度			平成23～令和6年度			推移	変動係数	増減傾向 (※3)
		地点		最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値			
1	千葉県	東京湾7	養老川河口沖	5	5	5	5	15	6		0.43	——
2		東京湾5	都川河口沖	5	5	5	5	41	11		0.75	——
3		幕張前面	印旛沼放水路沖周辺	11	16	14	5	58	18		0.61	——
4		海老川河口沖 1km程度	京葉港沿岸 (海老川河口)	5	33	22	5	81	15		1.08	——
5		江戸川河口沖 1km程度	京葉港沿岸 (江戸川河口)	12	45	28	5	270	32		1.34	——
6	東京都	旧江戸川河口沖 1km程度	旧江戸川河口沖	49	93	70	5	570	171		0.67	
7		St-8	荒川・旧江戸川河口沖	32	57	41	27	300	125		0.68	
8		豊洲埠頭南西部付近	隅田川河口沖	24	38	31	5	120	48		0.52	——
全試料数		532		5	93	30	5	570	63			
検出回数		383										

※1: 測定値はCs-137(Bq/kg-dry)。

※2: 平均値は算術平均。検出下限値未満=5として算出。色分けは1)①の方法の区分評価。

※3: 各地点の増減傾向を1)②の方法で分類した結果。

10未満	10～100	100～1,000	1,000～10,000	10,000～100,000	100,000～
------	--------	-----------	--------------	----------------	----------

:増加傾向

:減少傾向

:ばらつき

:横ばい

—— :100Bq/kg以下

2) - 4 まとめ

公共用水域（河川、湖沼、沿岸）の底質の平成23年度～令和6年度の検出値の濃度分布及び増減傾向を総括すると、以下のとおりである。

① 地点別の濃度分布

公共用水域（河川、湖沼、沿岸）底質における地点平均値の濃度分布の推移を図3.1.2-26に示す。

・河川

経年的には、高濃度区分の地点が減少していた。

令和6年度は、396地点のうち検出下限値未満が96地点（24.2%）、10以上100Bq/kg未満が233地点（58.8%）、100以上1,000Bq/kg未満が65地点（16.4%）であり、100Bq/kg未満の地点が全体の約83%を占めていた。

・湖沼

経性的には、高濃度区分の地点が減少しているが、河川に比べ緩やかである。

令和6年度は、164地点のうち検出下限値未満が4地点（2.4%）、10以上100Bq/kg未満が44地点（26.8%）、100以上1,000Bq/kg未満が80地点（48.8%）であり、1,000Bq/kg未満の地点が全体の約78%を占めていた。

・沿岸

経性的には、高濃度区分の地点はみられない。

令和6年度は、42地点のうち検出下限値未満が14地点（33.3%）、10以上100Bq/kg未満が22地点（52.4%）、100以上1,000Bq/kg未満が6地点（14.3%）であり、100Bq/kg未満の地点が全体の約86%を占めていた。

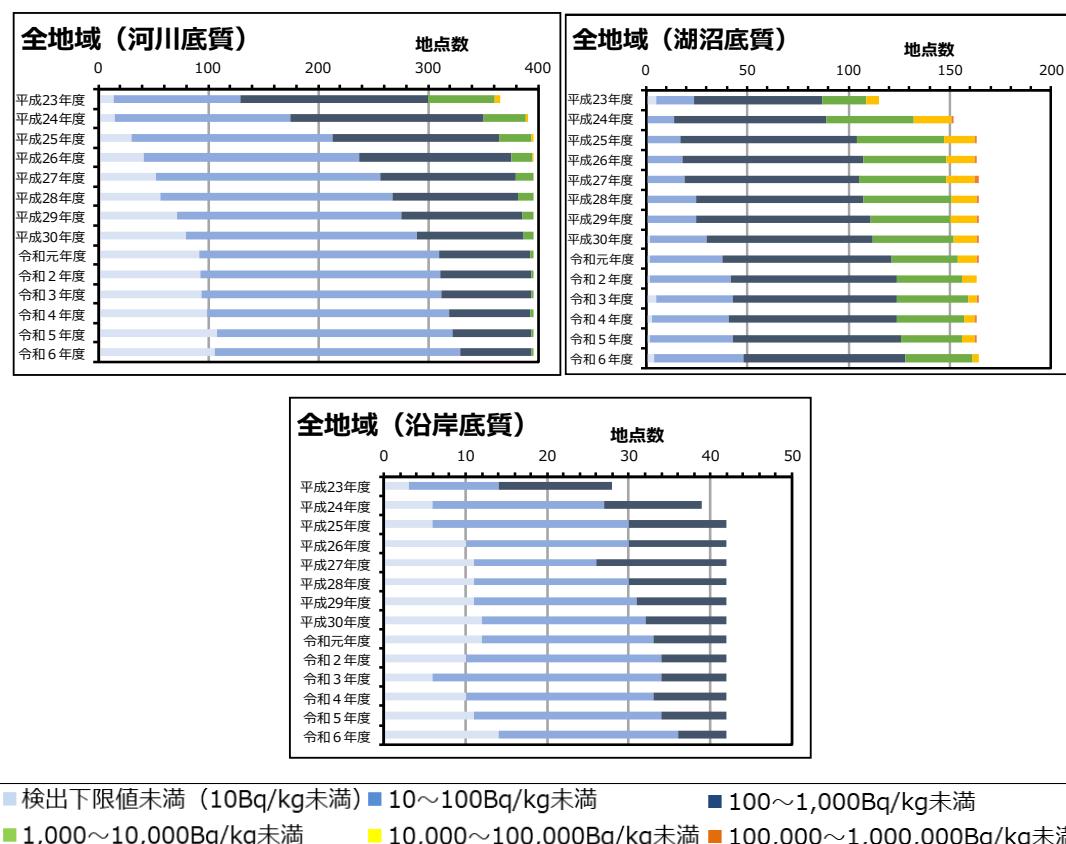


図3.1.2-26 地点平均値の濃度分布の推移

② 検出値の増減傾向

公共用水域(河川、湖沼、沿岸)底質の平成23年度～令和6年度における増減傾向を表3.1.2-48に示す。

・河川

6割以上の地点で過年度を含めた平均値が100Bq/kg以下であり、3割以上の地点が減少傾向で推移していた。増加傾向を示した地点はみられなかった。

・湖沼

1割以上の地点で過年度を含めた平均値が100Bq/kg以下であり、6割以上の地点が減少傾向で推移していた。増加傾向を示した地点は13地点(7.9%)であった。

・沿岸

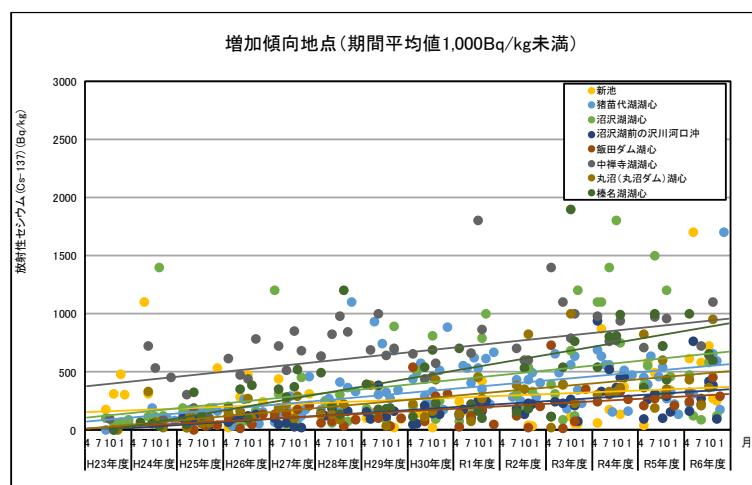
7割以上の地点で過年度を含めた平均値が100Bq/kg以下であり、2割以上の地点が減少傾向で推移していた。増加傾向を示した地点はみられなかった。

表3.1.2-48 公共用水域(河川、湖沼、沿岸)底質の増減傾向(平成23年度～令和6年度)

増減傾向	河川		湖沼		沿岸	
	地点数	比率	地点数	比率	地点数	比率
100Bq/kg以下	254	64.1%	24	14.6%	31	73.8%
減少傾向	137	34.6%	102	62.2%	10	23.8%
横ばい	0	0.0%	6	3.7%	0	0.0%
ばらつき	5	1.3%	19	11.6%	1	2.4%
増加傾向	0	0.0%	13	7.9%	0	0.0%
合計	396	100%	164	100%	42	100%

増加傾向を示した13地点^{※5}(いずれも湖沼)について、追加の解析を行った。

13地点のうち、8地点においては地点平均値が100以上1,000Bq/kg未満の濃度区分にあり、相対的に低い濃度区分内での変動であった(図3.1.2-27参照)。



⁵ 令和6年度より、解析に用いる放射性セシウムの値を、前年度までの合計値(Cs-134+Cs-137)による方法から、Cs-137の値に変更したため、増減傾向の解析結果についても、一部の地点で異なる結果になっている。

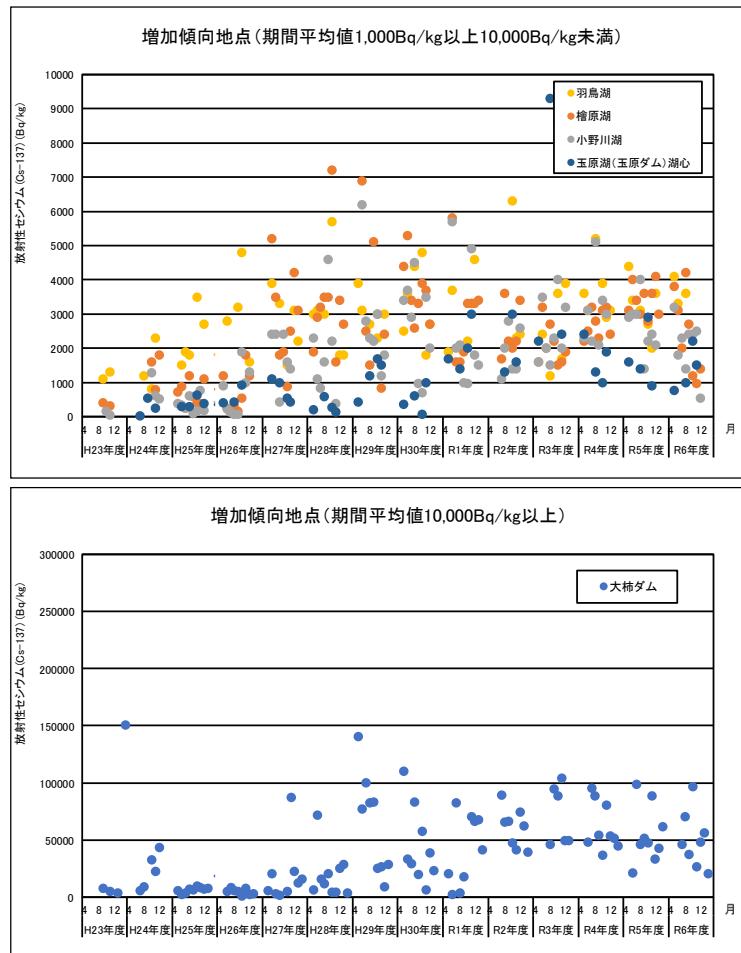
備考) 図中の直線は一次回帰式

図 3.1.2-27 増加傾向地点の濃度推移（地点平均値が 100 以上 1,000 Bq/kg 未満）

それ以外の 5 地点では、4 地点においては地点平均値が 1,000 以上 10,000 Bq/kg 未満の濃度区分、1 地点においては地点平均値が 10,000 以上 100,000 Bq/kg 未満の濃度区分であった（図 3.1.2-28 参照）。

これら 5 地点について、4 年間区間の移動平均を用いた解析を行った。平成 28～30 年度頃に一時的な濃度の上昇が見られる地点が多く、以後の期間で傾向の変化が見られたため、直近 5 年間における回帰分析を行った。回帰分析の結果、1 地点（大柿ダム）で減少傾向、2 地点（檜原湖、小野川湖）で横ばい、2 地点（羽鳥湖、玉原湖）でばらつきの傾向が示された。

いずれの地点についても、引き続き経過を監視していく。



備考) 図中の点線は4年間区間の移動平均

図 3.1.2-28 増加傾向地点の濃度推移 (地点平均値が1,000 Bq/kg以上)

③ 各県別の総括

検出値の濃度分布及び増減傾向について、各都県別に総括すると、以下のとおりである（図 3.1.2-29 及び図 3.1.2-30 参照）。

ア) 岩手県

- ・ 河川では、全ての地点（22 地点）において、年間平均値が 100 Bq/kg 未満であった。増減傾向については、全ての地点で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下であった。
- ・ 沿岸では、対象の 2 地点はいずれも年間平均値が 100 Bq/kg 未満であった。増減傾向については、2 地点とも過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下であった。

イ) 宮城県

- ・ 河川では、43 地点のうち年間平均値が 100 Bq/kg 未満の地点が 40 地点と約 9 割を占めており、100 Bq/kg 以上の地点は 3 地点であった。増減傾向については、6 割以上の地点で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下であり、残りの地点のうち、8 割以上の地点が減少傾向で推移していた。
- ・ 湖沼では、21 地点のうち、年間平均値が 100 Bq/kg 未満の地点が 18 地点と 8 割以上を占めており、100 Bq/kg 以上の地点は 3 地点のみであった。増減傾向については、約 3 割の地点で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下であり、残りの地点のうち、9 割以上の地点が減少傾向で推移していた。
- ・ 沿岸では、12 地点のうち、年間平均値が 100 Bq/kg 未満の地点が 9 地点と 3/4 を占めており、100 Bq/kg 以上の地点は 3 地点であった。増減傾向については、6 割以上の地点で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下であり、残りの地点のうち、約 8 割の地点が減少傾向で推移していた。

ウ) 福島県浜通り

- ・ 河川では、53 地点のうち、年間平均値が 100 Bq/kg 未満であった地点が 31 地点と半数以上を占めており、100 Bq/kg 以上の地点が 20 地点、1,000 Bq/kg 以上の地点は 2 地点のみであった。1,000 Bq/kg 以上の地点は、福島第一原発付近及び北～北西側に分布していた。増減傾向については 4 割程度の地点で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下であり、残りの地点のうち、9 割以上の地点が減少傾向で推移していた。
- ・ 湖沼では、41 地点のうち 1,000 Bq/kg 未満の地点は 19 地点であり、1,000 Bq/kg 以上の地点が 19 地点、10,000 Bq/kg 以上の地点が 3 地点であった。10,000 Bq/kg 以上の地点は、福島第一原発の北西側にみられた。増減傾向については、9 割の地点が減少傾向で推移していた。
- ・ 沿岸では、15 地点のうち、年間平均値が 100 Bq/kg 未満の地点が 12 地点と 8 割を占めており、100 Bq/kg 以上の地点は福島第一原発から 20 km 圏内及び小名浜港の計 5 地点であった。増減傾向については、約 7 割の地点で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下であり、残りの地点では、全ての地点が減少傾向で推移していた。

エ) 福島県中通り

- ・ 河川では、44 地点のうち、年間平均値が 100 Bq/kg 未満であった地点が 38 地点と 8 割以上を占めており、100 Bq/kg 以上の地点は 6 地点のみであった。増減傾向については、4 割程度の地点で過年度を含めた平均値が 100 Bq/kg 以下であり、残りの地点では、全ての地点が減少傾向で推移していた。
- ・ 湖沼では、12 地点のうち、年間平均値が 1,000 Bq/kg 未満の地点が 9 地点と全体の 3/4 を占め

ており、1,000 Bq/kg 以上の地点は3地点であった。増減傾向については、ばらつきがみられる地点が1/3あるものの、5割以上の地点では減少傾向で推移していた。

オ) 福島県会津

- ・ 河川では、26地点のうち、年間平均値が100 Bq/kg 未満の地点が25地点と9割以上を占めており、100 Bq/kg 以上の地点は1地点のみであった。増減傾向については、8割以上の地点で過年度を含めた平均値が100 Bq/kg 以下であり、残りの地点のうち、1地点ではばらつきがみられたが、それ以外の地点では減少傾向で推移していた。
- ・ 湖沼では、31地点のうち、年間平均値が1,000 Bq/kg 未満の地点が25地点と全体の約8割を占めており、1,000 Bq/kg 以上の地点は6地点であった。増減傾向については、約3割の地点で過年度を含めた平均値が100 Bq/kg 以下であり、残りの地点では、約5割の地点が減少傾向又は横ばいで推移していた。

カ) 茨城県

- ・ 河川では、53地点のうち、年間平均値が100 Bq/kg 未満の地点が43地点と8割以上を占めており、100 Bq/kg 以上の地点は10地点であった。霞ヶ浦流入河川で100 Bq/kg 以上の地点が多くみられた。増減傾向については、約6割の地点で過年度を含めた平均値が100 Bq/kg 以下であり、残りの地点では、全ての地点が減少傾向で推移していた。
- ・ 湖沼では、全ての地点（19地点）において、年間平均値が1,000 Bq/kg 未満であった。増減傾向については、3割以上の地点で過年度を含めた平均値が100 Bq/kg 以下であり、残りの地点のうち、約8割の地点が減少傾向で推移していた。
- ・ 沿岸では、全ての地点（5地点）において、年間平均値が100 Bq/kg 未満であった。増減傾向については、全ての地点で過年度を含めた平均値が100 Bq/kg 以下であった。

キ) 栃木県

- ・ 河川では、全ての地点（56地点）において、年間平均値が100 Bq/kg 未満であった。増減傾向については、9割以上の地点で過年度を含めた平均値が100 Bq/kg 以下であり、残りの地点は全ての地点が減少傾向で推移していた。
- ・ 湖沼では、全ての地点（8地点）において、年間平均値が1,000 Bq/kg 未満であった。増減傾向については、6割以上の地点が減少傾向又は横ばいで推移していた。

ク) 群馬県

- ・ 河川では、48地点のうち、年間平均値が100 Bq/kg 以上の地点が渡良瀬川水域の下流部で1地点みられたが、それ以外の地点は全て100 Bq/kg 未満であった。増減傾向については、約9割の地点で過年度を含めた平均値が100 Bq/kg 以下であり、残りの地点では、全ての地点が減少傾向で推移していた。
- ・ 湖沼では、24地点のうち、年間平均値が1,000 Bq/kg 未満の地点が20地点と8割以上を占めており、1,000 Bq/kg 以上の地点は4地点のみであった。増減傾向については、7割以上の地点が減少傾向又は横ばいで推移していた。

ケ) 千葉県、埼玉県、東京都

- ・ 河川では、51地点のうち、年間平均値が100 Bq/kg 未満の地点が27地点、100 Bq/kg 以上の地点が24地点であった。増減傾向については、2割以上の地点で過年度を含めた平均値が100 Bq/kg 以下であり、残りの地点のうち、9割以上の地点が減少傾向で推移していた。
- ・ 湖沼では、8地点のうち、年間平均値が1,000 Bq/kg 未満の地点が7地点であり、1,000 Bq/kg

以上の地点は1地点のみであった。増減傾向については、全ての地点が減少傾向で推移していた。

- ・ 沿岸では、全ての地点（8地点）において年間平均値が100 Bq/kg未満であった。増減傾向については、3/4の地点で過年度を含めた平均値が100 Bq/kg以下であり、残りの地点では全ての地点が減少傾向で推移していた。

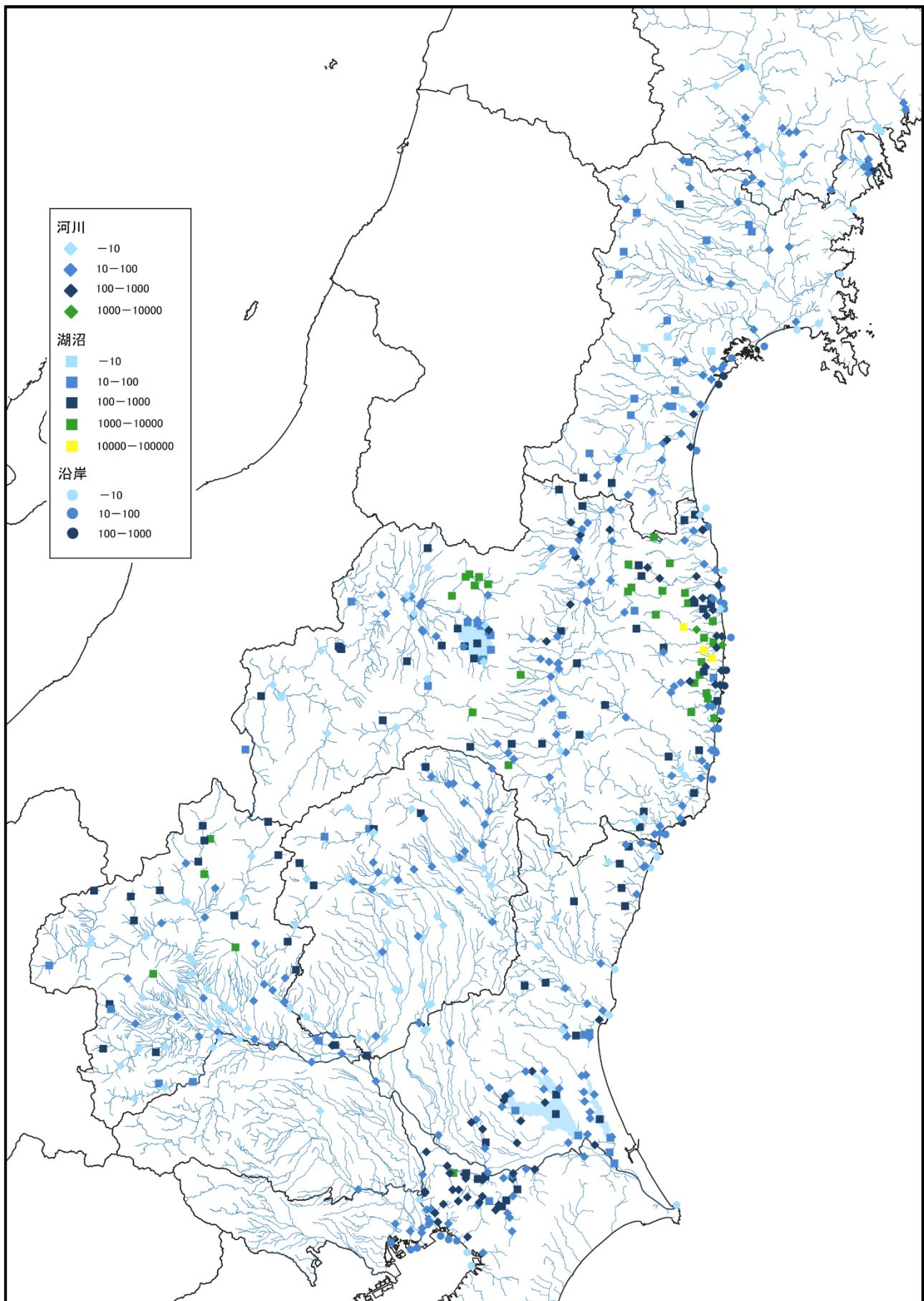


図 3.1.2-29 令和6年度公共用水域（河川・湖沼・沿岸底質）における地点別年間平均値の濃度分布

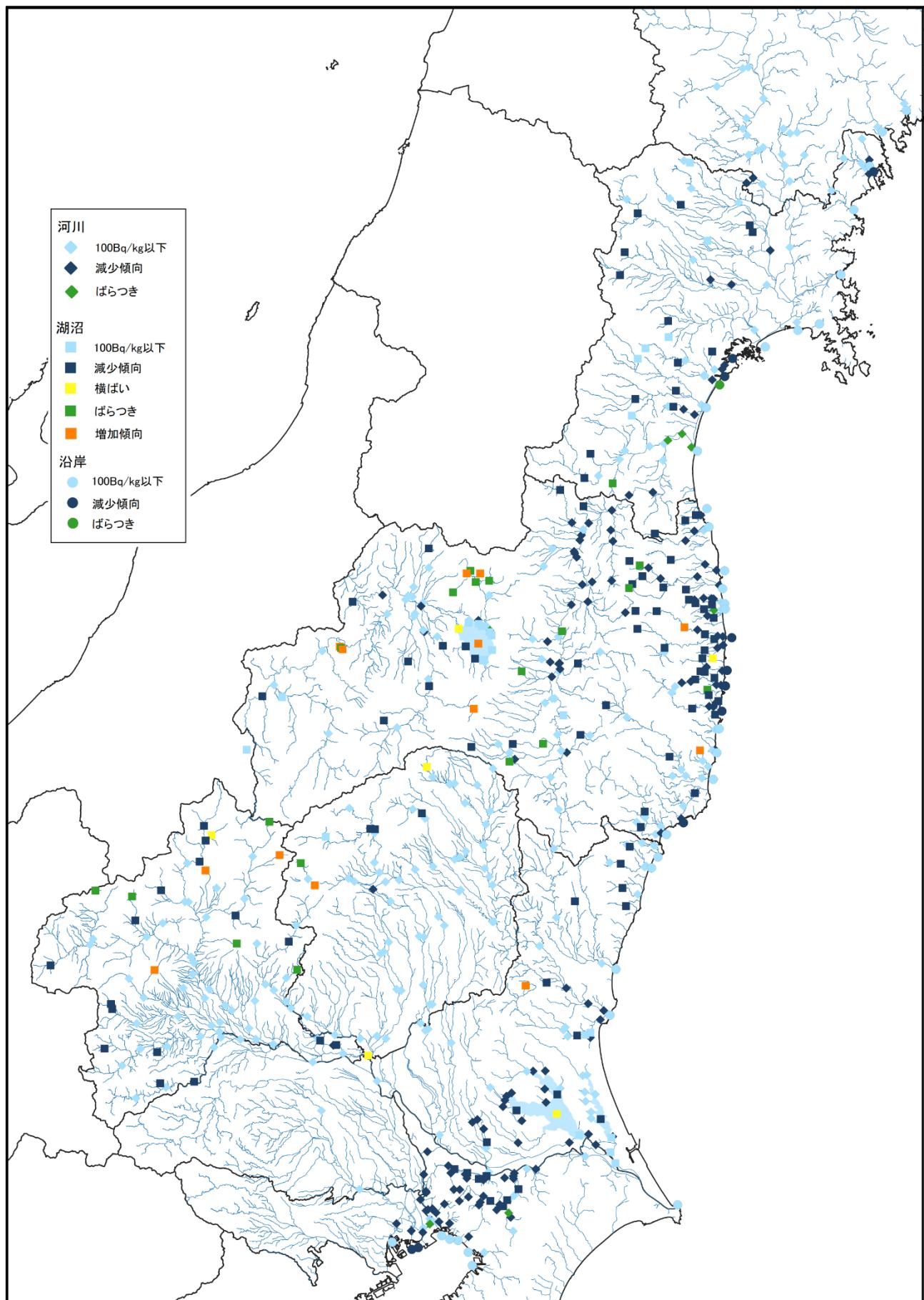


図 3.1.2-30 公共用水域（河川・湖沼・沿岸底質）の増減傾向分布

3. 2 調査結果（放射性セシウム以外の核種）

3. 2-1 放射性ストロンチウム（Sr-90 及び Sr-89）

Sr-90 については、平成 23 年度から令和 6 年度に公共用水域（河川、湖沼、沿岸）の底質（合計で 1,188 試料）及び地下水（合計で 663 試料）で調査を実施しており、平成 28 年度からは、公共用水域の底質において Sr-90 濃度が比較的高かった地点（平成 28 年度は 1.0 Bq/kg 以上、平成 29 年度以降は 10 Bq/kg 以上）について、水質（平成 28 年度は 45 試料、平成 29 ～30 年度は 3 試料、令和元年度、令和 4 年度、令和 5 年度は 2 試料）の調査も実施した（底質中の Sr-90 の検出状況は図 3.2-1 参照）。

Sr-89 については、平成 23 年度に河川及び湖沼で合計 22 試料を実施しているが、全て検出下限値未満であった（検出下限値：水質 1 Bq/L、底質 2 Bq/kg 程度）。

（1）公共用水域

放射性ストロンチウムについては、これまで原則として底質中の放射性セシウム濃度が高い地点で測定している（検出下限値：底質 Sr-90 1 Bq/kg 程度、Sr-89 2 Bq/kg 程度）。

また、平成 28 年度からは、公共用水域（湖沼）底質において Sr-90 濃度が比較的高かった地点（平成 28 年度は 1.0 Bq/kg 以上、平成 29 年度以降は 10 Bq/kg 以上）があった場合に、同日採取した水質について、Sr-90 を調査している（検出下限値：水質 Sr-90 1 Bq/L 程度）。一方、Sr-89 は、平成 23 年度にのみ 22 試料（河川 13 試料、湖沼 9 試料）について実施されたが、全て検出下限値未満であり、平成 24 年度以降は調査を実施していない。

1) 底質

① 河川

河川底質中の Sr-90 は、令和 6 年度は 1 試料の調査が実施され、検出下限値未満であった（検出率 0.0%）（表 3.2-1、図 3.2-1 参照）。

② 湖沼

湖沼底質中の Sr-90 は、令和 6 年度は 21 試料の調査が実施され、19 試料で検出が認められた（表 3.2-1 参照）。

都県別では、調査を実施している各県で令和 6 年度まで継続的に検出されている。

地点別にみると、平成 28 年 8 月に農業用ため池の丈六で 100 Bq/kg 検出されて以降は低いレベルで推移しており、令和 6 年度の測定値の範囲は 0.4～5.5 Bq/kg となっている（図 3.2-1 参照）。

③ 沿岸

沿岸底質中の Sr-90 については、平成 29 年度及び平成 30 年度に全地点で検出下限値未満となったため、令和元年度以降は調査を実施していない。

2) 水質

水質中の Sr-90 については、令和 6 年度は底質試料において Sr-90 濃度が 10Bq/kg 以上の地点がなかったため実施しなかった。

表 3.2-1 河川底質、湖沼底質、沿岸底質での Sr-90 の検出状況

属性	都県	令和6年度				令和2～令和6年度			
		試料数	検出数	検出率 (%)	測定値の範囲 [Bq/kg]	試料数	検出数	検出率 (%)	測定値の範囲 [Bq/kg]
河川	宮城県	0	-	-	-	4	3	75.0	検出下限値 未調査 ~ 0.46
	福島県	1	0	0.0	-	17	12	70.6	検出下限値 未調査 ~ 0.8
	茨城県	0	-	-	-	8	5	62.5	検出下限値 未調査 ~ 0.79
	千葉県	0	-	-	-	15	5	33.3	検出下限値 未調査 ~ 0.48
	合計	1	0	0.0	-	44	25	56.8	検出下限値 未調査 ~ 0.80
湖沼	宮城県	0	-	-	-	5	5	100.0	0.51 ~ 0.95
	福島県	9	9	100.0	1.5 ~ 5.5	107	107	100.0	0.37 ~ 1.2
	茨城県	0	-	-	-	9	8	88.9	検出下限値 未調査 ~ 1.1
	栃木県	1	1	100.0	0.93	9	9	100.0	0.46 ~ 1.0
	群馬県	9	7	77.8	検出下限値 未調査 ~ 1.5	39	37	94.9	検出下限値 未調査 ~ 2.0
	千葉県	2	2	100.0	0.4 ~ 0.42	14	14	100.0	0.31 ~ 0.8
	合計	21	19	90.5	検出下限値 未調査 ~ 5.5	183	180	98.4	検出下限値 未調査 ~ 12

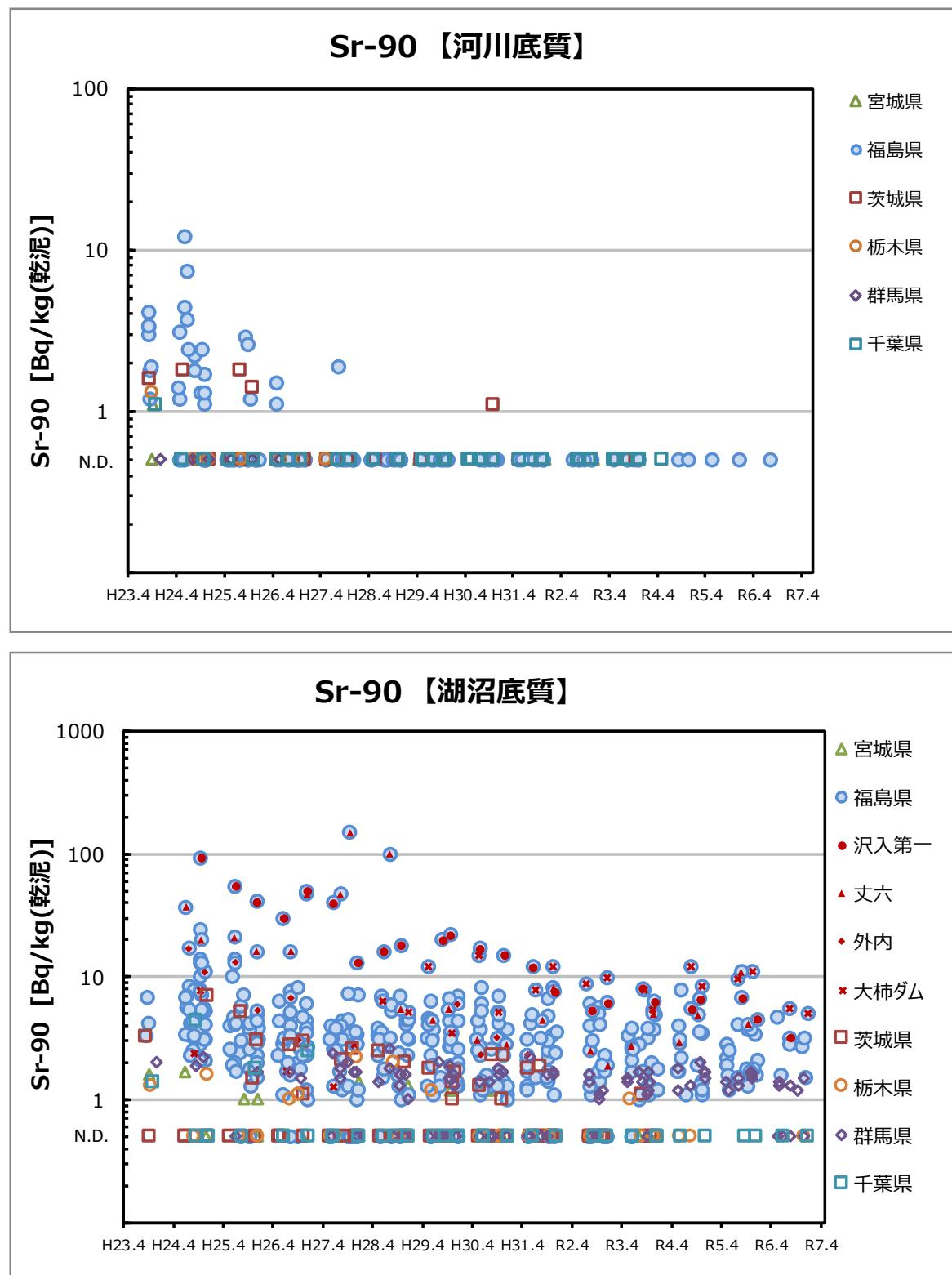


図 3.2-1 公共用水域における底質中の Sr-90 の検出状況（上：河川、下：湖沼）

(2) 地下水

地下水での Sr-89* 及び Sr-90 に関する調査は、平成 24 年 1 月～令和 6 年 11 月に福島県において、663 試料の調査が実施された（検出下限目標値：水質 1 Bq/L、底質 2 Bq/kg 程度）。

調査結果の概要は表 3.2-2 に示すとおりであり、全ての試料で Sr-89 及び Sr-90 は検出下限値（1 Bq/L）を下回った。

表 3.2-2 地下水での Sr-89 及び Sr-90 の検出状況（実施場所は全て福島県）

年度	Sr-90				Sr-89			
	試料数	検出数	検出率 [%]	検出値の範囲 [Bq/L] (※1)	試料数	検出数	検出率 [%]	検出値の範囲 [Bq/L] (※1)
平成23年度	8	0	0.0	検出下限値未満	8	0	0.0	検出下限値未満
平成24年度	60	0	0.0	検出下限値未満	60	0	0.0	検出下限値未満
平成25年度	77	0	0.0	検出下限値未満	77	0	0.0	検出下限値未満
平成26年度	48	0	0.0	検出下限値未満	48	0	0.0	検出下限値未満
平成27年度	48	0	0.0	検出下限値未満	48	0	0.0	検出下限値未満
平成28年度	48	0	0.0	検出下限値未満	48	0	0.0	検出下限値未満
平成29年度	48	0	0.0	検出下限値未満	48	0	0.0	検出下限値未満
平成30年度	48	0	0.0	検出下限値未満	48	0	0.0	検出下限値未満
令和元年度	48	0	0.0	検出下限値未満	48	0	0.0	検出下限値未満
令和2年度	48	0	0.0	検出下限値未満	48	0	0.0	検出下限値未満
令和3年度	48	0	0.0	検出下限値未満	48	0	0.0	検出下限値未満
令和4年度	47	0	0.0	検出下限値未満	47	0	0.0	検出下限値未満
令和5年度	45	0	0.0	検出下限値未満	45	0	0.0	検出下限値未満
令和6年度	42	0	0.0	検出下限値未満	—	—	—	—
合計	663	0	0.0	検出下限値未満	621	0	0.0	検出下限値未満

※1：検出下限値を 1 Bq/L として整理した。

なお、Sr-90 の検出下限値は、平成 23 年度は 0.0002Bq/L で、それ以降は 1 Bq/L、同様に Sr-89 の検出下限値は、平成 23 年度は 0.001Bq/L で、それ以降は 1 Bq/L である。

Sr-90 については平成 23 年度（暦年では平成 24 年）の調査では 8 試料の全てで検出され、検出値の範囲は 0.0004 ~ 0.0029Bq/L であった。また、同様に Sr-89 については平成 23 年度（暦年では平成 24 年）の調査では検出下限値を 0.001Bq/L としていたが、8 試料全てで検出下限値未満であった。

3. 2-2 その他の γ 線核種

前述の放射性核種測定のほか、ゲルマニウム半導体測定器による分析を行った水質、底質等について測定データの解析を行い、Cs-134、Cs-137、Sr-89 及び Sr-90 以外の事故由来放射性核種 (Ag-110m、Te-129m、Nb-95、Sb-125、Ce-144 等⁶⁾ 及び主な自然放射性核種 (K-40 等) の測定を平成 23～令和 6 年度に実施した。その結果の概要は、表 3.2-3 及び表 3.2-4 に示すとおりである。

検出された核種のうち、人工核種は水質では検出されず、平成 23、24 年度に底質では Ag-110m 及び Sb-125 の 2 核種が検出されたが、検出率は 1% 以下であった。平成 25 年度以降は両核種とも検出されていない。

また、自然核種は K-40、Pb-212、Pb-214、Tl-208、Ac-228、Bi-214 等が検出されたが、K-40 は地球形成過程で取り込まれた自然核種であり、その他の核種はいずれもウラン系列又はトリウム系列の核種で地殻等の自然中に広く存在するものである。

⁶⁾ 事故由来放射性核種のうち、I-131 については、平成 23 年度から平成 24 年度に公共用水域の水質（河川で 3,111 試料、湖沼で 1,416 試料、沿岸で 715 試料）及び底質（河川で 3,073 試料、湖沼で 877 試料、沿岸で 393 試料）、平成 23 年度から平成 26 年度に地下水（3,793 試料）の調査を実施し、全てにおいて検出されなかった（検出下限値：水質 1 Bq/L、底質 10 Bq/kg）。

表 3.2-3 その他の放射性核種の検出状況調査結果（水質）

年度	試料数	検出された主な人工核種		検出された主な自然核種	
		核種	出現状況(検出率、検出値)	核種	出現状況(検出率)
平成23年度	1,755	—	—	K-40	10 %
平成24年度	3,518	—	—	K-40	6 %
平成25年度	3,860	—	—	K-40	13 %
平成26年度	3,856	—	—	K-40	10 %
平成27年度	3,916	—	—	K-40	7 %
				Pb-212	7 %
				Pb-214	9 %
平成28年度	3,890	—	—	K-40	8 %
				Pb-212	17 %
				Pb-214	10 %
平成29年度	3,836	—	—	K-40	7 %
				Pb-214	8 %
平成30年度	3,936	—	—	K-40	8 %
				Pb-214	7 %
令和元年度	3,896	—	—	K-40	8 %
				Bi-214	10 %
				Pb-214	14 %
令和2年度	2,863	—	—	K-40	8 %
				Bi-214	3 %
				Pb-214	6 %
令和3年度	3,957	—	—	K-40	10 %
				Bi-214	2 %
				Pb-214	1 %
令和4年度	3,922	—	—	K-40	10 %
				Bi-214	1 %
				Pb-214	1 %
				Ra-226	1 %
令和5年度	3,918	—	—	K-40	11 %
				Bi-214	1 %
				Pb-214	1 %
				Ra-226	1 %
令和6年度	3,901	—	—	K-40	11 %
				Bi-214	1 %
				Ra-226	1 %

表 3.2-4 (1) その他の放射性核種の検出状況調査結果（底質）

年度	試料数	検出された主な人工核種		検出された主な自然核種	
		核種	出現状況(検出率、検出値)	核種	出現状況(検出率)
平成 23 年度	1,559	Ag-110m	4 試料(0.26%) 46~170 Bq/kg	K-40	79 %
				Pb-212	41 %
				Pb-214	16 %
				Tl-208	14 %
平成 24 年度	2,885	Ag-110m	26 試料(0.90%) 7.9~350 Bq/kg	Ac-228	41 %
				Bi-214	43 %
				K-40	97 %
		Sb-125	3 試料(0.10%) 140~420 Bq/kg	Pb-212	75 %
				Pb-214	44 %
				Tl-208	39 %
平成 25 年度	3,062	—	—	Ac-228	25 %
				Bi-214	25 %
				K-40	91 %
				Pb-212	49 %
				Pb-214	23 %
				Tl-208	23 %
平成 26 年度	3,035	—	—	Ac-228	24 %
				Bi-214	24 %
				K-40	91 %
				Pb-212	48 %
				Pb-214	24 %
				Tl-208	24 %
平成 27 年度	3,158	—	—	Ac-228	32 %
				Bi-214	60 %
				K-40	88 %
				Pb-212	63 %
				Pb-214	67 %
				Tl-208	37 %
平成 28 年度	3,088	—	—	Ac-228	35 %
				Bi-214	66 %
				K-40	92 %
				Pb-212	64 %
				Pb-214	75 %
				Tl-208	40 %
平成 29 年度	3,056	—	—	Ac-228	45 %
				Bi-214	35 %
				K-40	92 %
				Pb-212	73 %
				Pb-214	80 %
				Tl-208	46 %
平成 30 年度	3,128	—	—	Ac-228	41 %
				Bi-214	37 %
				K-40	93 %
				Pb-212	71 %
				Pb-214	83 %
				Tl-208	44 %

備考) 人工核種（検出核種）の検出下限値は Ag-110m が 7~180 Bq/kg、Sb-125 が 130~330 Bq/kg

表 3.2-4 (2) その他の放射性核種の検出状況調査結果（底質）

年度	試料数	検出された主な人工核種		検出された主な自然核種	
		核種	出現状況(検出率、 検出値)	核種	出現状況(検出率)
令和元年度	3,128	—	—	Ac-228	46 %
				Bi-214	56 %
				K-40	96 %
				Pb-212	74 %
				Pb-214	89 %
				Tl-208	44 %
令和2年度	2,272	—	—	Ac-228	44 %
				Bi-214	87 %
				K-40	97 %
				Pb-212	71 %
				Pb-214	91 %
				Tl-208	46 %
令和3年度	3,117	—	—	Ac-228	31 %
				Bi-214	37 %
				K-40	95 %
				Pb-212	73 %
				Pb-214	44 %
				Tl-208	39 %
令和4年度	3,110	—	—	Ac-228	36 %
				Bi-214	42 %
				K-40	95 %
				Pb-212	78 %
				Pb-214	49 %
				Tl-208	45 %
令和5年度	3,112	—	—	Ac-228	37 %
				Bi-214	41 %
				K-40	96 %
				Pb-212	82 %
				Pb-214	51 %
				Tl-208	46 %
令和6年度	3,105	—	—	Pb-212	85 %
				Pb-214	56 %
				Tl-208	50 %
				Bi-214	47 %
				Ac-228	40 %
				K-40	97 %